

本資料は2000年 3月 31日付けで登録区分
変更する。

東濃地科学センター 【研究調整グループ】

断層に関する文献の収集

(動力炉・核燃料開発事業団 契約業務報告書)

1993年 3月

株式会社 ダイヤコンサルタント

本資料は、核燃料サイクル開発機構の開発業務を進めるために作成されたものです。
したがって、その利用は限られた範囲としており、その取扱には十分な注意を払っ
てください。この資料の全部又は一部を複写・複製・転載あるいは引用する場合、
特別の許可を必要としますので、下記にお問い合わせ下さい。

~~〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松 4 番地 49~~
~~核燃料サイクル開発機構~~
~~技術展開部 技術協力課~~

~~Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:~~
~~Technical Cooperation Section,~~
~~Technology Management Division~~
~~Japan Nuclear Cycle Development Institute~~
~~4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184~~
~~Japan~~

©核燃料サイクル開発機構
(Japan Nuclear Cycle Development Institute)
1993

本文の全部または一部を複写・複製・転載する場合は、下記にお問い合わせ下さ
い。

〒319-1184 茨城県那珂郡東海村村松 4 番地 49
核燃料サイクル開発機構
技術展開部 技術協力課

Inquiries about copyright and reproduction should be addressed to:
Technical Cooperation Section,
Technology Management Division
Japan Nuclear Cycle Development Institute
4-49 Muramatsu, Tokai-mura, Naka-gun, Ibaraki 319-1184
Japan

する
内容
保持に

~~〒500-51~~
~~岐阜県土岐市泉町定林寺字園戸959-31~~
~~動力炉・核燃料開発事業団~~
~~中部事業所~~
~~技術開発課~~

断層に関する文献の収集

(動力炉・核燃料開発事業団 契約業務報告書)

1993年3月

株式会社 ダイヤコンサルタント



— 限 定 資 料 —

PNC 4J7308 93-003 Vol.1

1 9 9 3 年 3 月

断層に関する文献の収集

米 田 茂 夫 *

要 旨

断層活動による地質環境の長期安定性への影響を評価するためには、断層活動に関する既存データを収集・解析し、その発生の可能性及び変動の規模、活動の時間的・空間的变化などの特性を把握することが重要である。本調査では、日本における断層活動の時間的・空間的变化の解析のためのデータを得るために、断層活動の場が移動した可能性のある34断層（中央構造線を赤石・紀伊半島と四国に区分）について文献の収集を実施した。さらに、これらの断層毎に文献リストを作成するとともに、基本的特性の整理を行った。

文献の収集・リストの作成及び基本的特性の整理は、「〔新編〕日本の活断層分布図と資料」（活断層研究会編，1991）に基づき実施したが、文献の収集については容易に入手できる公表文献とした。調査の結果では、各断層毎の文献数の合計は743件であるが、複数の断層を記載した文献があるため、実際の収集文献数は338件である。収集文献については別冊の文献集に、文献リスト及び断層の基本的特性については報告書の巻末にそれぞれとりまとめた。

本報告書は株式会社ダイヤコンサルタントが動力炉・核燃料開発事業団との契約により実施した調査の成果である。

契約番号：04C1006

事業団担当部課室および担当者：中部事業所 環境地質課課長 湯佐泰久

* 株式会社ダイヤコンサルタント 名古屋支店

目 次

1. ま え が き	-----	1
2. 調 査 概 要	-----	2
3. 文 献 の 収 集	-----	3
3.1 収 集 対 象 断 層	-----	3
3.2 収 集 の 方 法	-----	5
3.3 収 集 文 献 数	-----	6
3.4 収 集 文 献 リ ス ト	-----	8
4. 断 層 の 基 本 的 特 性 の 整 理	-----	10

（ 巻 末 資 料 ）

- ・ 文 献 リ ス ト
- ・ 断 層 の 基 本 的 特 性 一 覧 表

（ そ の 他 納 入 品 ）

- ・ 収 集 文 献
- ・ フ ロ ッ ピ ー デ ィ ス ク （ 収 集 文 献 リ ス ト ・ 断 層 の 基 本 的 特 性 一 覧 表 ）

図 表 目 次

図 3.1 収 集 対 象 断 層 位 置 図	-----	4
表 3.1 文 献 収 集 の 対 象 断 層	-----	3
表 3.2 収 集 文 献 数 一 覧 表	-----	6
表 4.1 平 均 変 位 速 度 に よ る 活 断 層 の 活 動 度 の 分 類 (松 田, 1975)	-----	11
表 4.2 断 層 変 位 地 形 の 主 な 用 語 (松 田 ほ か, 1977 を 一 部 改 変)	-----	12

1. まえがき

我が国における地質環境の長期安定性を把握するためには、様々な天然事象の影響を評価する必要があるが、我が国では断層活動が特に考慮すべき重要な天然事象の一つである。一方、断層活動による地質環境の長期安定性への影響を評価するためには、断層活動に関する既存のデータを収集・解析し、発生の可能性や変動の規模、活動の時間的・空間的变化などの特性を把握する必要がある。このため本調査では、我が国における断層活動の時間的・空間的变化について解析するためのデータを得るために、断層活動の場が移動した可能性のある34断層（中央構造線を赤石・紀伊半島と四国に区分）に関する文献の収集を目的としている。

本調査は、断層活動に関する検討を行うための基礎資料を得るために実施したものであるため、文献の収集や断層の基本的な特性については、「〔新編〕日本の活断層 分布図と資料」（活断層研究会編，1991）に基づき実施した。その結果では、各断層毎の文献数の合計は743件であるが、文献により複数の断層の記載があるため収集文献数は338件である。収集文献については別冊の文献集に、文献リスト及び断層の基本的特性一覧表については巻末にとりまとめた。

今回対象とした34断層については、本調査で主要な文献を収集したため、今後はこれらの文献を基に断層の活動性について検討を行い、その評価を行う必要がある。また、活動性の検討の過程で、詳細に検討するための調査も必要となることも考えられる。

2. 調査の概要

1) 件名：断層に関する文献の収集

2) 目的：断層活動による地質環境の長期安定性への影響を評価するためには、断層活動に関する既存のデータを収集・解析し、その発生の可能性及び変動の規模、活動の時間的・空間的变化などの特性を把握することが重要である。

本調査は、日本における断層活動の時間的・空間的变化の解析のためのデータを得るため、断層活動の場が移動した可能性のある断層に関する文献の収集を行うものである。

3) 内容：①断層活動の場が移動した可能性のある主要断層に関する文献の収集
・公表文献の収集

②断層活動の場が移動した可能性のある断層の基本的特性の整理
・文献収集を実施した主要断層の基本的特性の概略のまとめ

③収集文献のリスト作成
・収集文献を断層別に整理する。

4) 数量：収集文献数 338文献

5) 期間：自；平成5年1月21日
至；平成5年3月19日

6) 委託者：動力炉・核燃料開発事業団 中部事業所環境地質課

7) 受託者：株式会社ダイヤコンサルタント 名古屋支店

3. 文献の収集

3.1 収集対象断層

文献収集の対象断層は、表 3.1 に示す断層活動の場が移動した可能性のある断層である。対象断層の位置は、図 3.1 に示すとおりである。

表 3.1 文献収集の対象断層

地 域	断 層 名	番 号
北 海 道	開陽断層－古多糠断層	1
	網走湖東方断層群	2
	十勝平野東縁断層群	3
	石狩低地西縁断層群	4
	岩見沢・馬追断層系	5
	函館平野西縁断層	6
東 北	花輪盆地東縁断層系	7
	能代・森岳断層	8
	南昌山・上平断層	9
	駒ヶ岳西縁断層群	10
	西根断層群	11
	千屋断層	12
	庄内平野東縁断層	13
	山形盆地北部西縁断層	14
	長井西断層	15
関 東	深谷・平井断層	16
	平山断層	17
中 部	長野盆地西縁断層帯	18
	糸魚川－静岡構造線	19
	富士山南西麓断層系	20
	伊那谷断層系	21
	阿寺断層	22
	屏風山断層	23
	福井平野東縁断層群	24
	一志断層系	25
近 畿	白木・明星山断層群	26
	比良断層	27
	生駒断層	28
	上町断層	29
	三百・羽曳野・天理撓曲	30
	葛城断層	31
	中央構造線（赤石・紀伊半島）	32
四 国	中央構造線（四国）	33
九 州	高城一月ヶ平撓曲	34

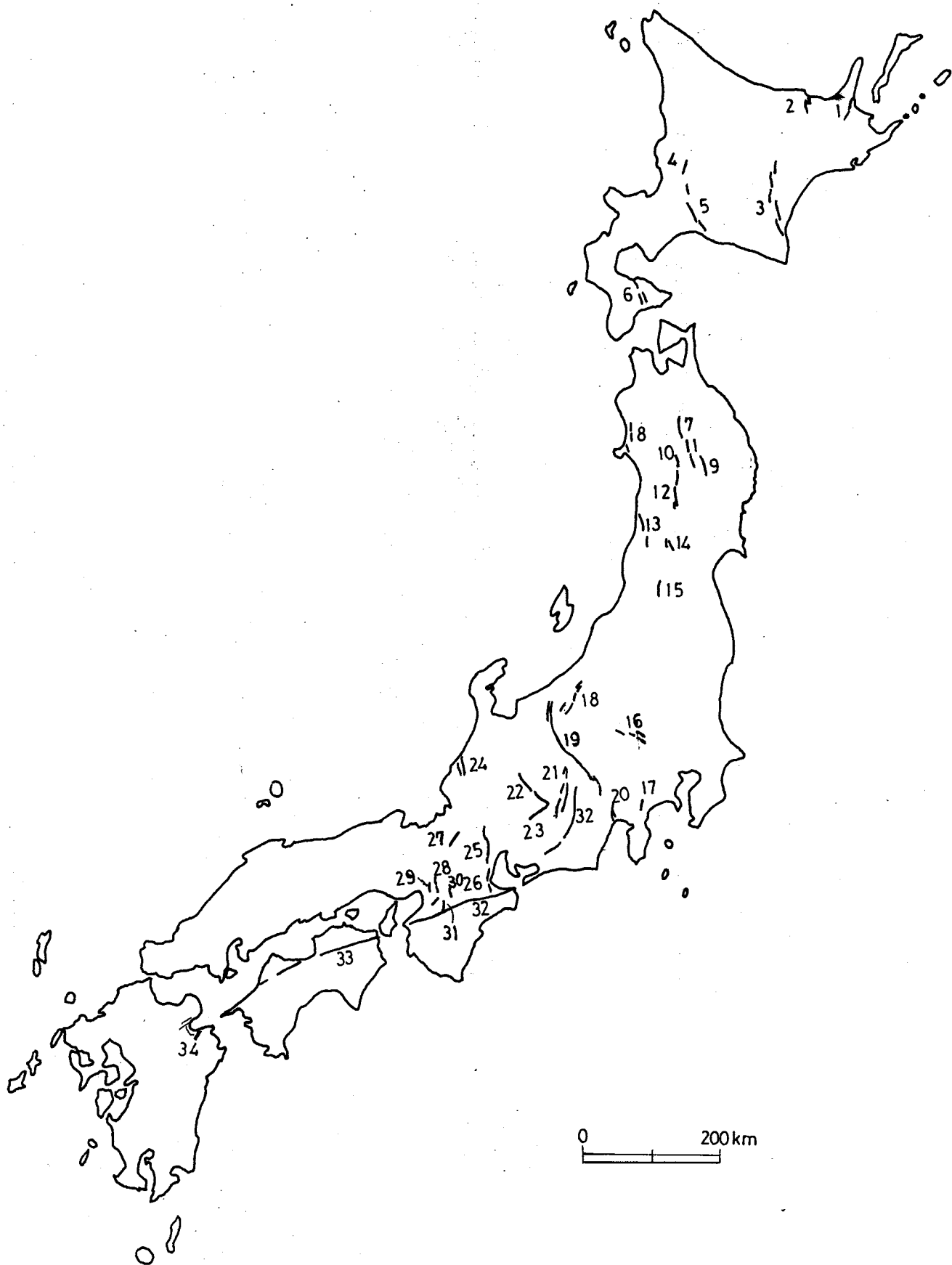


图 3.1 收集对象断層位置图

3.2 収集の方法

各断層（断層群・断層系）の文献収集は、「〔新編〕日本の活断層 分布図と資料」（活断層研究会編，1991）に記載された文献を対象に実施した。文献の収集に際しては、収集対象文献が容易に入手できる公表文献に限定したため、卒業論文や修士論文等の文献については収集対象文献から除外した。また、地質調査所や北海道地下資源調査所発行の地質図幅については、地質図を収集対象から除外し説明書だけとした。

3.3 収集文献数

各断層毎の文献数は、表3.2に示すとおりである。

表3.2 収集文献数一覧表

断層名	文献数	断層名	文献数
開陽断層－古多糠断層	4	長野盆地西縁断層帯	5 0
網走湖東方断層群	2	糸魚川－静岡構造線	6 4
十勝平野東縁断層群	1 0 9	富士山南西麓断層系	3 2
石狩低地西縁断層群	9	伊那谷断層系	3 4
岩見沢・馬追断層系	2 5	阿寺断層	2 5
函館平野西縁断層	1 0	屏風山断層	4
花輪盆地東縁断層系	5	福井平野東縁断層群	8
能代・森岳断層	4 3	一志断層系	2 3
南昌山・上平断層	3 8	白木・明星山断層群	1 5
駒ヶ岳西縁断層群	2	比良断層	5
西根断層群	5	生駒断層	1
千屋断層	4 0	上町断層	3
庄内平野東縁断層	3 0	三百・羽曳野・天理撓曲	7
山形盆地北部西縁断層	1 7	葛城断層	4
長井西断層	2	中央構造線(赤石)	5
深谷・平井断層	1 1	中央構造線(紀伊半島)	2 4
平山断層	6	中央構造線(四国)	8 0
		高城一月ヶ平撓曲	1
合 計	3 5 8	合 計	3 8 5

これらの文献数は、断層（断層群・断層系）毎にとりまとめたものであり、同一文献で数個の断層が記載されたものもあるため、実際に収集した文献数はこの約1/2にあたる338件である。収集した文献については、別冊の文献集にとりまとめた。

3.4 収集文献リスト

収集した文献については、各断層毎に次に示す項目について整理した文献リストを作成した。

・断層系

文献収集の対象は33断層（断層系・断層群）であるが、分布範囲の広い中央構造線については、赤石・紀伊半島と四国に区分したため、34断層として整理した。

・断層名

断層系に含まれるそれぞれの断層名を記載した。

・文献の表題

文献の表題を記載した。

・文献の著者

文献の著者は、文献に記載されているすべての人を記載した。

・雑誌名（書名）

断層系について記述のある雑誌名（書名）を記載した。

・雑誌（本）の発行年月

雑誌（本）の発行年月を記載した。

・雑誌の巻・号・頁

断層系について記載されている雑誌の巻・号・頁を記載した。

・備考

収集文献には、文献の検索が容易にできるように番号を付した。前の番号は、表3.1に示す各断層の番号であり、後の番号は断層毎の通し番号である。なお、複数の断層の記載のある文献については、断層番号の若い断層に文献を収録し、それ以降の断層については収録した文献の番号を記載した。

例：「1－3 参照」

以上の内容について整理した文献リストは、巻末にとりまとめた。

なお、リストの作成に際しては、断層（断層群・断層系）毎に文献を検索できるようにとりまとめたため、文献によっては重複してリストアップされているものがある。

4. 断層の基本的特性の整理

本業務で文献収集を実施した断層（断層群・断層系）については、収集した文献に基づき、次に示す基本的特性をとりまとめた。とりまとめに際しては、「〔新編〕日本の活断層 分布図と資料」（活断層研究会編、1991）に準拠した。一覧表に示した各項目は次のとおりである。

・ 図幅－断層番号

図幅は、1/200,000地勢図に標記された地名を記載した。

断層番号は、「〔新編〕日本の活断層 分布図と資料」（活断層研究会編、1991）でつけられている番号とした。

・ 断層名

文献に示されている断層名を記載した。

・ 分布位置

分布位置は、各都道府県のどの位置に当たるかを記載すると共に、その近傍の地名についても記載した。

・ 確実度

確実度は、「〔新編〕日本の活断層 分布図と資料」（活断層研究会編、1991）に示されている次の基準に従った。

確実度Ⅰ：活断層であることが確実なもので、具体的には次のどれかの地形的特徴を持ち、断層の位置・変位の向きがともに明確であるものをいう。

- 1) 数本以上にわたる尾根・谷の系統的な横ズレ
- 2) ひと続きであることが確かな地形面を切る崖線
- 3) 時代を異にする地形面群を切っている崖線があり、古い地形面ほど変位が大きい（変位の累積が認められる）場合
- 4) 同一地形面の変形（たわみ・傾斜など）
- 5) 第四紀層を変位させている断層の露頭、など

確実度Ⅱ：活断層であると推定されるもので、位置・変位の向きも推定できるが、確実度Ⅰと判定できる決定的な資料に欠けるもの、たとえば以下のような場合である。

- 1) 2～3本程度以下の尾根や谷が横ずれを示す場合

2)断層と思われる地形の両側の変位基準地形が時代を異にする場合

3)明瞭な基準地形がない場合（山地など）

確実度Ⅲ

活断層の可能性があるが、変位の向きが不明であったり、他の原因、たとえば川や海の侵食による崖、あるいは断層に沿う浸食作用によってリニアメントが形成された疑いが残るもの

・活動度

活断層の過去における活動の程度とし、ここでは平均変位速度（認定に用いた第四紀層の変位量をその形成時から現在までの年数で割った値）で表わす。活動度は、松田(1975)に従ってA級（m/1000年のオーダー）、B級（0.1m/1000年のオーダー）、C級（0.01m/1000年のオーダー）のように分類した（表4.1）。

表4.1 平均変位速度による活断層の活動度の分類(松田,1975)

活断層の分類	第四紀の平均変位速度S(単位はm/1000年)		
	A $10 > S \geq 1$	B $1 > S \geq 0.1$	C $0.1 > S \geq 0.01$

・長さ

長さは原則として次の基準に従った。

1)確実度Ⅰ、Ⅱの断層及び名称のついた断層は、その全長とする。

2)いくつかの確実度ⅠやⅡの断層が、それらの間に確実度Ⅲの断層があることにより長く連続しているように見える場合には、全長とする。

3)確実度ⅠやⅡの断層の両端（末端）に確実度Ⅲがある場合には、確実度Ⅰ、Ⅱの部分とする。

4)断層の延長が隣接図幅に及ぶ場合には、当該図幅内でのながさを（）を付して記入する。

・走向

図示した断層の一般走向を16方位に分けた。

・傾斜

断層面の傾斜方向がわかっている場合には、その概略の方位をN, E, S, またはWで示した。ほとんど垂直（90°前後）の場合はVとした。地質調査等により傾斜角

がわかっている場合には、その角度を記入した。

・断層形態

断層の存在を示す形態の種類を示した。地形に対しては、主に表4.2に示す用語を用いた。そのほか「地下資料」「断層露頭」など資料の性格を示した場合もある。なお、トレンチ調査については、断層露頭の情報の一つとして本欄に記入した。

表4.2 断層変位地形の主な用語(松田ほか, 1977を一部改変)

1) 崖地形 (縦ずれ地形, 変動崖)	断層崖, 撓曲崖(A), 低断層崖(C), 三角末端面*(B), 逆むき低断層崖
2) 凹地形 (変動凹地)	断層谷, 地溝(G), 小地溝, 断層凹地, 断層陷没地, 断層池*(D), 断層鞍部(F), 断層角盆地
3) 凸地形 (変動凸地)	地塁, 小地塁, ふくらみ*(E), 断層地塊山地, 傾動山地, 圧縮尾根
4) 横ずれ地形	横ずれ尾根, 横ずれ谷(H), 閉塞丘(I), 段丘崖のくいちがい(M-M', M1-M1'), 山麓線のくいちがい(L-L')

括弧内の記号は図2.4と図2.5の記号に対応する。

*印の地形は他の原因でも形成されるので、必ずしも断層変位地形とは限らない。

・変位基準

断層変位の有無、向きの判定に用いられた地層名・地形の種類などを記入した。それらに固有名があれば、なるべくその名称を用いた。上下及び横の両方の変位成分がある時にはそれぞれについて記し、一つの断層について異なる変位基準が得られた場合にも、それぞれについて記入した。変位基準として用いた地形は、海成または河成の段丘面、扇状地面、谷底平野、谷・尾根、火山斜面、山地高度、山地斜面などである。

・年代

変位基準の年代が、今から何年前であるかを 10^{-4} 年単位の概数で示した。

・断層変位

断層による変位の向きと量を示した。上下成分の欄のN, W, SEなどは、断層線を境に相対的に隆起した側を示す。()内の数字は、その変位量(単位はm)である。横ずれ成分がある場合には、その欄に右ずれの場合R、左ずれの場合にはLと記入した。()内の数字はその変位量(単位はm)である。なお、変位量は2

万5千分の1地形図から読みとった場合が多いので概数である。

- ・平均変位速度

変位基準の変位量をその年代でわった値を1000年あたりに換算して示した。

- ・備考

1～13の各覧につけられている*印についての注記である。

断層の基本的特性については上記の項目について整理し、その結果は巻末に示す「断層の基本的特性一覧表」にとりまとめた。

卷 末 資 料

・ 文 献 リ ス ト

・ 断層の基本的特性一覧表

文 献 リ ス ト

開陽断層－古多糖断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	開陽断層－古多糖断層	古多糖断層	5万分の1活構造図「網走」図幅	寒川旭・水野清秀・山口昇一	5万分の1活構造図「網走」図幅, 同説明書	1987		1－1
2		古多糖断層	北海道の第四紀地殻変動とプレート運動	奥村晃史	地理学会予稿集	1988	34・18-19	1－2
3		古多糖断層	5万分の1地質図「斜里岳」図幅	杉本良也・長谷川潔	5万分の1地質図「斜里岳」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1959	34・18-19	1－3
4		開陽断層	5万分の1地質図「中標津」図幅	松井公平・国府谷盛明・杉本良也	5万分の1地質図「中標津」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1967		1－4

網走湖東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	網走湖東縁断層群	網走湖東方断層群	北海道の第四系	第四紀総研北海道グループ	地団研専報	1969	15・1-33	2－1
2		網走湖東方断層群	北海道の新しい時代の地殻運動	阪口豊	地理評	1959	32・401-431	2－2

十勝平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	十勝平野東縁断層群	押帯断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3-1
2		押帯断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3-2
3		押帯断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3-3
4		押帯断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3-4
5		押帯断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3-5
6		押帯断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3-6
7		押帯断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3-7
8		押帯断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松沢逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3-8
9	十勝平野東縁断層群	東居辺断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3-1 参照
10		東居辺断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3-2 参照
11		東居辺断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3-3 参照
12		東居辺断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3-4 参照
13		東居辺断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3-5 参照
14		東居辺断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3-6 参照
15		東居辺断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3-7 参照
16		東居辺断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松沢逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3-8 参照
17	十勝平野東縁断層群	士幌川断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3-1 参照
18		士幌川断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3-2 参照
19		士幌川断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3-3 参照
20		士幌川断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3-4 参照
21		士幌川断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3-5 参照
22		士幌川断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3-6 参照
23		士幌川断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3-7 参照
24		士幌川断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松沢逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3-8 参照
25	十勝平野東縁断層群	旭断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3-1 参照
26		旭断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3-2 参照

十勝平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
27		旭断層	5 万分の 1 地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5 万分の 1 地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
28		旭断層	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
29		旭断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
30		旭断層	十勝平野の鮮新洪積統について(その 2) - 帯広市付近の池田層群の地質構造について -	岡孝雄	地下資源調査所報告	1976	48・1-18	3 - 9
31		旭断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5 万分の 1 図幅)	1981	82	3 - 6 参照
32		旭断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その 3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照
33		旭断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3 - 8 参照
34	十勝平野東縁断層群	音更川 - 札内川断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3 - 1 参照
35		音更川 - 札内川断層	5 万分の 1 地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5 万分の 1 地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3 - 2 参照
36		音更川 - 札内川断層	5 万分の 1 地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5 万分の 1 地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
37		音更川 - 札内川断層	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
38		音更川 - 札内川断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
39		音更川 - 札内川断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5 万分の 1 図幅)	1981	82	3 - 6 参照
40		音更川 - 札内川断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その 3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照
41		音更川 - 札内川断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3 - 8 参照
42	十勝平野東縁断層群	途別川断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3 - 1 参照
43		途別川断層	5 万分の 1 地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5 万分の 1 地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3 - 2 参照
44		途別川断層	5 万分の 1 地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5 万分の 1 地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
45		途別川断層	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5 万分の 1 地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
46		途別川断層	十勝平野の地形発達史	平川一臣・小野有五	地理評	1974	47・607-632	3 - 1 0
47		途別川断層	大正地域の地質	小坂利幸・松井愈・木村方一・紺谷吉弘・野川潔・春日井昭・近藤鍊三・藤山広武	地域地質研究報告(5 万分の 1 図幅)	1979	60	3 - 1 1
48		途別川断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
49		途別川断層	十勝平野の鮮新洪積統について(その 2) - 帯広市付近の池田層群の地質構造について -	岡孝雄	地下資源調査所報告	1976	48・1-18	3 - 9 参照
50		途別川断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5 万分の 1 図幅)	1981	82	3 - 6 参照

十勝平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
51		途別川断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照
52		途別川断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3 - 8 参照
53	十勝平野東縁断層群	稲志別断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3 - 1 参照
54		稲志別断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3 - 2 参照
55		稲志別断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
56		稲志別断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
57		稲志別断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
58		稲志別断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3 - 6 参照
59		稲志別断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照
60		稲志別断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3 - 8 参照
61	十勝平野東縁断層群	豊岡東断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3 - 1 参照
62		豊岡東断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3 - 2 参照
63		豊岡東断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
64		豊岡東断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
65		豊岡東断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
66		豊岡東断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3 - 6 参照
67		豊岡東断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照
68		豊岡東断層	十勝平野の構造発達史 - 帯広盆地と幕別台地の分化 -	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3 - 8 参照
69	十勝平野東縁断層群	茂発谷断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3 - 1 参照
70		茂発谷断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3 - 2 参照
71		茂発谷断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3 - 3 参照
72		茂発谷断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3 - 4 参照
73		茂発谷断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3 - 5 参照
74		茂発谷断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3 - 6 参照
75		茂発谷断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3) - 幕別台地の池田層群 -	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3 - 7 参照

十勝平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
76		茂発谷断層	十勝平野の構造発達史－帯広盆地と幕別台地の分化－	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3－8 参照
77	十勝平野東縁断層群	明倫南断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3－1 参照
78		明倫南断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3－2 参照
79		明倫南断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3－3 参照
80		明倫南断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3－4 参照
81		明倫南断層	十勝平野の地形発達史	平川一臣・小野有五	地理評	1974	47・607-632	3－10 参照
82		明倫南断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
83		明倫南断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3－6 参照
84		明倫南断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3)－幕別台地の池田層群－	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3－7 参照
85		明倫南断層	十勝平野の構造発達史－帯広盆地と幕別台地の分化－	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3－8 参照
86	十勝平野東縁断層群	似平断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3－1 参照
87		似平断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3－2 参照
88		似平断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3－3 参照
89		似平断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3－4 参照
90		似平断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
91		似平断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3－6 参照
92		似平断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3)－幕別台地の池田層群－	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3－7 参照
93		似平断層	十勝平野の構造発達史－帯広盆地と幕別台地の分化－	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3－8 参照
94	十勝平野東縁断層群	上更別断層	十勝平野	十勝団体研究会(1978)	地団研専報	1978	22・433	3－1 参照
95		上更別断層	5万分の1地質図[上士幌]図幅	三谷勝利・松沢逸巳・高橋功二	5万分の1地質図[上士幌]図幅, 同説明書, 北海道地下資源開発所	1976	36	3－2 参照
96		上更別断層	5万分の1地質図[音別]図幅	棚井敏雄	5万分の1地質図[音別]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1961	43	3－3 参照
97		上更別断層	5万分の1地質図[浦幌]図幅	棚井敏雄・山口昇一	5万分の1地質図[浦幌]図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1965	52	3－4 参照
98		上更別断層	十勝平野の地形発達史	平川一臣・小野有五	地理評	1974	47・607-632	3－10 参照
99		上更別断層	十勝平野東縁の活断層について(第二報)	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
100		上更別断層	帯広地域の地質	松沢逸巳・松井愈・近堂祐弘・瀬川秀良・田中実・小久保公司	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1981	82	3－6 参照
101		上更別断層	十勝平野の鮮新・更新統について(その3)－幕別台地の池田層群－	岡孝雄	地質雑	1982	88, 79-100	3－7 参照

十勝平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
102		上更別断層	十勝平野の構造発達史－帯広盆地と幕別台地の分化－	松井愈・松澤逸巳	第四紀研究	1985	23, 233-244	3－8 参照
103		上更別断層	十勝平野東縁の活断層について（第二報）	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
104	十勝平野東縁断層群	弘和断層	十勝平野の地形発達史	平川一臣・小野有五	地理評	1974	47・607-632	3－10 参照
105		弘和断層	十勝平野東縁の活断層について（第二報）	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
106		弘和断層	十勝平野	十勝団体研究会（1978）	地団研専報	1978	22・433	3－1 参照
107		朝日断層	十勝平野の地形発達史	平川一臣・小野有五	地理評	1974	47・607-632	3－10 参照
108		朝日断層	十勝平野東縁の活断層について（第二報）	東郷正実・小野有五	地理学会予稿集	1979	17・58-59	3－5 参照
109		朝日断層	十勝平野	十勝団体研究会（1978）	地団研専報	1978	22・433	3－1 参照

石狩低地西縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	石狩低地西縁断層群	自衛隊射撃場南西	5万分の1地質図「留萌」図幅	対馬坤六・山口昇一	5万分の1地質図「留萌」図幅, 同説明書	1954		4 - 1
2		樺戸断層群	5万分の1地質図「月形」図幅	垣見俊弘・植村武	5万分の1地質図「月形」図幅, 同説明書	1958		4 - 2
3		樺戸断層群	5万分の1地質図「砂川」図幅	松井寛・垣見俊弘・根本隆文	5万分の1地質図「砂川」図幅, 同説明書	1965		4 - 3
4		樺戸断層群	5万分の1地質図「留萌」図幅	対馬坤六・山口昇一	5万分の1地質図「留萌」図幅, 同説明書	1954		4 - 1 参照
5		樺戸断層群	5万分の1地質図「滝川」図幅	小林勇・垣見俊弘・植村武・秦光男	5万分の1地質図「滝川」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1957		4 - 4
6		樺戸断層群	妹背牛地域の地質	小林勇・秦光男・山口昇一・垣見俊弘	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1969		4 - 5
7		浦臼断層	5万分の1地質図「砂川」図幅	松井寛・垣見俊弘・根本隆文	5万分の1地質図「砂川」図幅, 同説明書	1965		4 - 3 参照
8		浦臼断層	5万分の1地質図「留萌」図幅	対馬坤六・山口昇一	5万分の1地質図「留萌」図幅, 同説明書	1954		4 - 1 参照
9		和断層 [和] [和西方]	5万分の1地質図「留萌」図幅	対馬坤六・山口昇一	5万分の1地質図「留萌」図幅, 同説明書	1954		4 - 1 参照

岩見沢・馬追断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	岩見沢・馬追断層系	岩見沢断層	北海道におけるいくつかの活断層露頭	山岸宏光	活断層研究	1986	2・10-28	5-1
2		岩見沢断層	5万分の1地質図「夕張」図幅	佐々保進・田中啓策・秦光男	5万分の1地質図「夕張」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1964		5-2
3		栗沢断層	5万分の1地質図「夕張」図幅	佐々保進・田中啓策・秦光男	5万分の1地質図「夕張」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1964		5-2 参照
4		栗沢断層	石狩丘陵地域の地形発達と活構造	寒川旭・平野信一・池田国昭	地理学会予稿集	1981	20・60-61	5-3
5		泉郷断層	馬追丘陵の地表調査(第五章, 111-120)	松田時彦	文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果, No.A63-3「地震動予測精密化のための地下深部構造の研究」(研究代表者浅野周三)	1989	163	5-4
6		馬追断層	5万分の1地質図「早来」図幅	松野久也・石田正夫	5万分の1地質図「早来」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1960		5-5
7		馬追断層	馬追丘陵の地表調査(第五章, 111-120)	松田時彦	文部省科学研究費自然災害特別研究研究成果, No.A63-3「地震動予測精密化のための地下深部構造の研究」(研究代表者浅野周三)	1989	5・111-120	5-4 参照
8		馬追断層	北海道におけるいくつかの活断層露頭	山岸宏光	活断層研究	1986	2・10-28	5-1 参照
9		嶮淵断層	樽前降下軽石層を切る活断層	卯田強・木村学・会田信行・外崎徳二	地球科学	1979	33・304-307	5-6
10		嶮淵断層	5万分の1地質図「早来」図幅	松野久也・石田正夫	5万分の1地質図「早来」図幅, 同説明書	1960		5-5 参照
11		軽舞断層	5万分の1地質図「早来」図幅	松野久也・石田正夫	5万分の1地質図「早来」図幅, 同説明書	1960		5-5 参照
12		軽舞断層	5万分の1地質図[鶴川]図幅	山口昇一	5万分の1地質図[鶴川]図幅, 同説明書	1960		5-7
13		軽舞断層	北海道中央部馬追丘陵南東の中・上部更新統-2つの海進について-	馬追団体研究会	地球科学	1983	37・8-21	5-8
14		軽舞断層	北海道苫小牧市静川ボーリングコアにみられる第四系	近藤務・五十嵐八枝子・吉田充夫・赤松守雄	第四紀研究	1984	22・313-325	5-9
15		軽舞断層	バイプロサイス反射法による地殻構造調査	浅野周三・嶋悦三・松田時彦・吉井敏剋・岡田廣・齊藤正徳・小林啓実・入倉孝次郎・鳥羽武文・朝倉夏雄	物理探査学会昭和61年秋季講演予稿集	1986	73-74	5-10
16	岩見沢・馬追断層系	鯉沼南方	5万分の1地質図「早来」図幅	松野久也・石田正夫	5万分の1地質図「早来」図幅, 同説明書, 北海道開発庁	1960		5-5 参照
17		鯉沼南方	5万分の1地質図[鶴川]図幅	山口昇一	5万分の1地質図[鶴川]図幅, 同説明書	1960		5-7 参照
18		鯉沼南方	北海道中央部馬追丘陵南東の中・上部更新統-2つの海進について-	馬追団体研究会	地球科学	1983	37・8-21	5-8 参照
19		鯉沼南方	北海道苫小牧市静川ボーリングコアにみられる第四系	近藤務・五十嵐八枝子・吉田充夫・赤松守雄	第四紀研究	1984	22・313-325	5-9 参照
20		鯉沼南方	バイプロサイス反射法による地殻構造調査	浅野周三・嶋悦三・松田時彦・吉井敏剋・岡田廣・齊藤正徳・小林啓実・入倉孝次郎・鳥羽武文・朝倉夏雄	物理探査学会昭和61年秋季講演予稿集	1986	73-74	5-10 参照
21		共和断層	5万分の1地質図「早来」図幅	松野久也・石田正夫	5万分の1地質図「早来」図幅, 同説明書	1960		5-5 参照

岩見沢・馬追断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
22		共和断層	5万分の1地質図[鹉川]図幅	山口昇一	5万分の1地質図[鹉川]図幅, 同説明書	1960		5 - 7 参照
23		共和断層	北海道中央部馬追丘陵南東の中・上部更新統-2つの海進について-	馬追団体研究会	地球科学	1983	37・8-21	5 - 8 参照
24		共和断層	北海道苫小牧市静川ボーリングコアにみられる第四系	近藤務・五十嵐八枝子・吉田充夫・赤松守雄	第四紀研究	1984	22・313-325	5 - 9 参照
25		共和断層	バイプロサイス反射法による地殻構造調査	浅野周三・嶋悦三・松田時彦・吉井敏剋・岡田廣・斉藤正徳・小林啓実・入倉孝次郎・鳥羽武文・朝倉夏雄	物理探査学会昭和61年秋季講演予稿集	1986	73-74	5 - 10 参照

函館平野西縁断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	函館平野西縁断層	渡島大野断層	函館平野西縁の活断層	太田陽子・渡島半島活断層研究グループ	地理学会予稿集	1982	22・96-97	6-1
2		渡島大野断層	渡島半島の海岸線に沿う逆むき断層崖について	寒川旭・衣笠善博・垣見俊弘・八木浩司・奥村晃史	地理学会予稿集	1982	22・100-101	6-2
3		渡島大野断層	松前半島東岸の海成段丘と第四紀地殻変動	宮内崇裕・八木浩司	地学雑誌	1984	93・285-300	6-3
4		渡島大野断層	西南北海道における新生代後期の応力場の変遷－地質断層, 岩脈, 鉾脈および活断層の検討－	山岸宏光・渡辺寧	地団研専報	1986	31・321-331	6-4
5		渡島大野断層	函館群発地震活動(I)－地震活動と震源分布－	本谷義信・鈴木貞臣・高波鉄夫・石川春義・岡山宗夫	地震	1983	2・36・337-350	6-5
6		函館平野西縁断層	函館平野西縁の活断層	太田陽子・渡島半島活断層研究グループ	地理学会予稿集	1982	22・96-97	6-1 参照
7		函館平野西縁断層	渡島半島の海岸線に沿う逆むき断層崖について	寒川旭・衣笠善博・垣見俊弘・八木浩司・奥村晃史	地理学会予稿集	1982	22・100-101	6-2 参照
8		函館平野西縁断層	松前半島東岸の海成段丘と第四紀地殻変動	宮内崇裕・八木浩司	地学雑誌	1984	93・285-300	6-3 参照
9		函館平野西縁断層	西南北海道における新生代後期の応力場の変遷－地質断層, 岩脈, 鉾脈および活断層の検討－	山岸宏光・渡辺寧	地団研専報	1986	31・321-331	6-4 参照
10		函館平野西縁断層	函館群発地震活動(I)－地震活動と震源分布－	本谷義信・鈴木貞臣・高波鉄夫・石川春義・岡山宗夫	地震	1983	2・36・337-350	6-5 参照

花輪盆地東縁断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	花輪盆地東縁断層系	小豆沢断層	米代川流域の河岸段丘と十和田火山噴出物との関係	藤原健蔵	東北地理	1960	12・33-40	7 - 1
2		柏木森東	秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史	内藤博夫	地理評	1970	43・594-606	7 - 2
3		花輪東断層	秋田県米代川流域の第四紀火山碎屑物と段丘地形	内藤博夫	地理評	1966	39・463-484	7 - 3
4		花輪断層	秋田県花輪盆地および大館盆地の地形発達史	内藤博夫	地理評	1970	43・594-606	7 - 2 参照
5		花輪断層	秋田県北部の第三系の層位と造構造運動について	上田良一	秋田大地下資源開発研究報告	1965	32・1-71	7 - 4

能代・森岳断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	能代・森岳断層	高野野断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1
2		高野野断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2
3		高野野断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3
4		高野野断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4
5		高野野断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5
6		高野野断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6
7		高野野断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7
8	能代・森岳断層	小手萩断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1 参照
9		小手萩断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2 参照
10		小手萩断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3 参照
11		小手萩断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4 参照
12		小手萩断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5 参照
13		小手萩断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6 参照
14		小手萩断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7 参照
15	能代・森岳断層	北能代断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1 参照
16		北能代断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2 参照
17		北能代断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3 参照
18		北能代断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4 参照
19		北能代断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5 参照
20		北能代断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6 参照
21		北能代断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7 参照
22	能代・森岳断層	逆川断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1 参照
23		逆川断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2 参照
24		逆川断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3 参照
25		逆川断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4 参照
26		逆川断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5 参照
27		逆川断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6 参照
28		逆川断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7 参照
29	能代・森岳断層	盤断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1 参照
30		盤断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2 参照

能代・森岳断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
31		盤断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3 参照
32		盤断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4 参照
33		盤断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5 参照
34		盤断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6 参照
35		盤断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7 参照
36	能代・森岳断層	能代断層	秋田県能代平野の段丘地形	内藤博夫	第四紀研究	1977	16・57-70	8-1 参照
37		能代断層	元禄7年及宝永元年両度の能代地震に伴へる陸地変形に就て	今村明恒	地震	1936	8・51-56	8-2 参照
38		能代断層	能代地域の地質	大沢・池辺穰・平山次郎・栗田泰夫・高安泰助	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1984		8-3 参照
39		能代断層	森岳地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫・高安泰助・平山次郎	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-4 参照
40		能代断層	東北日本北部における後期更新世海成面の対比と編年	宮内崇裕	地理評	1988	61A・404-422	8-5 参照
41		能代断層	東北日本弧内帯の短縮変動と太平洋プレートの運動	栗田泰夫	月刊地球	1988	10・586-591	8-6 参照
42		能代断層	1694年(元禄7年)能代の地震	栗田泰夫	歴史地震	1985	1・191-194	8-7 参照
43		能代断層	羽後浜田地域の地質	大沢・鯨岡明・栗田泰夫	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1985		8-8

南昌山・上平断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	南昌山・上平断層	南昌山断層群	東北日本の断層盆地(上)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-655	9-1
2		南昌山断層群	北上河谷上流部西縁, 志波構造線に沿う第四紀後期の地殻変動	宮城豊彦	東北地理	1975	27・176-186	9-2
3		南昌山断層群	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9-3
4		南昌山断層群	岩手県北上平野西縁を限る上平断層崖の地形	富田芳郎	地理評	1951	24・211-212	9-4
5		南昌山断層群	Geomorphic development of the Kitakami Valley.	Fujiwara, K.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1959	8・3-38	9-5
6		南昌山断層群	盛岡断層群に就いて	金子史朗	地理評	1955	28・192-198	9-6
7		南昌山断層群	北上低地帯の分化様式と断層運動	渡辺満久	地理評	1989	62A・734-749	9-7
8		南昌山断層群	Complementary distributions of active faults and Quaternary volcanoes, and tectonic movements, along the volcanic front of Northeast Japan.	Watanabe, M.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1989	21・37-74	9-8
9	南昌山・上平断層	上平断層群	東北日本の断層盆地(上)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-655	9-1 参照
10		上平断層群	北上河谷上流部西縁, 志波構造線に沿う第四紀後期の地殻変動	宮城豊彦	東北地理	1975	27・176-186	9-2 参照
11		上平断層群	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9-3 参照
12		上平断層群	岩手県北上平野西縁を限る上平断層崖の地形	富田芳郎	地理評	1951	24・211-212	9-4 参照
13		上平断層群	Geomorphic development of the Kitakami Valley.	Fujiwara, K.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1959	8・3-38	9-5 参照
14		上平断層群	盛岡断層群に就いて	金子史朗	地理評	1955	28・192-198	9-6 参照
15		上平断層群	岩手県奥羽山地東縁部の地帯構造に関する一考察	早川典久	岩石鉱物鉱床学会誌	1951	35・192-198	9-9
16		上平断層群	1983年盛岡断層群・浦田断層(浦田地区)トレンチ調査	栗田泰夫	活断層研究	1988	(5)・23-28	9-10
17		上平断層群	北上低地帯の分化様式と断層運動	渡辺満久	地理評	1989	62A・734-749	9-7 参照
18		上平断層群	Complementary distributions of active faults and Quaternary volcanoes, and tectonic movements, along the volcanic front of Northeast Japan.	Watanabe, M.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1989	21・37-74	9-8 参照
19		上平断層群	岩手県花巻市北西方の奥羽山地東縁の活断層群について	下川浩一・栗田泰夫	第四紀学会講演要旨集	1983	13・142-143	9-11
20		上平断層群	北上低地帯西縁活断層系・黒森山断層群(花巻地区)トレンチ掘削調査	渡辺満久・池田安隆・鈴木康弘・須貝俊彦	地理学会予稿集	1990	38・172-173	9-12
21	南昌山・上平断層	上平西	東北日本の断層盆地(上)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-655	9-1 参照
22		上平西	北上河谷上流部西縁, 志波構造線に沿う第四紀後期の地殻変動	宮城豊彦	東北地理	1975	27・176-186	9-2 参照
23		上平西	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9-3 参照

南昌山・上平断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
24		上平西	岩手県北上平野西縁を限る上平断層崖の地形	富田芳郎	地理評	1951	24・211-212	9-4 参照
25		上平西	Geomorphic development of the Kitakami Valley.	Fujiwara, K.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1959	8・3-38	9-5 参照
26		上平西	盛岡断層群に就いて	金子史朗	地理評	1955	28・192-198	9-6 参照
27		上平西	岩手県奥羽山地東縁部の地帯構造に関する一考察	早川典久	岩石鉱物鉱床学会誌	1951	35・192-198	9-9 参照
28		上平西	1983年盛岡断層群・浦田断層(浦田地区)トレンチ調査	栗田泰夫	活断層研究	1988	(5)・23-28	9-10 参照
29		上平西	北上低地帯の分化様式と断層運動	渡辺満久	地理評	1989	62A・734-749	9-7 参照
30		上平西	Complementary distributions of active faults and Quaternary volcanoes, and tectonic movements, along the volcanic front of Northeast Japan.	Watanabe, M.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1989	21・37-74	9-8 参照
31		上平西	岩手県花巻市北西方の奥羽山地東縁の活断層群について	下川浩一・栗田泰夫	第四紀学会講演要旨集	1983	13・142-143	9-11 参照
32		上平西	北上低地帯西縁活断層系・黒森山断層群(花巻地区)トレンチ掘削調査	渡辺満久・池田安隆・鈴木康弘・須貝俊彦	地理学会予稿集	1990	38・172-173	9-12 参照
33		江釣子	北上低地帯の分化様式と断層運動	渡辺満久	地理評	1989	62A・734-749	9-7 参照
34		江釣子	Complementary distributions of active faults and Quaternary volcanoes, and tectonic movements, along the volcanic front of Northeast Japan.	Watanabe, M.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1989	21・37-74	9-8 参照
35		横森山断層	北上低地帯の分化様式と断層運動	渡辺満久	地理評	1989	62A・734-749	9-7 参照
36		横森山断層	Complementary distributions of active faults and Quaternary volcanoes, and tectonic movements, along the volcanic front of Northeast Japan.	Watanabe, M.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1989	21・37-74	9-8 参照
37		横森山断層	岩手県花巻市西部の鮮新・更新両統(予報)	木下尚・岩井淳一	地球科学	1966	87・13-20	9-13
38		横森山断層	北上川中流沿岸の第四系及び地形-北上川流域の第四紀地史(2)-	中川久夫・岩井淳一・大池昭二・小野寺信吾・森由紀子・木下尚・竹内貞子・石田琢二	地質雑	1963	69・219-227	9-14

駒ヶ岳西縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	駒ヶ岳西縁断層群	駒ヶ岳西麓断層群	大正三年秋田県仙北郡大地震調査報告	今村明恒	震災予防調査会報告	1915	(82)・1-30	1 0 - 1
2		駒ヶ岳西麓断層群	火山のテクトニクス	鈴木隆介	第四紀研究	1968	7・217-224	1 0 - 2

西根断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	西根断層群	西根断層群	松尾硫黄硫化鉄鉱山の地質鉱床 および母岩の変化に関する研究	高橋維一郎	岩手大工学部報告	1962	15・1-15	1 1 - 1
2		西根断層群	日本の活断層分布図およびカ タログ	松田時彦・岡田篤正・藤田和夫	地質学論集	1976	12・185-198	1 1 - 2
3		西根断層群	雫石盆地の地質（その3）雫石 盆地西縁部の地質	村井貞允	岩手大工学部報告	1962	15・51-63	1 1 - 3
4		西根断層群	岩手県雫石盆地の地質（その2） 雫石盆地南縁部の地質につい て	村井貞允	岩手大工学部報告	1961	14・93-106	1 1 - 4
5		西根断層群	雫石地域の地質	石井武政・須藤茂	地域地質研究報告（5万分の1図幅 ），地質調査所	1987		1 1 - 5

千屋断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	千屋断層	生保内地震断層	陸羽地震調査概報	山崎直方	震災予防調査会報告	1896	(11)・50-74	1 2 - 1
2		生保内地震断層	横手盆地東縁北半部の地形-断層崖下にみられる運動-	藤原健蔵	東北地理	1954	7・63-69	1 2 - 2
3		生保内地震断層	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, Northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9 - 3 参照
4		生保内地震断層	1896年陸羽地震の地震断層	松田時彦・山崎晴雄・中田高・今泉俊文	地震研彙報	1980	55・795-855	1 2 - 3
5		生保内地震断層	明治29年陸羽地震川舟断層の現況その他	大塚弥之助	地震	1938	10・469-476	1 2 - 4
6		生保内地震断層	千屋断層系に沿う地震発生時期の推定	平野信一	地理評	1984	57A・173-185	1 2 - 5
7		生保内地震断層	千屋断層(秋田県)の完新世の活動と断層先端部の形態-千畑町小森での発掘調査-	千屋断層研究グループ	地震研彙報	1986	61・339-402	1 2 - 6
8		生保内地震断層	1982年千屋断層(小森地区)トレンチ調査	千屋断層研究グループ	活断層研究	1986	(3)・65-73	1 2 - 7
9		生保内地震断層	千屋断層のボーリング調査-断層線の湾曲を説明する断層面の形態-	今泉俊文・平野信一・松田時彦	活断層研究	1989	(7)・32-42	1 2 - 8
10		生保内地震断層	1985年千屋断層(花岡地区)トレンチ調査	今泉俊文・宮内崇裕・吉岡敏和・鈴木毅彦・松田時彦・鈴木康弘・早川唯弘・桜井一賀・柏木修一・東郷正美・山口伸弥・深沢浩・大杉芳明・熊沢秀晃	活断層研究	1989	(6)・81-86	1 2 - 9
11	千屋断層	白岩地震断層	陸羽地震調査概報	山崎直方	震災予防調査会報告	1896	(11)・50-74	1 2 - 1 参照
12		白岩地震断層	横手盆地東縁北半部の地形-断層崖下にみられる運動-	藤原健蔵	東北地理	1954	7・63-69	1 2 - 2 参照
13		白岩地震断層	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, Northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9 - 3 参照
14		白岩地震断層	1896年陸羽地震の地震断層	松田時彦・山崎晴雄・中田高・今泉俊文	地震研彙報	1980	55・795-855	1 2 - 3 参照
15		白岩地震断層	明治29年陸羽地震川舟断層の現況その他	大塚弥之助	地震	1938	10・469-476	1 2 - 4 参照
16		白岩地震断層	千屋断層系に沿う地震発生時期の推定	平野信一	地理評	1984	57A・173-185	1 2 - 5 参照
17		白岩地震断層	千屋断層(秋田県)の完新世の活動と断層先端部の形態-千畑町小森での発掘調査-	千屋断層研究グループ	地震研彙報	1986	61・339-402	1 2 - 6 参照
18		白岩地震断層	1982年千屋断層(小森地区)トレンチ調査	千屋断層研究グループ	活断層研究	1986	(3)・65-73	1 2 - 7 参照
19		白岩地震断層	千屋断層のボーリング調査-断層線の湾曲を説明する断層面の形態-	今泉俊文・平野信一・松田時彦	活断層研究	1989	(7)・32-42	1 2 - 8 参照
20		白岩地震断層	1985年千屋断層(花岡地区)トレンチ調査	今泉俊文・宮内崇裕・吉岡敏和・鈴木毅彦・松田時彦・鈴木康弘・早川唯弘・桜井一賀・柏木修一・東郷正美・山口伸弥・深沢浩・大杉芳明・熊沢秀晃	活断層研究	1989	(6)・81-86	1 2 - 9 参照

千屋断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
21	千屋断層	太田地震断層	陸羽地震調査概報	山崎直方	震災予防調査会報告	1896	(11)・50-74	12-1参照
22		太田地震断層	横手盆地東縁北半部の地形-断層崖下にみられる運動-	藤原健蔵	東北地理	1954	7・63-69	12-2参照
23		太田地震断層	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, Northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9-3参照
24		太田地震断層	1896年陸羽地震の地震断層	松田時彦・山崎晴雄・中田高・今泉俊文	地震研彙報	1980	55・795-855	12-3参照
25		太田地震断層	明治29年陸羽地震川舟断層の現況その他	大塚弥之助	地震	1938	10・469-476	12-4参照
26		太田地震断層	千屋断層系に沿う地震発生時期の推定	平野信一	地理評	1984	57A・173-185	12-5参照
27		太田地震断層	千屋断層(秋田県)の完新世の活動と断層先端部の形態-千畑町小森での発掘調査-	千屋断層研究グループ	地震研彙報	1986	61・339-402	12-6参照
28		太田地震断層	1982年千屋断層(小森地区)トレンチ調査	千屋断層研究グループ	活断層研究	1986	(3)・65-73	12-7参照
29		太田地震断層	千屋断層のボーリング調査-断層線の湾曲を説明する断層面の形態-	今泉俊文・平野信一・松田時彦	活断層研究	1989	(7)・32-42	12-8参照
30		太田地震断層	1985年千屋断層(花岡地区)トレンチ調査	今泉俊文・宮内崇裕・吉岡敏和・鈴木毅彦・松田時彦・鈴木康弘・早川唯弘・桜井一賀・柏木修一・東郷正美・山口伸弥・深沢浩・大杉芳明・熊沢秀晃	活断層研究	1989	(6)・81-86	12-9参照
31	千屋断層	千屋地震断層	陸羽地震調査概報	山崎直方	震災予防調査会報告	1896	(11)・50-74	12-1参照
32		千屋地震断層	横手盆地東縁北半部の地形-断層崖下にみられる運動-	藤原健蔵	東北地理	1954	7・63-69	12-2参照
33		千屋地震断層	Quaternary tectonic movements in central Tohoku district, Northeast Japan.	Nakata, T.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1976	26・213-239	9-3参照
34		千屋地震断層	1896年陸羽地震の地震断層	松田時彦・山崎晴雄・中田高・今泉俊文	地震研彙報	1980	55・795-855	12-3参照
35		千屋地震断層	明治29年陸羽地震川舟断層の現況その他	大塚弥之助	地震	1938	10・469-476	12-4参照
36		千屋地震断層	千屋断層系に沿う地震発生時期の推定	平野信一	地理評	1984	57A・173-185	12-5参照
37		千屋地震断層	千屋断層(秋田県)の完新世の活動と断層先端部の形態-千畑町小森での発掘調査-	千屋断層研究グループ	地震研彙報	1986	61・339-402	12-6参照
38		千屋地震断層	1982年千屋断層(小森地区)トレンチ調査	千屋断層研究グループ	活断層研究	1986	(3)・65-73	12-7参照
39		千屋地震断層	千屋断層のボーリング調査-断層線の湾曲を説明する断層面の形態-	今泉俊文・平野信一・松田時彦	活断層研究	1989	(7)・32-42	12-8参照
40		千屋地震断層	1985年千屋断層(花岡地区)トレンチ調査	今泉俊文・宮内崇裕・吉岡敏和・鈴木毅彦・松田時彦・鈴木康弘・早川唯弘・桜井一賀・柏木修一・東郷正美・山口伸弥・深沢浩・大杉芳明・熊沢秀晃	活断層研究	1989	(6)・81-86	12-9参照

庄内平野東縁断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	庄内平野東縁断層	広野新田断層	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1
2		広野新田断層	庄内地震に関する地質学上調査報告	小藤文次郎	震災予防調査会報告	1895	(8)・1-22	13-2
3		広野新田断層	明治27年10月22日庄内地震概報告	大森房吉	震災予防調査会報告	1895	(3)・79-106	13-3
4		広野新田断層	新編日本地形論	吉川虎雄・杉村新・貝塚爽平・太田陽子・阪口豊	東京大学出版会	1973	309	13-4
5		当山断層	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
6		月光川断層	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
7		月光川断層	庄内平野東縁における精密図化による長波長変形の抽出	鈴木康弘	活断層研究	1990	(8)・81-89	13-5
8	庄内平野東縁断層	観音寺断層	庄内地震に関する地質学上調査報告	小藤文次郎	震災予防調査会報告	1895	(8)・1-22	13-2 参照
9		観音寺断層	明治27年10月22日庄内地震概報告	大森房吉	震災予防調査会報告	1895	(3)・79-106	13-3 参照
10		観音寺断層	新編日本地形論	吉川虎雄・杉村新・貝塚爽平・太田陽子・阪口豊	東京大学出版会	1973	309	13-4 参照
11		観音寺断層	庄内平野東縁における完新世の断層活動と1894年(明治27年)庄内地震－観音寺断層のトレンチ発掘調査による検討－	鈴木康弘・池田安隆・渡辺満久・須貝俊彦・米倉伸之	地震, 第2輯	1989	42・151-159	13-6
12		観音寺断層	Quaternary tectonics and damaging earthquakes in Northeast Honshu, Japan.	Awata, Y. and Kakimi, T.	Earthq. Predict. Res.	1985	3・231-251	13-7
13		山谷新田北	酒田地域の地質	池辺穰・大沢・井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8
14		山谷新田北	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢・池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9
15		山谷新田北	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
16		松山町付近	酒田地域の地質	池辺穰・大沢・井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8 参照
17		松山町付近	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢・池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9 参照
18		松山町付近	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
19		立川町付近	酒田地域の地質	池辺穰・大沢・井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8 参照
20		立川町付近	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢・池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9 参照
21		立川町付近	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
22	庄内平野東縁断層	下当断層	酒田地域の地質	池辺穰・大沢・井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8 参照
23		下当断層	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢・池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9 参照
24		下当断層	鳥海山南麓－庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照

庄内平野東縁断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
25		野沢断層	酒田地域の地質	池辺穰・大沢 井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8 参照
26		野沢断層	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢 池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9 参照
27		野沢断層	鳥海山南麓-庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照
28		通越断層	酒田地域の地質	池辺穰・大沢 井上寛生	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1979	42	13-8 参照
29		通越断層	鶴岡地域の地質	土谷伸之・大沢 池辺穰	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1984	77	13-9 参照
30		通越断層	鳥海山南麓-庄内平野北部の地形について(演旨)	米地文夫	東北地理	1974	26・66	13-1 参照

山形盆地北部西縁断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	山形盆地北部西縁断層群	新山寺一境ノ目	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1
2		新山寺一境ノ目	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2
3		田沢一里	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
4		田沢一里	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
5		富並	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
6		富並	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
7		富並	山形盆地北西縁, 大高根における完新世断層露頭	鈴木康弘・阿子島功	活断層研究	1987	(4)・21-27	14-3
8		樽石北断層	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
9		樽石北断層	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
10		反田一東原	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
11		高森山断層	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
12		高森山断層	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
13		湯野沢断層	山形盆地の地形発達	藤原健蔵	地理評	1967	40・523-542	14-1 参照
14		湯野沢断層	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
15		湯野沢断層	山形・尾花沢盆地の第四系	山野井徹・阿子島功・鈴木雅宏	地質学会93年学術大会見学旅行案内書	1986	第4班・57-84	14-4
16		白島断層	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照
17		大久保東断層	新庄盆地・山形盆地の活構造と盆地発達過程	鈴木康弘	地理評	1988	61A・332-349	14-2 参照

長井西断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	長井西断層	長井西方断層	東北日本の断層盆地(上)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-655	9-1 参照
2		長井西方断層	Topography of the Yonezawa Basin viewed from the tectonic movement in the surrounding hill-lands.	Fujiwara, K.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1956	5・1-14	15-1

深谷・平井断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	深谷・平井断層	深谷断層	関東平野とその周辺の活断層と主要な構造的線状地形について	松田博幸・羽田野誠一・星埜由尚	地学雑誌	1977	86・92-109	16-1
2		深谷断層	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2
3		櫛挽断層	関東平野とその周辺の活断層と主要な構造的線状地形について	松田博幸・羽田野誠一・星埜由尚	地学雑誌	1977	86・92-109	16-1 参照
4		櫛挽断層	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2 参照
5		神川断層	関東平野とその周辺の活断層と主要な構造的線状地形について	松田博幸・羽田野誠一・星埜由尚	地学雑誌	1977	86・92-109	16-1 参照
6		神川断層	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2 参照
7		平井断層	関東平野とその周辺の活断層と主要な構造的線状地形について	松田博幸・羽田野誠一・星埜由尚	地学雑誌	1977	86・92-109	16-1 参照
8		平井断層	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2 参照
9		平井断層	群馬県吉井町中原で発見された衝上断層の露頭と平井断層の変位	杉原重夫	活断層研究	1989	(6)・30-36	16-3
10		江南断層	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2 参照
11		今市-菅谷	東京直下地震に関する調査研究	東京都防災会議	東京都(その1), (その2)	1974・75	323・223	16-2 参照

平山断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	平山断層	平山断層	箱根古期外輪山を切る平山断層	天野一男・横山健治・立川孝志	地質雑	1984	90・849-852	17-1
2		平山断層	伊豆半島北縁平山断層の活動期	上杉陽・米澤宏	地震	1987	2・40・122-124	17-2
3		平山断層	Analytical method for evaluating superficial fault displacements in volcanic air fall deposits: case of Hirayama fault, south of Tanzawa mountains, central Japan, since 21,500 years B.P.	Ito, T., Uesugi, Y., Ynezawa, H., Kano, K., Someno, M., Chiba, T. and Kimura, T.	J. Geophys. Res.	1987	92・B10・10683-10695	17-3
4		平山断層	丹沢南部・大磯丘陵周辺における中期更新以降の断層活動	狩野謙一・上杉陽・伊藤谷生・千葉達朗・米澤宏・染野誠	第四紀研究	1984	23・137-143	17-4
5		平山断層	Deformation of Hakone Volcano, South-West of Tokyo, Japan.	Kaneko, S.	J. Geol. Soc. Japan	1970	76・247-257	17-5
6		平山断層	Tectonic evolution along the northernmost border of the Philippine Sea plate since about 1 Ma.	Ito, T., Kano, K., Uesugi, Y., Kosaka, K., and Chiba, T.	Tectonophysics	1989	(160)・305-326	17-6

長野盆地西縁断層帯

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	長野盆地西縁断層帯	重地原断層	信濃川河系にそう礫層堆積地形とその意義	井上春雄	信州大教育学部研究論集	1962	13・89-100	18-1
2		長峰丘陵東縁断層	東北日本の断層盆地(上)(中)(下)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 747-760, 977-992	18-2
3		長峰丘陵東縁断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3
4		長峰丘陵東縁断層	先善光寺地震と長野盆地西縁断層系	佃栄吉・栗田泰夫	地震学会講演予稿集	1986	(2)・129	18-4
5		荒舟断層[静岡(荒船)付近]	Geology of the northern part of the Fossa Magna(Part3).	Saito, Y.	J. Fac. Education, Shinshu Univ.	1962	12・134-160	18-5
6		荒舟断層[静岡(荒船)付近]	長野断層系荒舟断層の発掘調査	佃栄吉・栗田泰夫・奥村晃史	地震学会講演予稿集	1990	(1)・13	18-6
7		長丘断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7
8		長丘断層	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・79-99	18-8
9		長丘断層	活褶曲	中村一明・太田陽子	第四紀研究	1968	7・200-211	18-9
10		長丘断層	善光寺型地震の再来間隔と地震時の断層変位量	栗田泰夫・佃栄吉・池田国昭・奥村晃史・渡辺和明・宮崎純一	地震学会講演予稿集	1990	(1)・12	18-10
11	長野盆地西縁断層帯	替佐断層	Geology of the northern part of the Fossa Magna(Part3).	Saito, Y.	J. Fac. Education, Shinshu Univ.	1962	12・134-160	18-5 参照
12		替佐断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
13		替佐断層	長野県の活断層-活断層分布図と資料-	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-11
14		三登山西麓	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8 参照
15		田子断層	東北日本の断層盆地(上)(中)(下)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 747-760, 977-992	18-2 参照
16		田子断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
17		若槻断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
18		若槻断層	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8 参照
19		上野断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
20		上野断層	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8 参照
21		飯山断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3 参照
22		飯山断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
23		飯山断層	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8 参照
24		浅野断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3 参照
25		浅野断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7 参照
26		浅野断層	長野盆地西縁部の第四系-長野盆地の形成史に関する研究-	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8 参照

長野盆地西縁断層帯

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
27	長野盆地西縁断層帯	三才断層	長野県の活断層－活断層分布図と資料－	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-11参照
28		三才断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7参照
29		三才断層	長野盆地西縁部の第四系－長野盆地の形成史に関する研究－	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8参照
30		城山断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
31		城山断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7参照
32		城山断層	長野盆地西縁部の第四系－長野盆地の形成史に関する研究－	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8参照
33		長峰地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
34		飯山地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
35		長丘地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
36		浅野地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
37		三才地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
38		城山地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
39		善光寺断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
40		善光寺断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7参照
41		善光寺断層	長野盆地西縁部の第四系－長野盆地の形成史に関する研究－	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8参照
42	長野盆地西縁断層帯	小松原断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
43		小松原断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7参照
44		小松原断層	長野盆地西縁部の第四系－長野盆地の形成史に関する研究－	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8参照
45		安茂里断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照
46		安茂里断層	長野県の活断層－活断層分布図と資料－	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-11参照
47		安茂里断層	長野盆地西縁部の第四系	豊野層団体研究グループ	第四紀	1974	(20)・38-49	18-7参照
48		安茂里断層	長野盆地西縁部の第四系－長野盆地の形成史に関する研究－	豊野層団体研究グループ	地質学論集	1977	13・89-99	18-8参照
49		善光寺地震断層	古記録による歴史的大地震の調査(第一報)(弘化四年三月二十四日善光寺地震)	佐山守・河角広	地震研究速報	1973	10(2)・1-50	18-12
50		安茂里地震断層	1847年善光寺地震にともなって出現した地震断層系	栗田泰夫・佃栄吉・奥村晃史	地震	1990	第2集・投稿中	18-3参照

糸魚川－静岡構造線

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	糸魚川－静岡構造線	牛伏寺断層	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1
2		牛伏寺断層	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basin s, central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-73	19-2
3		牛伏寺断層	Determination of late Quaternary rates of net slip on two major fault zones in central Japan.	Ikeda, Y. and Yonekura, N.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1986	18・49-63	19-3
4		牛伏寺断層	松本盆地南東部における糸静線の第四紀後期断層運動	奥村晃史・寒川旭・安田聡・斎藤英二・渡辺和明	地理学会予稿集	1987	31・60-61	19-4
5		牛伏寺断層	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1 参照
6		牛伏寺断層	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basin s, central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-74	19-2 参照
7		牛伏寺断層	Determination of late Quaternary rates of net slip on two major fault zones in central Japan.	Ikeda, Y. and Yonekura, N.	Bull. Dept. Geogr. Univ. Tokyo	1986	18・49-63	19-3 参照
8		牛伏寺断層	松本盆地南東部における糸静線の第四紀後期断層運動	奥村晃史・寒川旭・安田聡・斎藤英二・渡辺和明	地理学会予稿集	1987	31・60-61	19-4 参照
9		牛伏寺断層	糸魚川－静岡構造線活断層系牛伏寺断層(松本市並柳地区)のトレンチ発掘調査	奥村晃史・佃栄吉	地震予知連絡会報	1989	41・220-226	19-5
10		七曲り断層	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basin s, Central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-73	19-2 参照
11		下諏訪断層群	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basin s, Central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-73	19-2 参照
12		上諏訪断層群	諏訪の自然誌・地質編	諏訪の自然誌・地質編編集委員会	諏訪の自然誌・地質編, 諏訪教育会	1975		19-6
13		上諏訪断層群	長野県の活断層－活断層分布図と資料－	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-1 1 参照
14		諏訪湖南岸断層群	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basin s, Central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-73	19-2 参照
15		諏訪湖南岸断層群	空中写真を利用した活断層の変位の測定－諏訪湖南岸地域の活断層群－	安田聡・橋本知昌・寒川旭・斎藤英二・渡辺和明・宮崎純一	地調月報	1989	40・469-478	19-7
16		岡谷西方断層群	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1 参照
17		岡谷西方断層群	長野県の活断層－活断層分布図と資料－	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-1 1 参照
18		岡谷西方断層群	諏訪の自然誌・地質編	諏訪の自然誌・地質編編集委員会	諏訪の自然誌・地質編, 諏訪教育会	1975		19-6 参照
19		岡谷西方断層群	糸静線活断層系のトレンチ調査(岡谷地区, 1983)	岡谷断層発掘調査研究グループ	地震予知連絡会会報	1984	32・363-372	19-8
20		岡谷西方断層群	糸静線活断層系・岡谷断層(新称)のトレンチ調査結果, その1	東郷正美・今泉俊文・岡田篤正・松田時彦・岡谷断層発掘調査グループ	地理学会予稿集	1984	25・18-19	19-9

糸魚川－静岡構造線

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
21		岡谷西方断層群	糸静線活断層系・岡谷断層(新称)のトレンチ調査結果, その2	東郷正美・今泉俊文・岡田篤正・松田時彦・岡谷断層発掘調査グループ	地理学会予稿集	1984	25・20-21	19-10
22		岡谷西方断層群	糸静線活断層系・岡谷断層の第2次トレンチ調査結果	東郷正美・第2次岡谷断層発掘調査研究グループ	法政地理	1985	13・103-104	19-11
23		岡谷西方断層群	糸静線活断層系・岡谷断層の第2次トレンチ調査結果	東郷正美・第2次岡谷断層発掘調査研究グループ	地理学会予稿集	1985	28・64-65	19-11 参照
24		岡谷西方断層群	糸静線活断層系・岡谷断層の活動歴	東郷正美・岡谷断層発掘調査研究グループ	地震学会講演予稿集	1988	(1)・223	19-12
25		岡谷西方断層群	空中写真を利用した活断層の変位の測定－諏訪湖南岸地域の活断層群－	安田聡・橋本知昌・寒川旭・斎藤英二・渡辺和明・宮崎純一	地調月報	1989	40・469-478	19-7 参照
26		下円井断層	山梨県鳳凰山・地藏ヶ岳付近の地質	大塚弥之助	地震研彙報	1941	19・115-142	19-13
27		下円井断層	巨摩山地北部東縁の活断層	浅川一郎・平川一臣	活断層研究	1986	(2)・33-42	19-14
28		下円井断層	巨摩山地北東縁・下円井の活断層露頭	平川一臣・神沢公男・浅川一郎	活断層研究	1989	(6)・43-46	19-15
29		下円井断層	北部巨摩山地東麓の2,3の活断層露頭について	小山彰	活断層研究	1989	(6)・47-54	19-16
30	糸魚川－静岡構造線	竹宇断層	中部地方山間盆地の第四系	信州研究グループ	地団研専報	1969	15(日本の第四系)・217-262	19-17
31		大坊断層	中部地方山間盆地の第四系	信州研究グループ	地団研専報	1969	15(日本の第四系)・217-262	19-17 参照
32		鳳凰山断層	山梨県鳳凰山・地藏ヶ岳付近の地質	大塚弥之助	地震研彙報	1941	19・115-142	19-13 参照
33		鳳凰山断層	甲斐国地藏・鳳凰山下の逆断層	岡山俊雄	地理評	1929	5・949-960	19-18
34		鳳凰山断層	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19
35		千頭星山断層	1983年糸静線活断層系(富士見地区)トレンチ調査	平川一臣・東郷正美	活断層研究	1988	(5)・11-17	19-20
36		千頭星山断層	1983年糸静線活断層系(茅野地区)トレンチ調査	東郷正美	活断層研究	1988	(5)・18-22	19-21
37		一之瀬断層群	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1 参照
38		一之瀬断層群	市之瀬台地	崎田竜二	辻村太郎先生古稀記念論文集	1961	100-106	19-22
39		一之瀬断層群	甲府盆地の第四紀層について	甲府盆地団体研究グループ	第四紀	1966	(8)・23-33	19-23
40		一之瀬断層群	甲府盆地西縁・南縁の活断層	澤 祥	地理評	1981	54・473-492	19-24
41		釜無山断層群	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1 参照
42		釜無山断層群	塩尻・葦崎付近の新期断層地形	有井琢磨	内田寛一先生還暦記念地理学論文集	1952	下巻・235-255	19-25
43		釜無山断層群	塩尻葦崎線一部の新期運動による地形	岡山俊雄	地理評	1967	42・456および参考資料	19-26
44		釜無山断層群	八ヶ岳南麓の地質	甲府盆地団体研究グループ	地質雑	1969	75・401-416	19-27
45		釜無山断層群	山梨県における最近の地震活動	浜野一彦	山梨大教育学部研究報告	1977	28・61-66	19-28
46		釜無山断層群	中部フォッサマグナ西縁, 富士見周辺の活断層	澤祥	地理評	1985	58A・695-714	19-29
47		釜無山断層群	茅野市坂室付近の糸静線活断層系による変位地形	東郷正美	活断層研究	1987	(4)・42-46	19-30

糸魚川－静岡構造線

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
48		釜無山断層群	糸静線活断層系中部, 若宮, 大沢断層の性格と第四紀後期における活動－富士見, 茅野における発掘調査－	糸静線活断層系発掘調査研究グループ	地震研彙報	1988	63・349-408	19-31
49		釜無山断層群	下葛木衝上運動－糸魚川-静岡構造線の屈曲部－	小山彰	地質雑	1988	94・257-277	19-32
50		釜無山断層群	釜無川中流・国界橋の活断層露頭について	東郷正美・岡田篤正・平川一臣・今泉俊文	第四紀学会講演要旨集	1984	14・117-118	19-33
51		大熊断層	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basins, central Japan.	Nakata, T. and Chida N.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1974	24・59-74	19-2 参照
52		畑薙山	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basins, central Japan.	Nakata, T. and Chida N.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1974	24・59-74	19-2 参照
53		富士見山断層	巨摩山地・富士見山東麓の活断層	久保田薫・浅川一郎・平川一臣・今泉俊文	活断層研究	1989	(7)・43-48	19-34
54		富士見山断層	山梨県南西部富士見山断層崖の地質学的考察	大塚弥之助	地理評	1938	12・1-16	19-35
55		身延衝上	富士川谷新第三系の地質	松田時彦	地質雑	1961	67・79-96	19-36
56		神城断層	古神城湖堆積物からみた断層運動	下川浩一・山崎晴雄	第四紀学会講演要旨集	1987	17・92-93	19-37
57		松本盆地東縁断層	北安曇誌第1巻, 自然, 第1編	平林照雄	地形地質	1971	25-247	19-38
58		松本盆地東縁断層	長野県青木湖の音波探査結果(予報)	井内美郎・山崎晴雄・下川浩一	第四紀学会講演要旨集	1987	17・116-117	19-39
59		松本盆地東縁断層	北部フォッサマグナ, 神城断層の活動と古神城湖の消滅	柏木修一	地理学会予稿集	1987	33・6-7	19-40
60		松本盆地東縁断層	On the tectonic landforms in the north western part of the Nagano Prefecture, central Japan.	Une H.	Bull. Geogr. Surv. Inst.	1985	29・88-101	19-41
61		松本盆地東縁断層	松本盆地東南部における糸静線の第四紀後期断層運動	奥村晃史・寒川旭・安田聡・斎藤英二・渡辺和明	地理学会予稿集	1987	31・60-61	19-4 参照
62		松本市中山丘陵東側	地形図説(2)	金子史朗	地形図説(2), 古今書院	1972		19-1 参照
63		松本市中山丘陵東側	長野県諏訪湖西方鉢伏山付近の地質	小林国夫	長野県地質調査報告書	1955	155-171	19-42
64		松本市中山丘陵東側	On tectonic features around the Matsumoto and Suwa Basins, central Japan.	Nakata, T. and Chida, N.	Sci. Rep. Tohoku Univ. 7th ser.	1974	24・59-74	19-2 参照

富士山南西麓断層帯

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	富士山南西麓断層帯	大宮断層	日本の活断層分布図およびカタログ	松田時彦・岡田篤正・藤田和夫	地質学論集	1976	12・185-198・付図	11-2参照
2		大宮断層	東北日本の断層盆地(上)(中)(下)	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 747-760, 977-992	18-2参照
3		大宮断層	富士川下流流域の地質概観	井上春雄	地学雑誌	1934	46・18-34	20-1
4		大宮断層	富士火山の地質学的並びに岩石学的研究	津屋弘達	地震研彙報	1940	18・419-445	20-2
5		大宮断層	富士大宮附近の地形	川田三郎	地理評	1942	13・429-430	20-3
6		大宮断層	東海地方の変動地形調査(1)	羽田野誠一・一色朗	地震予知連絡会会報	1977	17・116-125	20-4
7		大宮断層	富士山南西麓, 大宮断層とその周辺の活断層	山崎晴雄・坂本亨・町田洋・羽田野誠一	第四紀学会講演要旨集	1979	8・5	20-5
8		大宮断層	プレート境界部の活断層-駿河湾北岸内陸地域を例にして-	山崎晴雄	月刊地球	1979	1・570-576	20-6
9		大宮断層	駿河湾北岸部における活断層の地質学的研究	山崎晴雄・坂本亨・秦光男・倉沢一・垣見俊弘・羽田野誠一・町田洋・大八木規夫	「東海地域の地震予知に関する総合研究」報告書	1981	177-207	20-7
10	富士山南西麓断層帯	入山瀬断層	富士火山の地質学的並びに岩石学的研究	津屋弘達	地震研彙報	1940	18・419-445	20-2参照
11		入山瀬断層	富士大宮附近の地形	川田三郎	地理評	1942	13・429-430	20-3参照
12		入山瀬断層	東海地方の変動地形調査(1)	羽田野誠一・一色朗	地震予知連絡会会報	1977	17・116-125	20-4参照
13		入山瀬断層	富士山南西麓, 大宮断層とその周辺の活断層	山崎晴雄・坂本亨・町田洋・羽田野誠一	第四紀学会講演要旨集	1979	8・5	20-5参照
14		入山瀬断層	駿河湾北岸の完新世垂直変動と測地的上下変動	羽田野誠一・津沢正晴・松島義章	地震予知連絡会会報	1979	21・101-106	20-8
15		入山瀬断層	静岡県庵原郡東部の地質構造	大塚弥之助	地震研彙報	1938	16・415-451	20-9
16		入山瀬断層	プレート境界部の活断層-駿河湾北岸内陸地域を例にして-	山崎晴雄	月刊地球	1979	1・570-576	20-6参照
17		入山瀬断層	駿河湾北岸部における活断層の地質学的研究	山崎晴雄・坂本亨・秦光男・倉沢一・垣見俊弘・羽田野誠一・町田洋・大八木規夫	「東海地域の地震予知に関する総合研究」報告書	1981	177-207	20-7参照
18		入山瀬断層	静岡県庵原地域の地質構造と入山断層系	杉山雄一・下川浩一	地調月報	1982	33・293-317	20-10
19		安居山断層	富士川下流流域の地質概観	井上春雄	地学雑誌	1934	46・18-34	20-1参照
20		安居山断層	富士火山の地質学的並びに岩石学的研究	津屋弘達	地震研彙報	1940	18・419-445	20-2参照
21		安居山断層	富士大宮附近の地形	川田三郎	地理評	1942	13・429-430	20-3参照
22		安居山断層	東海地方の変動地形調査(1)	羽田野誠一・一色朗	地震予知連絡会会報	1977	17・116-125	20-4参照
23		安居山断層	富士山南西麓, 大宮断層とその周辺の活断層	山崎晴雄・坂本亨・町田洋・羽田野誠一	第四紀学会講演要旨集	1979	8・5	20-5参照
24		安居山断層	静岡県庵原郡東部の地質構造	大塚弥之助	地震研彙報	1938	16・415-451	20-9参照
25		安居山断層	プレート境界部の活断層-駿河湾北岸内陸地域を例にして-	山崎晴雄	月刊地球	1979	1・570-576	20-6参照
26	富士山南西麓断層帯	芝川断層	プレート境界部の活断層-駿河湾北岸内陸地域を例にして-	山崎晴雄	月刊地球	1979	1・570-576	20-6参照

富士山南西麓断層帯

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
27		芝川断層	駿河湾北岸部における活断層の地質学的研究	山崎晴雄・坂本亨・秦光男・倉沢一・垣見俊弘・羽田野誠一・町田洋・大八木規夫	「東海地域の地震予知に関する総合研究」報告書	1981	177-207	20-7 参照
28		中山断層	静岡県庵原郡東部の地質構造	大塚弥之助	地震研彙報	1938	16・415-451	20-9 参照
29		入山断層	日本の活断層分布図およびカタログ	松田時彦・岡田篤正・藤田和夫	地質学論集	1976	12・185-198・付図	11-2 参照
30		入山断層	静岡県庵原郡東部の地質構造	大塚弥之助	地震研彙報	1938	16・415-451	20-9 参照
31		入山断層	静岡県庵原地域の地質構造と入山断層系	杉山雄一・下川浩一	地調月報	1982	33・293-317	20-10 参照
32		入山断層	静岡県庵原地域の地質層序と地質構造	駿河湾団研グループ	地団研専報	1982	24・157-167	20-11

伊那谷断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	伊那谷断層系	伊那断層	5万分の1地質図, [伊那]図幅	片田正人・磯見博	5万分の1地質図[伊那]図幅, 同説明書	1962	28	21-1
2		伊那断層	伊那谷の活断層	西田幸司	第四紀学会講演要旨集	1977	6・24	21-2
3		小黒川断層	伊那谷の活断層	西田幸司	第四紀学会講演要旨集	1977	6・24	21-2 参照
4		小黒川断層	御岳火山噴出物によるTephrochronology-中部地方の鮮新統及び最新統-	小林国夫・小林武彦・清水英樹	竹原平一教授記念論文集	1971	191-218	21-3
5		小黒川断層	伊那盆地北部における活断層のネットスリップ速度	阿部一・池田安隆	地理評	1987	60・667-681	21-4
6		三州街道断層	長野県の活断層-活断層分布図と資料-	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-11 参照
7		三州街道断層	伊那谷断層系の活動期について	松島信幸	月刊地球	1981	3・244-249	21-5
8	伊那谷断層系	田切断層	木曽山脈東麓における活断層の発達過程	山口勝	地理学会予稿集	1988	34・108-109	21-6
9		川路・竜丘断層	伊那谷西南部の構造地形	有井琢磨	地理評	1958	31・346-362	21-7
10		川路・竜丘断層	下伊那の地質解説(下伊那地質図説明書)	下伊那地質誌編集委員会	下伊那の地質解説(下伊那地質図説明書), 下伊那誌編纂委員会	1976		21-8
11		川路・竜丘断層	伊那谷断層系の活動期について	松島信幸	月刊地球	1981	3・244-249	21-5 参照
12		川路・竜丘断層	伊那谷南部, 伊那層の堆積構造からみた木曽・赤石両山脈の隆起時期	森山昭雄・光野克彦	地理評	1989	62・691-707	21-9
13		川路・竜丘断層	念通寺断層の諸問題, その1-垂直変位量を追って-	箕輪真之介	自然研究紀要	1978	(1)・1-5	21-10
14		川路・竜丘断層	念通寺断層の諸問題, その2-垂直変位量を追って-	箕輪真之介	自然研究紀要	1979	(2)・11-13	21-11
15		川路・竜丘断層	木曽川上流の山地地形と地殻変動	森山昭雄	愛知教育大研究報告	1989	38・1-19	21-12
16	伊那谷断層系	下伊那竜西断層	伊那谷西南部の構造地形	有井琢磨	地理評	1958	31・346-362	21-7 参照
17		下伊那竜西断層	下伊那の地質解説(下伊那地質図説明書)	下伊那地質誌編集委員会	下伊那の地質解説(下伊那地質図説明書), 下伊那誌編纂委員会	1976		21-8 参照
18		下伊那竜西断層	伊那谷西南部の断層について	有井琢磨	東京学芸大研究報告	1959	10・21-34	21-13
19		下伊那竜西断層	木曽山脈東麓における活断層の発達過程	山口勝	地理学会予稿集	1988	34・108-109	21-6 参照
20		下伊那竜西断層	長野県の活断層-活断層分布図と資料-	仁科良夫・松島信幸・赤羽貞幸・小坂共栄	信州大理学部紀要	1985	20・171-198	18-11 参照
21		下伊那竜西断層	伊那谷断層系の活動期について	松島信幸	月刊地球	1981	3・244-249	21-5 参照
22		下伊那竜西断層	長野県南部の第三紀層富草層群について	鹿間時夫	横浜国立大理科報告第2類	1954	(3)・71-108	21-14
23		駒場断層	伊那谷西南部の構造地形	有井琢磨	地理評	1958	31・346-362	21-7 参照
24		駒場断層	伊那谷西南部の断層について	有井琢磨	東京学芸大研究報告	1959	10・21-34	21-13 参照
25		木曽山脈山麓断層群	伊那谷断層帯の地下構造	池田安隆	地理学会予稿集	1987	33・10-11	21-15
26		木曽山脈山麓断層群	木曽山脈東麓における活断層の発達過程	山口勝	地理学会予稿集	1988	34・108-109	21-6 参照
27		木曽山脈山麓断層群	伊那谷断層系の活動期について	松島信幸	月刊地球	1981	3・244-249	21-5 参照

伊那谷断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
28		木曾山脈山麓断層群	伊那谷南部, 飯田周辺の活断層	沢祥・太田陽子・渡辺憲司	第四紀学会講演要旨集	1983	13・150-151	21-16
29		木曾山脈山麓断層群	伊那谷の段丘地形をつくる”前ずれ逆断層”	松島信幸	第四紀学会講演要旨集	1987	17・86-87	21-17
30		下伊那竜西断層	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
31		下伊那竜西断層	日本の活断層分布図およびカタログ	松田時彦・岡田篤正・藤田和夫	地質学論集	1976	12・185-198 および付図	11-2 参照
32		下伊那竜西断層	伊那谷西南部の構造地形	有井琢磨	地理評	1958	31・346-362	21-7 参照
33		下伊那竜西断層	伊那谷西南部の断層について	有井琢磨	東京学芸大研究報告	1959	10・21-34	21-13 参照
34		下伊那竜西断層	長野県下伊那郡阿南町に分布する中新世, 富草積成盆地の構造	宇井啓高	地質雑	1970	76・131-142	21-18

阿寺断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	阿寺断層系	阿寺断層系	5万分の1地質図「妻籠」図幅	山田直利・村山正郎	5万分の1地質図「妻籠」図幅, 同説明書, 地質調査所	1958		2 2 - 1
2		阿寺断層系	Atera Fault and its displacement vectors.	Sugimura, A. and Matsuda, T.	Geol. Soc. Amer. Bull.	1965	76・509-522	2 2 - 2
3		阿寺断層系	水準測量改測の結果と地形の関係	岡山俊雄	地理評	1930	6・440-452	2 2 - 3
4		阿寺断層系	断層谷の性質並に日本島一部の地形学的断層構造	辻村太郎	地理評	1926	2・131-152, 192-218	2 2 - 4
5		阿寺断層系	日本中央山地の切峰面及び区分	岡山俊雄	地理評	1930	6・479-499	2 2 - 5
6		阿寺断層系	岐阜県東部小野沢峠における阿寺断層の露頭と新期断層運動	岡田篤正・松田時彦	地理評	1976	49・632-639	2 2 - 6
7		阿寺断層系	5万分の1地質図「付知」図幅	河田清雄	5万分の1地質図「付知」図幅, 同説明書, 地質調査所	1961		2 2 - 7
8		阿寺断層系	岐阜県坂下町における阿寺断層による段丘面の転移	木曾谷第四紀研究グループ	第四紀研究	1964	3・153-166	2 2 - 8
9		阿寺断層系	空中写真による活断層の認定と実例	松田時彦・太田陽子・岡田篤正・清水文健・東郷正美	地震研彙報	1977	52・461-496	2 2 - 9
10		阿寺断層系	岐阜県中部地震-1969年9月9日-被害地調査報告	松田時彦・垣石幸正	地震研彙報	1970	48・1267-1279	2 2 - 1 0
11		阿寺断層系	阿寺断層中北部, 舞台峠周辺の地形発達と断層変位地形	岡田篤正	地理評	1975	48・72-78	2 2 - 1 1
12		阿寺断層系	5万分の1地質図「加子母」図幅	山田直利	5万分の1地質図「加子母」図幅, 同説明書, 地質調査所	1961		2 2 - 1 2
13		阿寺断層系	萩原地域の地質	河田清雄・磯見博・杉山雄一	地域地質研究報告(5万分の1図幅)	1988		2 2 - 1 3
14		阿寺断層系	馬瀬川ダム中呂発電所新設工事第3工区ずい道掘さく地域の地質調査報告(受託調査報告)	山田直利・河田清雄	馬瀬川ダム中呂発電所新設工事第3工区ずい道掘さく地域の地質調査報告(受託調査報告), 地質調査所	1976		2 2 - 1 4
15		阿寺断層系	阿寺断層を抜く, 中呂発電所放水トンネル	彦坂六男・吉田和夫	トンネルと地下	1978	9・481-487	2 2 - 1 5
16		阿寺断層系	阿寺断層の第2次トレンチ発掘調査	地質調査所	地震予知連絡会会報	1986	36・157-163	2 2 - 1 6
17		阿寺断層系	1985年阿寺断層(馬籠地区)トレンチ調査	粟田泰夫	活断層研究	1988	(5)・50-54	2 2 - 1 7
18		阿寺断層系	1985年阿寺断層(坂下地区)トレンチ調査	佃栄吉	活断層研究	1988	(5)・55-59	2 2 - 1 8
19		阿寺断層系	坂下町の上部更新統と阿寺断層	酒井潤一	月刊地球	1981	3・200-204	2 2 - 1 9
20		阿寺断層系	活断層としての阿寺断層	岡田篤正	月刊地球	1981	3・372-382	2 2 - 2 0
21		阿寺断層系	阿寺断層のトレンチ発掘調査	地質調査所	地震予知連絡会会報	1982	28・299-303	2 2 - 2 1
22		阿寺断層系	1981年阿寺断層(倉屋地区)トレンチ調査	佃栄吉・山崎晴雄	活断層研究	1986	(3)・37-43	2 2 - 2 2
23		阿寺断層系	1985年阿寺断層(小和知地区)トレンチ調査	山崎晴雄	活断層研究	1988	(5)・65-70	2 2 - 2 3
24		阿寺断層系	阿寺断層に沿う第四紀後期の断層変位から推定した地震活動	平野信一・中田高	地理評	1981	54・231-246	2 2 - 2 4
25		阿寺断層系	1986年阿寺断層系・萩原断層(乗政地区)トレンチ調査	岡田篤正	活断層研究	1988	(5)・65-70	2 2 - 2 5

屏風山断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	屏風山断層	屏風山断層	岐阜県岩村町付近の断層地形	有井琢磨	新地理	1958	7・110-121	2 3 - 1
2		屏風山断層	木曾川・矢作川流域の地形と地殻変動	森山昭雄	地理評	1987	60・67-92	2 3 - 2
3		屏風山断層	恵那盆地の地形発達について	木曾敏行	地理評	1959	32・365-373	2 3 - 3
4		屏風山断層	恵那・中津川盆地の地形発達史	森山昭雄	愛知教育大研究報告	1985	34(自然科学) ・1-15	2 3 - 4

福井平野東縁断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	福井平野東縁断層群	剣ヶ岳断層	東北日本の断層盆地（上）（中）（下）	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 7 47-760, 977-9 92	1 8 - 2 参 照
2		細呂木断層	東北日本の断層盆地（上）（中）（下）	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 7 47-760, 977-9 92	1 8 - 2 参 照
3		篠岡断層	福井地震の被害と地変	小笠原義勝	地理調査所時報, 特報	1949	2・1-13	2 4 - 1
4		篠岡断層	東北日本の断層盆地（上）（中）（下）	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 7 47-760, 977-9 92	1 8 - 2 参 照
5		松岡断層	東北日本の断層盆地（上）（中）（下）	辻村太郎	地理評	1932	8・641-658, 7 47-760, 977-9 92	1 8 - 2 参 照
6		福井地震断層	福井地震の被害と地変	小笠原義勝	地理調査所時報, 特報	1949	2・1-13	2 4 - 1 参 照
7		福井地震断層	富山県地震対策基礎調査報告書	藤井昭二・川崎一朗・竹村利夫	富山県地震対策基礎調査報告書, 富山県	1979		2 4 - 2
8		福井東側地震断層	福井地震の被害と地変	小笠原義勝	地理調査所時報, 特報	1949	2・1-13	2 4 - 1 参 照

一志断層系

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	一志断層系	治田断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1
2		治田断層	鈴鹿山脈東麓北部地域の変動地形	太田陽子・寒川旭	第四紀学会講演要旨集	1979	9・77-78	25-2
3		治田断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3
4		治田断層	鈴鹿山地東麓・大安町付近における一志断層系の性状	東郷正美・岡田篤正	活断層研究	1989	(7)・71-81	25-4
5		宇賀断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1 参照
6		宇賀断層	鈴鹿山脈東麓北部地域の変動地形	太田陽子・寒川旭	第四紀学会講演要旨集	1979	9・77-78	25-2 参照
7		宇賀断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
8		田光断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1 参照
9		藤原岳断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1 参照
10		藤原岳断層	一志断層による段丘変位(予報)	森一郎・山田純	三重大教育学部研究紀要	1977	28・27-33	25-5
11		藤原岳断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
12	一志断層系	新町断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1 参照
13		新町断層	鈴鹿山脈東麓北部地域の変動地形	太田陽子・寒川旭	第四紀学会講演要旨集	1979	9・77-78	25-2 参照
14		新町断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
15		釈迦ヶ岳断層	鈴鹿山脈東麓の活断層	武久義彦	奈良女子大地理学研究報告	1979	(1)・119-138	25-1 参照
16		釈迦ヶ岳断層	三重県菰野地方の新生代層	秦好利	資源総合開発研報	1967	(4)・77-107	25-6
17		釈迦ヶ岳断層	鈴鹿山脈東麓北部地域の変動地形	太田陽子・寒川旭	第四紀学会講演要旨集	1979	9・77-78	25-2 参照
18		釈迦ヶ岳断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
19		御在所岳断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
20		御在所岳断層	御在所山地域の地質	原山智・宮村学・吉田史郎・三村弘二・栗木史雄	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1989		25-7
21		入道ヶ岳断層	亀山地域の地質	宮村学・吉田史郎・山田直利・佐藤岱生・寒川旭	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1981		25-8
22		鈴鹿坂本断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照
23		安楽寺断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3 参照

白木・明星山断層群

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	白木・明星山断層群	明星ヶ岳断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3参照
2		戸島西方断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3参照
3		棕本断層	亀山地域の地質	宮村学・吉田史郎・山田直利・佐藤岱生・寒川旭	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1981		25-8参照
4		庄田断層	津市西方における一志断層系の新期断層活動	八木浩司・寒川旭	東北地理	1980	32・211-216	26-1
5		白木断層	亀山地域の地質	宮村学・吉田史郎・山田直利・佐藤岱生・寒川旭	地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所	1981		25-8参照
6		石樽北山断層	鈴鹿山脈東麓地域の変位地形と第四紀地殻変動	太田陽子・寒川旭	地理評	1984	57A・237-262	25-3参照
7		小山断層	一志断層系による段丘変位(予報)	森一郎・山田純	三重大教育学部研究紀要	1977	28・27-33	25-5参照
8		島戸断層	三重県松阪およびその周辺地域の地質構造	恒石幸正	地震研彙報	1970	48・645-667	26-2
9		島戸断層	三重県雲出川南縁の一志層群について	山田純	藤本治義記念論文集	1958	277-281	26-3
10		島戸断層	Geology, paleontology and sedimentary structures of the Tertiary formations developed in the environs of Tsu City, Mie Pref. Japan.	Araki, Y.	Bull. Liberal Arts Dept. Mie Univ., Spec.	1960	1・1-118	26-4
11		島戸断層	三重県一志郡地方の新生界	滝本清	地球	1935	23・326-338	26-5
12		島戸断層	三重県中部の中新統一志層群	柴田博	地質雑	1967	73・337-346	26-6
13		島戸断層	志摩半島の活断層に関する資料	武藤正明	活断層研究	1989	(7)・82-86	26-7
14		山口断層	三重県松阪およびその周辺地域の地質構造	恒石幸正	地震研彙報	1970	48・645-667	26-2参照
15		山口断層	Geology, paleontology and sedimentary structures of the Tertiary formations developed in the environs of Tsu City, Mie Pref. Japan.	Araki, Y.	Bull. Liberal Arts Dept. Mie Univ., Spec.	1960	1・1-118	26-4参照

比良断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	比良断層	比良断層	近畿の第四紀地殻変動と地震活動	藤田和夫	地質ニュース	1976	(267)・10-20	2 7 - 1
2		比良断層	琵琶湖西方の古琵琶湖層	池辺展生	地球	1933	21・241-260	2 7 - 2
3		比良断層	琵琶湖周辺の活断層系	村井勇・金子史郎	地震研彙報	1955	50・93-108	2 7 - 3
4		比良断層	比良山地東麓南部の活構造	寒川旭・杉山雄一・八木浩司・奥村晃司	第四紀学会講演要旨集	1982	12・82-83	2 7 - 4
5		比良断層	微小地震の活動様式－近畿地方中北部の微小地震活動について－	前田直樹・渡辺晃	地震，第2輯	1984	37・579-598	2 7 - 5

生駒断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	生駒断層	生駒断層	近畿中部に於ける地質構造線 (1)	中村新太郎	地球	1934	22・155-163	28-1

上町断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	上町断層	上町断層	Quaternary geology of Osaka with special referenceto land subsidence	Ikebe, N., Iwatsu, J. and Takenaka, J.	J. Geosci. Osaka City Univ.	1970	13・39-98	29-1
2		上町断層	六甲山塊の地質と構造(地質図付き)	上治寅次郎	地学雑誌	1937	49・481-497	29-2
3		上町断層	中期更新世の断層地塊運動と海水準変動	藤田和夫	月刊地球	1986	8・725-728	29-3

三百・羽曳野・天理撓曲

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	三百・羽曳野・天理撓曲	三百断層	信楽・大阪高原の新生代層とそれにまつわる諸問題－信楽・大和高原のネオテクトニクス研究その1－	横田修一郎・松岡数充・屋鋪増弘	地球科学	1978	32・133-150	30-1
2		三百断層	奈良南方の新生代層	坂本亨	地質雑	1955	61・62-72	30-2
3		三百断層	奈良南方の第三紀層	槇山次郎	地球	1931	15・46-56	30-3
4		天理撓曲	信楽・大阪高原の新生代層とそれにまつわる諸問題－信楽・大和高原のネオテクトニクス研究その1－	横田修一郎・松岡数充・屋鋪増弘	地球科学	1978	32・133-150	30-1 参照
5		天理撓曲	奈良南方の新生代層	坂本亨	地質雑	1955	61・62-72	30-2 参照
6		天理撓曲	奈良盆地東縁地域の活断層	寒川旭・衣笠善博・奥村晃史・八木浩司	第四紀研究	1985	24・85-97	30-4
7		羽曳野撓曲	大阪南東部の大阪層群	吉川周作	地質雑	1973	79・33-45	30-5

葛城断層

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	葛城断層	葛城東麓断層群	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
2		葛城東麓断層群	Crustal movement suggested by fault scarplets along the eastern foot of the Kongo-Katsuragi Range.	Takehisa, Y.	(奈良女子大文学部) 研究年報	1973	(16)・145-167	31-1
3		葛城断層	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
4		葛城断層	Crustal movement suggested by fault scarplets along the eastern foot of the Kongo-Katsuragi Range.	Takehisa, Y.	(奈良女子大文学部) 研究年報	1973	(16)・145-167	31-1 参照

中央構造線（赤石西）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	中央構造線（赤石西）	中央構造線	「赤石山地の中央構造線現地討論会」報告	松島信幸・坂本正夫・市沢英利	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・97-102	3 2 - 1
2		中央構造線	赤石山地の中央構造線に沿う変位地形	坂本正夫	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・103-115	3 2 - 2
3		中央構造線	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」，東海大学出版会	1973	49-86	1 9 - 1 9 参照
4		中央構造線	日本の活断層分布図およびカタログ	松田時彦・岡田篤正・藤田和夫	地質学論集	1976	12・185-198 および付図	1 1 - 2 参 照
5		中央構造線	愛知県と周辺地域における活断層と歴史地震	岡田篤正	愛知県の地質・地盤その4（活断層），愛知県防災会議地震部会	1979		3 2 - 3

中央構造線（伊勢・紀伊半島）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	中央構造線（伊勢・紀伊半島）	中央構造線	伊勢志摩地方の地質及び地形から推定される主要なる断層	大塚弥之助	地理評	1928	4・649-670	3 3 - 1
2		千股（衝上）断層	吉野川流域の地質概要	志井田功	奈良県教育委員会「奈良県総合文化調査報告書・吉野川流域」	1954	1-13	3 3 - 2
3		千股（衝上）断層	Transcurrent displacement along the Median Line, Southwestern Japan.	Kaneko, S.	New Zealand J. Geol. Geophy.	1966	9・45-59	3 3 - 3
4		千股（衝上）断層	紀伊半島中部の中央構造線	梅田甲子郎	杉山隆二編「中央構造線」，東海大学出版会	1973	139-147	3 3 - 4
5		千股（衝上）断層	紀伊半島西部の中央構造線の新期活動に関する断層露頭について	寒川旭・岡田篤正	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・51-60	3 3 - 5
6		金剛断層	近畿・四国の中央構造線のネオテクトニクス	藤田和夫・奥田悟	杉山隆二編「中央構造線」，東海大学出版会	1973	97-109	3 3 - 6
7		金剛断層	五条市北方，金剛断層の露頭－奥田悟による－	藤田和夫	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1978	(3)・79-80	3 3 - 7
8		五条谷断層	紀ノ川中流域の地形発達と地殻運動	寒川旭	地理評	1966	50・578-595	3 3 - 8
9		五条谷断層	和歌山県かつらぎ町－高野口町地域の和泉層群の地質構造（予報）	近畿西部MTLグループ	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・71-76	3 3 - 9
10		五条谷断層	和泉山脈南麓域における中央構造線の断層変位地形と断層運動	岡田篤正・寒川旭	地理評	1978	51・385-405	3 3 - 1 0
11	中央構造線（伊勢・紀伊半島）	中央構造線	和歌山県かつらぎ町－高野口町地域の和泉層群の地質構造（予報）	近畿西部MTLグループ	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・71-76	3 3 - 9 参照
12		中央構造線	和泉山脈南麓域における中央構造線の断層変位地形と断層運動	岡田篤正・寒川旭	地理評	1978	51・385-405	3 3 - 1 0 参照
13		中央構造線	紀の川流域の”中央構造線”に沿う地質	河田喜代助	矢部教授還暦記念論文集	1939	1・39-53	3 3 - 1 1
14		中央構造線	Geologic guide for excursion to several areas in the Kin ki District, central Japan.	Ikebe, N. Ichikawa, K. and Huzita, K.	J. Geosci. Osaka City Univ.	1968	11・79-103	3 3 - 1 2
15		中央構造線	紀伊半島西部地域における中央構造線の反射波構造	吉川宗治・岩崎好規・井川猛・黒田徹・横田裕	地震学会講演予稿集	1987	(1)・319	3 3 - 1 3
16		中央構造線	中央構造線の分布・性状と活動性－紀伊半島中・西部地域における断層露頭の調査および解析－	角田隆彦・佐竹義典・金折裕司	電力中央研究所報告	1981	380044	3 3 - 1 4
17		根来断層	紀伊半島西部の中央構造線の新期活動に関する断層露頭について	寒川旭・岡田篤正	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・51-60	3 3 - 5 参照
18		根来断層	和歌山県かつらぎ町－高野口町地域の和泉層群の地質構造（予報）	近畿西部MTLグループ	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・71-76	3 3 - 9 参照
19		根来断層	和泉山脈南麓域における中央構造線の断層変位地形と断層運動	岡田篤正・寒川旭	地理評	1978	51・385-405	3 3 - 1 0 参照
20		根来断層	和泉山地南縁における中央構造線活断層系の活動様式と断層変位速度（根来断層の新期断層運動について）	岡田篤正・寒川旭	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・37-47	3 3 - 1 5

中央構造線（伊勢・紀伊半島）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
21		根来断層	根来断層－和泉山脈南縁の中央構造線の副断層－	篠原正男・宮田隆夫・市川浩一郎	地質雑	1983	89・395-402	3 3 - 1 6
22		根来断層	紀伊水道付近の海底地形，地質構造について	海上保安庁水路部	地震予知連絡会会報	1978	19・129-131	3 3 - 1 7
23		桜池断層	和泉山脈南麓域における中央構造線の断層変位地形と断層運動	岡田篤正・寒川旭	地理評	1978	51・385-405	3 3 - 1 0 参照
24		紀淡海峡断層群	紀伊水道付近の海底地形，地質構造について	海上保安庁水路部	地震予知連絡会会報	1978	19・129-131	3 3 - 1 7 参照

中央構造線（四国）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
1	中央構造線（四国）	中央構造線活断層系	淡路島の亜炭	東中秀雄・永井浩三	地調月報	1960	11・207-220, 273-288	34-1
2		中央構造線活断層系	兵庫県地質鉱産図（17万分の1）	池辺展生ほか	兵庫県地質鉱産図（17万分の1）, 同説明書. 兵庫県（地質図作成委員会）	1965		34-2
3		中央構造線活断層系	吉野川流域の中央構造線の断層変位地形と断層運動速度	岡田篤正	地理評	1970	43・1-21	34-3
4		中央構造線活断層系	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
5		中央構造線活断層系	The geology of Kagawa and northern Ehime Prefecture, Shikoku, Japan.	Saito, M.	Mem. Fac. Agric. Kagawa Univ.	1962	10・1-74	34-4
6		中央構造線活断層系	Geomorphic development of the Izumi and Sanuki Ranges and relating crustal movement.	Sangawa, A.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1978	28・2・313-338	34-5
7		中央構造線活断層系	四国吉野川下流右岸の地形	寺戸恒夫	地理科学	1967	8・28-38	34-6
8		中央構造線活断層系	四国島の中央構造線の新期の活動様式	須鎗利己・阿子島功	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	177-189	34-7
9		中央構造線活断層系	吉野川沿岸の中央構造線のネオテクトニクスの諸問題	須鎗利己・阿子島功	M T L（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・17-27	34-8
10		中央構造線活断層系	淡路島最南端の和泉層群	田中啓策・松本達郎・前田保夫	地学雑誌	1952	58・67-72	34-9
11		中央構造線活断層系	徳島県土柱・鴨島-川島地域の第四系	須鎗利己ほか	徳島大芸紀要	1965	15・13-23	34-10
12		中央構造線活断層系	徳島県阿波郡市場町切幡・観音付近の“中央構造線”	中野光雄・榎本五郎・中川典	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	191-195	34-11
13		中央構造線活断層系	徳島県見馬郡内の“中央構造線”	榎本五郎・中川典・中野光雄	地理科学	1969	11・31-38	34-12
14		中央構造線活断層系	讃岐山脈南麓域の中央構造線に沿う新期断層地形と断層運動-須鎗・阿子島氏の反論に対する回答（その2）および断層変位地形の補遺-	岡田篤正	M T L（中央構造線）研究連絡紙	1978	(3)・25-35	34-13
15		中央構造線活断層系	紀伊半島中・西部と四国北東部（讃岐山脈北麓域）の断層活動と地形発達について	寒川旭	M T L（中央構造線）研究連絡紙	1978	(3)・49-60	34-14
16		中央構造線活断層系	Quaternary faulting along the Median Tectonic Line of southwest Japan.	Okada, A.	Mem. Geol. Soc. Japan	1980	18・79-108	34-15
17		中央構造線活断層系	Neotectonic movement of Median Tectonic Line in eastern Shikoku	Suyari, K. and Akejima, I.	Mem. Geol. Soc. Japan	1980	18・109-128	34-16
18	中央構造線（四国）	中央構造線活断層系	四国及び淡路島の中央構造線沿いに分布する鮮新・更新統について（予報）	水野清秀	地調月報	1987	38・171-190	34-17
19		中央構造線活断層系	讃岐平野南部の活構造-鮎滝断層-	小林浩治・木村学・寒川旭	活断層研究	1986	(2)・55-63	34-18
20		中央構造線活断層系	中央構造線の分布・性状と活動性-四国北東地域における断層露頭の調査および解析-	金折裕司・佐竹義典・猪原芳樹	電力中央研究所報告	1980	380004・1-153	34-19

中央構造線（四国）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
21		中央構造線活断層系	淡路島最南端付近における三波川結晶片岩類起源の断層粘土の確認とその意義	金折裕司・佐竹義典・猪原芳樹・妹尾正晴・神田淳男	地質雑	1982	88・701-704	34-20
22		中央構造線活断層系	吉野川中流実馬町荒川の洪積層の花粉分析	山崎晴雄	活断層研究	1985	(1)・93-96	34-21
23		中央構造線活断層系	The history of fault movement since late Pliocene in the central part of Southwest Japan	Sangawa, A.	Royal Soc. New Zealand Bull.	1986	24・75-85	34-22
24		中央構造線活断層系	讃岐平野南縁, 長尾断層の活動に関する年代資料	熊木洋太・坂井尚登・小野塚良三	活断層研究	1986	(2)・51-53	34-23
25		中央構造線活断層系	中央構造線吉野川地溝の形成過程	阿子島功・須鎗利己	地球科学	1989	43・428-442	34-24
26		中央構造線活断層系	四国中・東部における中央構造線の断層露頭と地形面の編年に関する資料	岡田篤正・堤浩之	活断層研究	1990	(8)・31-47	34-25
27		友ヶ島水道海底断層群	紀伊水道付近の海底地形, 地質構造について	海上保安庁水路部	地震予知連絡会会報	1978	19・129-131	33-17 参照
28		友ヶ島水道海底断層群	紀伊水道における中央構造線の位置	茂木昭夫・高梨政雄・中嶋逞	地理学会予行集	1979	16・54-55	34-26
29		友ヶ島水道海底断層群	海底の活断層	茂木昭夫	地理	1979	24(9)・21-27	34-27
30		鳴門海峡南	紀伊水道付近の海底地形, 地質構造について	海上保安庁水路部	地震予知連絡会会報	1978	19・129-131	33-17 参照
31		鳴門海峡南	紀伊水道における中央構造線の位置	茂木昭夫・高梨政雄・中嶋逞	地理学会予行集	1979	16・54-55	33-26 参照
32		鳴門海峡南	海底の活断層	茂木昭夫	地理	1979	24(9)・21-27	33-27 参照
33		鳴門海峡南	鳴門海峡の海底地形・地質構造	海上保安庁水路部	地震予知連絡会会報	1979	21・137-139	34-28
34	中央構造線（四国）	中央構造線活断層系	阿波池田付近の中央構造線の新期断層運動	岡田篤正	第四紀研究	1968	7・15-26	34-29
35		中央構造線活断層系	吉野川流域の中央構造線の断層変位地形と断層運動速度	岡田篤正	地理評	1970	43・1-21	34-3 参照
36		中央構造線活断層系	讃岐山脈中部南麓に発達する中央構造線	中川典・中野光雄	地質雑	1964	74・479-484	34-30
37		中央構造線活断層系	Geomorphic development of the Izumi and Sanuki Ranges and relating crustal movement.	Sangawa, A.	Sci. Rep. Tohoku Univ., 7th ser.	1978	28・2・313-338	34-5 参照
38		中央構造線活断層系	阿波池田付近の第四紀における中央構造線の断層運動について	古谷尊彦	東北地理	1977	29・28-34	34-31
39		中央構造線活断層系	中央構造線の分布・性状と活動性－四国北東地域における断層露頭の調査および解析－	金折裕司・佐竹義典・猪原芳樹	電力中央研究所報告	1980	380004・1-153	34-19 参照
40		中央構造線活断層系	四国中・東部における中央構造線の断層露頭と地形面の編年に関する資料	岡田篤正・堤浩之	活断層研究	1990	(8)・31-47	34-25 参照
41		中央構造線活断層系	四国中央北縁部における中央構造線の第四紀断層運動	岡田篤正	地理評	1973	46・295-322	34-32
42		中央構造線活断層系	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
43		中央構造線活断層系	阿波池田付近の中央構造線の新期断層運動	岡田篤正	第四紀研究	1968	1・15-26	34-29 参照

中央構造線（四国）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
44		中央構造線活断層系	四国北西部における中央構造線の第四紀断層運動	岡田篤正	愛知県立大文学部論集	1972	23・68-94	34-33
45		中央構造線活断層系	西南日本に於ける中央構造線中区の考察	矢部長克・尾崎博	科学博研究報告	1961	5・121-141	34-34
46		中央構造線活断層系	The geology of Kagawa and northern Ehime Prefecture, Shikoku, Japan.	Saito, M.	Mem. Fac. Agric. Kagawa Univ.	1962	10・1-74	34-4 参照
47		中央構造線活断層系	讃岐山脈西部の”中央構造線”	中川典	広島大地学研究報告	1965	14・239-252	34-35
48		中央構造線活断層系	愛媛県の中央構造線	永井浩三	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	192-207	34-36
49		中央構造線活断層系	伊予三島市付近の中央構造線	永井浩三	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1978	(3)・11-15	34-37
50		中央構造線活断層系	中央構造線中央部における最新の断層運動－沖積世の変位地形・変位量・地震との関係について－	岡田篤正	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・29-44	34-38
51		中央構造線活断層系	東予の中央構造線に沿う地帯の最近の地殻運動	永井浩三	愛媛大紀要	1955	2-2・155-168	34-39
52		中央構造線活断層系	新期の断層運動による断層地形	辻村太郎・淡路正三	地理評	1934	10・1116-1136	34-40
53		中央構造線活断層系	周桑郡小松町南川の新时期断層	高橋和	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1976	(1)・16-17	34-41
54		中央構造線活断層系	四国大枋付近の地質	藤田旭	地質雑	1943	50・207-215	34-42
55		中央構造線活断層系	昭和44年度広域調査報告書（吉野川流域）	金属鉱物探鉱促進事業団	昭和44年度広域調査報告書（吉野川流域）, 通産省	1970		34-43
56		中央構造線活断層系	徳島県川井近傍の地すべりの地質構造規制	藤田崇・平野昌繁・波田重熙	地すべり	1976	13・25-36	34-44
57		中央構造線活断層系	四国外帯の上韭生川－鮎喰川断層	伊熊俊幸・市川浩一郎	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1978	(3)・43-48	34-45
58		中央構造線活断層系	中央構造線の分布・性状と活動性－四国北東地域における断層露頭の調査および解析－	金折裕司・佐竹義典・猪原芳樹	電力中央研究所報告	1980	380004	34-19 参照
59		中央構造線活断層系	四国中央部における中央構造線と畑野断層について	高橋治郎	愛媛大教育学部紀要, 自然科学	1982	2・79-89	34-46
60		中央構造線活断層系	Recent faulting along the Hatanano Fault, central Shikoku.	Grapes, R. H. and Takahashi, J.	Mem. Ehime Univ., Sci., Ser. D, X-4	1987	15-21	34-47
61		中央構造線活断層系	中央構造線（岡村断層）のトレンチ調査	京都大学防災研究所	地震予知連絡会会報	1985	33・446-454	34-48
62		中央構造線活断層系	1984年中央構造線活断層系・岡村断層（西条地区）トレンチ調査	岡田篤正	活断層研究	1988	(5)・35-41	34-49
63		中央構造線活断層系	トレンチ掘削調査による中央構造線活断層系岡村断層の活動時期と変位量の解明	岡田篤正・中田高・堤浩之	地学雑誌	1989	98・489-491	34-50
64	中央構造線（四国）	中央構造線活断層系	動いている中央構造線	岡田篤正	科学	1971	41・666-669	34-51
65		中央構造線活断層系	中央構造線の第四紀断層運動について	岡田篤正	杉山隆二編「中央構造線」, 東海大学出版会	1973	49-86	19-19 参照
66		中央構造線活断層系	四国北西部における中央構造線の第四紀断層運動	岡田篤正	愛知県立大文学部論集（一般教育編）	1972	23・68-94	34-34 参照

中央構造線（四国）

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名（書名）	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備考
67		中央構造線活断層系	愛媛県温泉郡重信川上流付近の地質－主として和泉層群について－	中川衷三	徳島大学芸学部紀要	1958	8・37-45	34-52
68		中央構造線活断層系	中央構造線中央部における最新の断層運動－沖積世の変位地形・変位量・地震との関係について－	岡田篤正	MTL（中央構造線）研究連絡紙	1977	(2)・29-44	34-38 参照
69		中央構造線活断層系	The geology of Kagawa and northern Ehime Prefecture, Shikoku, Japan.	Saito, M.	Mem. Fac. Agric. Kagawa Univ.	1962	10・1-74	34-4 参照
70		中央構造線活断層系	四国西部における中央構造線の活動についての考察	永井浩三	愛媛大紀要	1954	2-A・2・63-73	34-53
71		中央構造線活断層系	松山南方における中央構造線	平岡俊光	駒沢大大学院地理学研究ノート	1973	3・13-24	34-54
72		中央構造線活断層系	佐田岬半島北岸海域の地質構造－音波探査による海底地質の考察－	緒方正虔	電力中央研究所報告	1975	375006	34-55
73		中央構造線活断層系	On the echelon structures of Shikoku and the origin of Japanese arcs.	Ehara, S.	Japan. J. Geol. Geogr.	1936	13・1-24	34-56
74		中央構造線活断層系	愛媛県の地質，新版20万分の1地質図	永井浩三・堀越和衛・宮久三千年・鹿島愛彦・芳我幸正	愛媛県の地質，新版20万分の1地質図，同説明書，トモエヤ	1967		34-57
75		中央構造線活断層系	中央構造線活断層系の性質と形成過程	岡田篤正	月刊地球	1980	2・510-517	34-58
76		中央構造線活断層系	Quaternary faulting along the Median Tectonic Line of southwest Japan.	Okada, A.	Mem. Geol. Soc. Japan	1980	18・79-108	34-15 参照
77		中央構造線活断層系	愛媛県における中央構造線にまつわる諸問題	高橋治郎	愛媛の地学，宮久三千年先生追悼記念号	1983	119-127	34-59
78		中央構造線活断層系	愛媛県松山市周辺地域の”中央構造線”	高橋治郎	愛媛大教育学部紀要，自然科学	1986	6・1-44	34-60
79		中央構造線活断層系	四国松山平野の環境地質学的研究（1）－松山平野とその周辺部の地質－	鹿島愛彦・高橋治郎	愛媛大紀要，自然科学D	1980	(9)・1-16	34-61
80		中央構造線活断層系	伊予灘東部海底における中央構造線	堤浩之・中田高・岡村真・小川光明・島崎邦彦	活断層研究	1990	(8)・49-57	34-62

高城一月ヶ平撓曲

	断層系	断層名	文献の表題	文献の著者	雑誌名(書名)	雑誌の発行年月	雑誌の巻・号・頁	備 考
1	高城一月ヶ平撓曲	高城一月ヶ平撓曲	大分県南部地域における前・中期更新世の断層活動	水野清秀・山崎晴雄・下川浩一・吉川清志	日本第四紀学会講演要旨集	1989		35-1

断層の基本的特性一覧表

開陽 - 古多糖断層

図幅 - 断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
標津 - 2	古多糖断層	北海道東部 (標津町)	Ⅱ	B	11	NNE-ENE		撓曲崖	第2段丘	1-2	W(2)			
斜里 - 2	(古多糖断層)	北海道東部 (標津町)	Ⅱ	B	10	NE		断層崖	丘陵 山地		W(50) NW(100)			
斜里 - 3	(開陽断層)	北海道東部 (標津町)	Ⅱ	B	13	NE		撓曲崖	クテンベツ 川扇状地 (茶志骨層)		NW(<10)			
								撓曲崖	俣落川扇状 地		NW(<10)			

網走湖東方断層系

図幅 - 断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
斜里 - 8	網走湖東方断層系	北海道東部 (網走市)		B	(15)	NS								
	a		Ⅱ	B	12	NS		断層崖	網走湖東岸 の丘陵		E(>150)			
	b		Ⅱ	B	5	NS		撓曲崖	第3段丘築 別面	12	E(>20)		>0.2	
	c 能取推定断層線		I	B	15	NS		撓曲崖	第3段丘築 別面	12	E(>20)		>0.2	

十勝平野東縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
帯広－2	(押帯断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	13	NNE		高度不連続・撓曲	上旭ヶ丘面	30	E(30-40)		0.1	
帯広－3	(東居辺断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅰ	B	13	NNE		撓曲°	居辺山層		E			° 朝陽の北東で15-25° 西傾斜
								撓曲崖°	上旭ヶ丘面	30	E(30-40)		0.1	° 居辺山の北西
								撓曲崖°	北居辺Ⅰ面	20	E(30-35)		0.2	° 東居辺の南
								逆傾斜°	芽登凝灰岩層・居辺山層		E			° 東居辺付近で10-12° 西傾斜
帯広－4	士幌川断層	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B－C	12	NNE		高度不連続	丘陵		E			
								撓曲・逆傾斜°	北居辺Ⅰ面	20	E(25-30)		0.1-0.2	° 柏葉付近
								急傾斜°	長流枝内層	<15	E			° 豊年の南や東豊田の東で60° 西傾斜
								低断層崖°	開析扇状地面		E(4.5)		>0.03	° 柏葉の東
帯広－5	(旭断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅰ	C	6	NS	W	断層露頭°	芽登凝灰岩層		E			° 旭の北方約1km, NS 75W
								高度不連続	段丘面		E			
								急傾斜°	芽登凝灰岩層		E(60-70)			° 西傾斜約35°
								急傾斜°	長流枝内層		E			° 西傾斜約60°
帯広－6	音更川－札内川断層	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	C	18	NS		高度不連続	芽登凝灰岩層		E(37-70)		0.01-	
								高度不連続	光地園礫層	30	E(4-7)		0.02	

十勝平野東縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
帯広－7	(途別川断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	16	NNE		高度不連続	幕別面	20	E		>0.07 >0.1 0.4-0.5 0.09	
								高度不連続・撓曲	上更別Ⅰ面	15	E(>10)			
								高度不連続・撓曲	上更別Ⅱ面	10	E(>10)			
								高度不連続	上更別Ⅲ面	8	E(30-40)			
								高度不連続	光地園礫層	30	E(28)			
								撓曲 撓曲	下士幌軽石 流堆積物 長流枝内層		E(40-50) E			
帯広－8	(稻志別断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B－C	6	NNE		高度不連続	上更別Ⅰ面	15	W(15)		0.1	
帯広－9	(豊岡東断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	C	3	NNE		低断層崖	幕別面	20	W(10)			
帯広－10	(茂発谷断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅰ	B	12	NNW		撓曲崖	幕別面	20	E(30-35)		0.2	
								高度不連続	上更別Ⅰ面	15	E(30)		0.2	
								撓曲崖	上更別Ⅱ面	10	E(20-25)		0.2-0.3	
								高度不連続・撓曲崖 急傾斜	上更別Ⅲ面 長流枝内層・池田層	8	E(20) E		0.3	
								低断層崖	幕別面	20	W(10)		0.05	
帯広－11	(明倫南断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	C	3	NS		撓曲崖	幕別面	20	E(35)		0.2	
帯広－12	(似平断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅰ	B	11	NS		高度不連続	上更別Ⅰ面	15	E			
								高度不連続	上更別Ⅱ面	10	E			
帯広－13	(上更別断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	(4)	NS		高度不連続	幕別面	20	E			
								高度不連続	上更別Ⅰ面	15	E			

十勝平野東縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
広尾－1	(上更別断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	(4)	NS		高度不連続	幕別面	20	E(10)		0.05	
								高度不連続	上更別Ⅰ面	15	E(30)		0.2	
								高度不連続	光地園面	30	E			
広尾－2	(弘和断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	5	NNE		断層崖	幕別面	20	E(55)		0.3	
								断層崖	上更別Ⅰ面	15	E(35)		0.2	
								高度不連続	光地園面	30	E			
広尾－3	(朝日断層)	北海道南部(十勝平野東縁)	Ⅱ	B	3	NS		撓曲崖	上更別Ⅱ面	10	E(10)		0.1	

石狩低地西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
留萌－1	自衛隊射撃場南西*	北海道中西部 (石狩低地西縁)	Ⅲ		2.5	NE		鞍部の直線的配列	山地斜面					地質断層に沿う
留萌－3	((樺戸断層群))	北海道中西部 (石狩低地西縁)	I	B	34	NS－NE		断層崖	高位面		W(40)			
	a[尾白利加]		I	B	17	NS		低断層崖	低位面		W(5-10)			
	[新生付近]													
	b[花月]		I	B	4	NNE		断層崖	高位面		W(30-40)			
	c[札的]		I	B	13	NE		断層崖	高位面					
	[札的内川]							低断層崖	低位面		W(6)			
留萌－4	浦臼断層	北海道中西部 (石狩低地西縁)	Ⅱ	C	7	NE		高度不連続	丘陵高度		W			
								鞍部の連続	山地斜面		NW			

石狩低地西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
留萌－7	((和断層)) [和] [和西方]	北海道中西部 (石狩低地西縁)	I	B	11	NNW		断層崖	高位面		W(40)			
								低断層崖	沖積面		W(1.5)			

岩見沢・馬追断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
留萌－2	豊平断層	北海道中西部 (石狩低地東縁)	Ⅲ		14	NNE		高度不連続	山地高度		E			
札幌－1	夷唄市南東	北海道中西部 (石狩低地東縁)	Ⅲ		10	NNE		断層崖	山地高度		E			
札幌－2	(岩見沢断層)	北海道中西部 (石狩低地東縁)	Ⅱ	C	5	NNE		低断層崖	扇状地面		E(5)			
								逆向き低断層崖	段丘面		W(>10)			
札幌－3	(栗沢断層)	北海道中西部 (石狩低地東縁)	I*	C	9	NS	W	逆向き 低断層崖	段丘面		W(5)			* 南北2kmでは確実度Ⅱ
札幌－4	(泉郷断層)	北海道中西部 (千歳市東方・ 馬追丘陵)	I	C	9	NNW	E	* 断層露頭	茂世互層					* N10E 48W
								逆向き 低断層崖*	段丘面		W(5)			* 北端部信用温泉付近
								逆向き 低断層崖*	丘陵斜面		W(>10)			* 部分的には鞍部列
								断層露頭*	恵庭 a 降下 軽石層	0.8- 1.2	W(0.8)			* N10E 78Eの正断層, 峻淵川上 流

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
札幌－5	(馬追断層)	北海道中西部 (千歳市東方・ 馬追丘陵)	I	B-C	15	NNW		逆向き低断層崖*	段丘面		W(4)			つるの湯背後
	a[西側]*		I	B	15	NNW		逆向き低断層崖	丘陵斜面		W(40)			地質断層に一致
								逆向き低断層崖	t3面		W(20)			
								逆向き低断層崖	最低位段丘面		W(<5)			フモンケ北東
	b[東側]*		II	B-C	4	NNW		逆向き低断層崖	丘陵斜面		W(>20)			2本平行フモンケ北東
								逆向き低断層崖	最低位段丘面		W(<5)			フモンケ北東
札幌－6	(嶮淵断層)	北海道中西部 (千歳市東方・ 馬追丘陵)	II	C	4	NNW		逆向き低断層崖	t3面		W(<10)			
							E	断層露頭*	樽前C降下 軽石層	0.3	W(0.06)			源武付近, この断層の南東延長上7kmに位置する。
									恵庭降下 軽石層	0.8-1.2	W(0.3)			
札幌－7	(軽舞断層)	北海道中西部 (勇払郡)	II	C	(5)	NW		逆向き低断層崖	t2面		W(10)			
苫小牧－1	(軽舞断層)	北海道中西部 (勇払郡)	II	C	(9)	NW		逆向き低断層崖	段丘面		W(20)			
	a		II	C	(3)	NW		逆向き低断層崖	第II面		W(>10)			
	b		II	C	6	NW		逆向き低断層崖	第II面		W(>10)			
苫小牧－2	鯉沼南方	北海道中西部 (勇払郡)	III		3	NW		高度不連続	第IV面		W			
苫小牧－3	(共和断層)	北海道中西部 (勇払郡)	I	C			W*	断層露頭*	支笏軽石流 堆積物	3	W(0.32)		0.01	N10W 68W

函館平野西縁断層群

図幅 - 断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
函館 - 4	(渡島大野断層) a	北海道南西部 (函館平野西縁)	I	B	12	NS		断層崖・撓 曲崖	河成段丘		W			
	[仁山]							撓曲崖	河成5面	2-3	W(>7)		>0.2	
	[市渡]							撓曲崖	河成6(沖積)面	<0.6	W(>5.2)		>0.9	
	[大野川南岸]							撓曲崖	河成5面	2-3	W(>9.5)		>0.4	
								撓曲崖	河成4面	5-6	W(>15.5)		>0.3	
	[文月川南岸]							撓曲崖	河成2面	12	W(>56)		>0.4	
	[清川西]							撓曲崖	河成3面	8-10	W(>34)		>0.3	
	[大工川西]							撓曲崖	河成2面	12	W(>27)		>0.2	
	[大工川南]							撓曲崖	河成5面	2-3	W(>9.5)		>0.3	
	b [大野川南岸]		I	C	0.5	NE		撓曲崖	河成5面	2-3	W(>9.5)		>0.3	
	c		I	C	1.0	NE		逆向き低断 層崖	河成5面	2-3	E(1)		0.05	
	[観音山北]							逆向き低断 層崖			E			
	[観音山西]		I	B - C	2.5	NS		逆向き低断 層崖	河成4面	5-6	E(4.5)		0.08	
	d							逆向き低断 層崖	河成2面	12	E(9.5)		0.08	
	[八郎沼北西]							逆向き低断 層崖			E			
	[八郎沼南]							逆向き低断 層崖	河成2面		E(5.5)	(10)		
	[清四郎沢北]							扇状地礫層						
								撓曲露頭 逆向き低断 層崖	河成3面		E			

函館平野西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
函館－5	函館平野西縁断層 a	北海道南西部 (函館平野西縁)	I	B	4.5	NS		撓曲崖	河成4面	5-6	W		>0.2	文月層は東に23° 傾斜 隆起側での第三紀層の走向 傾斜はN60E 52E
	[流山]							撓曲崖	海成2面	12	W(>10)		>0.2	
	[桜岱]							撓曲崖	海成2面	12	W(>28)		>0.4	
	[富川]							撓曲崖	河・海成2面	12	W(>54)		0.1	
	b[水無]		I	B	0.7	NNE		逆向き低断層崖	海成2面	12	E(11.5)		0.06	
	c[富川]		I	C	0.5	NNW		逆向き低断層崖	河成2面	12	E* (7)		0.08	
	d[桜岱]		I	B	1.5	NNE		逆向き低断層崖	河成2面	12	E(10)			

花輪盆地東縁断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
弘前－2	小豆沢断層	秋田県東部(花輪盆地東縁)												
	[北部]		II	B	9.5	NNE		断層崖	山地斜面		E(200)			
	[南部]		I	B	1.5	NS		低断層崖	高位段丘		E(5)			
弘前－3	柏木森東	秋田県東部(花輪盆地東縁)												
	[北部]		II		1.0	NNE		低断層崖	高位段丘		E(15)			
	[南部]		II		1.0	NNE		低断層崖	高位段丘		W(20)			
弘前－4	(花輪東断層)	秋田県東部(花輪盆地東縁)												
	[北部]		I	B	3.0	NNE		低断層崖	扇状地(関上面)	1.2	E(2)		0.2	
	[南部]		I	B	0.3	NNE-NS		低断層崖	扇状地(関上面)	1.2	E(4)		0.3	

能代・森岳断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
弘前－14	(高野野断層)	秋田県西部(能代平野北方)	I	B	1.5	NW		逆向き低断層崖	段丘面	8	W(18)		0.2	畑谷Ⅲ面相当

能代・森岳断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
弘前－15	(小手萩断層) [北部]	秋田県西部(能代平野北方)	I	B	6 0.7	NNW NW		逆向き低断層崖	段丘面°	10	W(10)		0.1	° 畑谷Ⅱ面相当
	[南部]				3.5	NNW		背斜状高まり	段丘面°	10-8	W(15)		0.2	° 畑谷Ⅱ・Ⅲ面相当
弘前－16	(北能代断層)	秋田県西部(能代平野北方)	Ⅲ	B	4.2	NS		低断層崖	畑谷Ⅲ面		E(15)			
弘前－17	逆川断層 a[五本松西]	秋田県西部(能代平野北方)	I I	B B	7 2.5	NNE NNE	W	逆向き低断層崖	古期砂丘	<7	W(15)		>0.2	° 主断層N10-30E, 15-20W, 副断層N50E, 45N 宮内崇裕(1988)の畑谷Ⅱ面相当面の構成層
	b[碓南東]		I	B	1.5	NNE		断層露頭°	段丘堆積物	10	W(>7)		>0.1	
	c[成合南東]		I	B	1.5	NS		逆向き低断層崖	古期砂丘	<7	W(10)		>0.1	
	d[大曲付近]		I	B	1	NS		逆向き低断層崖	古期砂丘	<7	W(10)		>0.1	
弘前－21	盤断層	秋田県西部(能代平野北方)	I	C	1.5	NS		逆向き低断層崖	段丘面°	10	W(5)		0.05	° 畑谷Ⅱ面相当
弘前－22	((能代断層))°	秋田県西部(能代平野沿岸線)		A－B	(24)	NS	E	撓曲崖 伏在断層	段丘面° 天徳寺層基底	10 260	E(>40) E(2700)		>0.4 1.0	° 大沢ほか(1984), (1985)の能代衝上断層群に相当 畑谷Ⅱ面相当
深浦－7	((能代断層))	秋田県西部(能代平野沿岸線)			(11)	NS	E	地下資料	中・上部第四系		E			

南唱山・上平断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
盛岡－13	(南唱山断層群)	岩手県西部(北上低地帯)	I	B	7	NS		断層崖°	山地斜面		W(200)			° 辻村太郎(1932)の南唱山断層崖
	[西]													
	[東]							低断層崖	扇状地	2	W(4)		0.2	

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
盛岡－14	(上平断層群)	岩手県西部（北上低地帯）	I	B	32	NS					W			
	a		I	B	12	NS	W°	断層崖 断層崖	小起伏面 山地斜面		W(300) W(400)			° 地質断層N35W 75W, N18E 80W
	b		I	B	2	NS		地壘状高まり	扇状地		E(20) W(20)			” 辻村太郎（1932）の上平断層崖, 黒森山断層崖, 草井山断層崖
	c		I	B	2.5	NS		地壘状高まり 断層露頭°	扇状地 扇状地礫層		E(3) W(3)			° N46E 12Wの逆断層トレンチ調査による
	d		I	B	0.5	NS		低断層崖	扇状地	2.6	W(5)		0.2	
	e		I	B	1.5	NS		低断層崖	扇状地		W(5)			
	f		I	B	4	NNE		断層崖	丘陵		W(40)			
	g		I	B	10	NNE		低断層崖 地壘状高まり	扇状地		E(5) W(5)			
							E	急斜露頭 逆傾斜 断層露頭°	志和層 中－後期更新統 扇状地礫層	2.6			0.2	N13-42E 17-31Wの逆断層
盛岡－15	上平西	岩手県西部（北上低地帯）	II	C	2.5	NS		高度不連続	小起伏		E(>60)			

南唱山・上平断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
盛岡－17	江釣子山南	岩手県西部（北上低地帯）												
	[東]		I	B	0.5	NNE		低断層崖	扇状地		W(2)			
	[西]		I	B	0.5	NNE		低断層崖	扇状地		W(2)			
盛岡－18	(南森山断層)	岩手県西部（北上低地帯）	I	B	(4)	ENE	V	低断層崖	扇状地	2	W(5)	0.2		
								急斜露頭	三ツ沢川層					
								断層露頭	段丘礫層					
秋田－9	(南森山断層)	岩手県西部（北上低地帯）	I	B	2.5	NNE	E	撓曲崖	丘陵高度		W(60-80)			柴林層
	[大槻付近]							急斜露頭	更新統		W			
								断層（撓曲）崖	金ヶ崎段丘		W(10)			
秋田－10	尻平川東方	岩手県西部（北上低地帯）	I	C	2.5	NS		低断層崖	丘陵頂面		E(10)			

駒ヶ岳西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
秋田－11	(駒ヶ岳西麓断層群)	秋田県東部（田沢湖東部）	II	B	6	NS	E	高度不連続	山地高度		E(>100)			泥流堆積物などの末端斜面の可能性あり N23E 38Eの逆断層 1896年地震断層線にほぼ一致
	a [先達川左岸]							断層崖	段丘面		E(30)			
	b [先達川左岸]							断層崖	丘陵高度		E(60-80)			
	c [先達川左岸]		II		3.5	NNW		低断層崖	段丘面		E(2)			
	d [先達川左岸]		II		4	NS		逆向き断層崖	丘陵高度		W(60-80)			
	e		I	B	6	NNW		断層崖	丘陵高度		E(80)			
				B				低断層崖	段丘面	2	E(5)			
	f [向生保内東]		II		3	NNW		断層露頭	軽石質凝灰岩		E			
	g [向生保内東]		II		3.5	NNW		逆向き断層崖			W(20-50)			
			II	B	4	NE		断層崖	丘陵高度					
								断層崖	丘陵高度					
								断層崖	山地高度		E			

西根断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
秋田－5	(西根断層群) a 西根断層	岩手県西部（零 石盆地）	I	B	5.5	NS		低断層崖	段丘面	1.5	W(10)		0.7	北部で断層崖, 南部で凹地 地質断層にほぼ一致
	b 西根従属断層		I	B	6	NS		断層崖・地 溝状凹地	堀切付近の 上位の段丘 面		W(30)			
	c 袖山断層		I	B	7.5	NS		逆向き断層 崖	丘陵(末端)		E(40)			
	[上西根西方]			B				低断層崖	段丘面	1.5	E(5)		0.3	
	晴山沢断層		II	B	16	NS		断層崖	火山山麓面	1.5	(>100)			
								低断層崖	段丘面		W>(2)		0.1	

千屋断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
秋田－E2	生保内地震断層	秋田県南東部 (横手盆地東縁)			5.5	NNE		低断層崖	扇状地面な ど		E(2)			1896年陸羽地震の地震断層, E2－E5は一括されて千屋断層 と呼ばれている. ここでは命名 及び資料は山崎直方(1896) , 松田時彦ほか(1980) による
秋田－E3	白岩地震断層	秋田県南東部 (横手盆地東縁)			5	NS		低断層崖	扇状地面な ど		E(2.5)			1896年陸羽地震の地震断層, E2－E5は一括されて千屋断層 と呼ばれている. ここでは命名 及び資料は山崎直方(1896) , 松田時彦ほか(1980) による
秋田－E4	太田地震断層	秋田県南東部 (横手盆地東縁)			3.5	NS		低断層崖	扇状地面な ど		E(2.5)			1896年陸羽地震の地震断層, E2－E5は一括されて千屋断層 と呼ばれている. ここでは命名 及び資料は山崎直方(1896) , 松田時彦ほか(1980) による

千屋断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
秋田－E5	千屋地震断層	秋田県南東部 (横手盆地東縁)			12	NNE		低断層崖	扇状地面など		E(3.5)			° 1896年陸羽地震の地震断層、E2－E5は一括されて千屋断層と呼ばれている。ここでは命名及び資料は山崎直方(1896)、松田時彦ほか(1980)による

庄内平野東縁断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
酒田－6	(広野新田断層)	山形県北西部 (庄内平野東縁)	I	B	3	NNW		逆向き低断層崖	火山山麓扇状地		W(2-10)			
酒田－7	(当山断層)	山形県北西部 (庄内平野東縁)	I	B	2.5	NNW		逆向き低断層崖	扇状地		W(>5)			
酒田－8	(月光川断層)	山形県北西部 (庄内平野東縁)	II	B	2	NNW		逆向き低断層崖° 低断層崖 断層崖 低断層崖°	扇状地 扇状地 丘陵 扇状地		W(>5) E(3±) E(>50) E(10±)			° 断層崖ではないとする見解もある ° 扇頂部の勾配変化(逆傾斜)
	[東]													
	[中]													
	[西]													
酒田－9	丸森 東	山形県北西部 (庄内平野東縁)	II	B	2	NNE		直線状急崖	丘陵斜面		W(>50)			
酒田－10	杉沢付近	山形県北西部 (庄内平野東縁)	II	B	5	NNE		直線状急崖	丘陵斜面		E(>80)			
酒田－11	(観音寺断層)°	山形県北西部 (庄内平野東縁)	I	B	15	NS		断層崖 低断層崖	丘陵・段丘 扇状地		E(>100) E(1-2)			° 背後に活褶曲あり
酒田－12	山谷新田北	山形県北西部 (庄内平野東縁)	II	B	3	NS		直線状 急崖°・直線状谷	丘陵斜面		E			° 急傾斜する第三紀層の走向に沿う

庄内平野東縁断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
酒田－13	松山町付近	山形県北西部 (庄内平野東縁)	Ⅲ	B	6	NS		直線状急崖	丘陵斜面		E			
酒田－14	((下当断層))	山形県北西部 (庄内平野東縁)	I	B	3	NS		撓曲崖	扇状地		E			
酒田－15	野沢断層	山形県北西部 (庄内平野東縁)	I	B	2	NNW		直線状急崖 撓曲・褶曲	丘陵 扇状地		(60-80) E(>7)			
酒田－17	((通越断層))	山形県北西部 (庄内平野東縁)	Ⅱ	B	5	NE		逆向き撓曲 崖	小起伏面		W(50)			

山形盆地北部西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
仙台－14	新山寺－境ノ目	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	B	2	NS		地壘状高まり	東原面 L2					
仙台－15	田沢－里	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	Ⅱ	B	5	NS		地壘状高まり 低断層崖	東原面 L1	1	W(10) W(5)		0.2	
仙台－16	富並	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	B	5	NNE		低断層崖*	大久保面L1 大久保面L2	1	W(8) W(3)		0.3	断層線西側のH面, M1面は西方に移動
仙台－17	(樽石北断層)	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	B	1	NNE		逆向き低断 層崖	日影面, H		E(27)			
仙台－18	反田－東原	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	Ⅱ	B	2	NS		低断層崖	大久保面		W(5)			
仙台－19	(高森山断層)	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	B	3	NS-NE		低断層崖 高度不連続 断層崖	東原面, L1 H M2 L1	2	W(4) W(>70) W(>25) W(7)		0.3	* 各地形面は西方へ傾動

山形盆地北部西縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
仙台－20	湯野沢断層	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	B	4	NS		低断層崖	H		W(40)			
	[北部]							低断層崖	東原面		W(5)			
	[南部]							低断層崖	新期扇状地I 面		W(2)			
仙台－38	((大久保東断層))	山形県北東部 (山形盆地北部 西縁)	I	C	0.8	NS		低断層崖	河岸段丘(M2 面)		W(3.5)			

長井西縁断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
仙台－34	(長井西断層)	山形県南部(長 井市西方)	I	B	(6)	NE		低断層崖	M面		W(40-50)			
								低断層崖	L1面		W(10)			
村上－1	(長井西断層)	山形県南部(長 井市西方)	I	B	(15)	NS		低断層崖	中位段丘	10	W(>40)		>0.4	
								低断層崖	低位段丘	2-3	W(10-15)		0.5-0.8	
								低断層崖	新期扇状地	1-2	W(>2)		>0.2	

深谷断層・平井断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
宇都宮－3	深谷断層	埼玉県北部(深 谷市)	I	B	10	NW		撓曲崖	櫛挽面	6-8	W(14)		0.2	
								撓曲崖	御稜威面	2	W(5.5)		0.3	
宇都宮－4	櫛挽面断層	埼玉県北部(深 谷市西方)	I	C	5	NW		断層崖 (田向)	櫛挽面	6-8	E(>3)		>0.04	
宇都宮－5	(神川断層)	埼玉県北部～群 馬県南部(深谷 市西方)	I	B	8	NW		断層崖 (植竹)	神流川の段 丘	2	N(5)		0.25	

深谷断層・平井断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
宇都宮－6	平井断層	埼玉県北部～群馬県南部（深谷市西方）	I	B	15	NW	NW° NE	N° S	断層崖	藤岡I面	8	N(9.5)	0.1 0.15 0.17	° 断層面はN60W 34N, 衝上断層 断層面はN30E 20Sの衝上断層
	[向平西方]								高度不連続	藤岡Ⅲ面	1	N(1.5)		
	[向平南東方]								断層露頭°	砂岩・礫岸		N(0.3)°		
									断層露頭	ローム層・段丘礫層	2	S(3.4)		
宇都宮－7	江南断層	埼玉県北部（深谷市西方）	I	C	3	NW			撓曲	江南台地面	12	E(10)	0.08 0.08 0.1	
									高度不連続	礫層基底	12	E(10)		
									撓曲	荒川の低位面	2	E(2-3)		
宇都宮－8	今市－菅谷	埼玉県北部（深谷市西方）	Ⅲ	C	3	NW			高度不連続	丘陵の侵食小起伏面	30-80	E(40)	0.05-0.1	

平山断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
東京－24	平山断層	神奈川県南西部（南足柄市）	I	B	(3)	NNE	W		段丘礫層/足柄層群				0.38	° 上杉陽ほか(1987), Ito, T. et. al(1987)に更新生末以降の断層史に関する記載あり.
	[平山]							断層露頭°		2	W(7.5)	L		
横須賀－39	平山断層	神奈川県南西部（南足柄市）	I	A	(6)	NE	W		段丘礫層/足柄層群	2	W(7.5)	L	0.38	
	[矢倉沢]							断層露頭・高度不連続	箱根古期外輪山熔岩/足柄層群	27	W(500)			

長野盆地西縁断層帯

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高田－21	(常郷断層)	新潟県南部～長野県北部(長野盆地北部)	II	B	6	NE		高度不連続	段丘面°		SE(>40)			° 解析されたかなり古い地形面
高田－23	重地原断層	新潟県南部～長野県北部(長野盆地北部)	I	B	10	NS	W			W				° 井上春雄(1962)では逆断層地形としている
	a[穂高付近]		I		3			逆向き低断層崖	扇状地	W(5)				
	b[笹沢付近]		I		6			高度不連続	重地原丘陵	W(100±)				
	c[北竜湖付近]		II		5			鞍部連続・高度不連続	山地斜面	W(>50)				
	d[住郷付近]		I		1			逆向き低断層崖	扇状地	W(5)				
高田－25	(長峰丘陵西縁断層)°	新潟県南部～長野県北部(長野盆地北部)	I	A－B	8	NS					E			° 断層中央部西側では扇状地が活褶曲により変形している
	[長峰山西方]							断層崖	丘陵背面		E(>60)			
	[飯山西方]							逆向き断層崖	丘陵背面		E(>10)			
高田－26	(長峰丘陵東縁断層)°	新潟県南部～長野県北部(長野盆地北部)	I	A	11	NS	W							° 君塚康次郎(1929)の替佐・下境線にあたる。辻村太郎(1932)は長峰丘陵を地壘性丘陵としている ° 断層主部
	a[荒舟付近]°							断層崖	丘陵背面		W(>100)			
								低断層崖	沖積面	0.2	W(>6)		>3	
高田－27		新潟県南部～長野県北部(長野盆地北部)	I	A				断層露頭	沖積層/前期更新統					° トレンチ調査° 永江付近では断層の西側に小盆地形成
	b[下水沢付近]							断層崖	丘陵背面		W			
	荒船断層													
	a[静岡(荒船)付近]		I		6			逆向き断層崖	扇状地		SE SE(>5)			
			I	B		NNE	E	断層露頭°	沖積層/扇状地礫層					
	b[永江付近]							断層崖°	段丘面		SE(20-30)			
	c[三俣付近]		II					高度不連続	山地斜面		SE			

長野盆地西縁断層帯

図幅 - 断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高田 - 3 1	長丘断層°	新潟県南部～長野県北部（長野盆地北部）	I	A	13	NNE		段丘崖 撓曲崖 逆向き断層崖 断層露頭°	段丘面° 冲積段丘面 段丘面°	0.7	W(>50) W(>12) W(20-30)		>1.7	° 豊野層団体研究グループ(1974)による推定逆断層とほぼ一致 君塚康次郎(1929)の蓮一下境界線 ° 断層主部 ° 中 - 高位面相当 ° 中 - 高位面相当 ° N30E 72Eの逆断層
	a°		I	A	13	NNE								
	[古牧付近]													
	b[厚貝付近]		I	B										
	[壁田付近]						E							
高田 - 3 3	替佐断層°	新潟県南部～長野県北部（長野盆地北部）	II	B - C	9	NE	NW	高度不連続	山地斜面		NW			豊野層団体研究グループ(1974)による推定逆断層とほぼ一致
高田 - 3 9	三登山西麓	新潟県南部～長野県北部（長野盆地北部）	III		(10)	NE		高度不連続	山地斜面					
高田 - 4 0	田子断層°	長野県北部（長野盆地西縁）	II	B	(7)	NE	NW	高度不連続	山地・丘陵斜面		NW			° 豊野層団体研究グループ(1974)による推定逆断層. 辻村太郎(1932)の茶臼山断層崖
高田 - 4 1	(若槻断層)	長野県北部（長野盆地西縁）	II	B	3	NNE		高度不連続 鞍部の連続	山地・丘陵斜面 山地・丘陵斜面		SE(20)			
高田 - 4 2	(上野断層)	長野県北部（長野盆地西縁）	I	B	6	NE		高度不連続 高度不連続 撓曲・背斜	丘陵背面 丘陵背面 豊野層		SE(30-50) SE(50)			
	a		II											
	b		I											
高田 - 4 3	((飯山断層))	長野県北部（長野盆地西縁）	I	A	4	NNE			冲積面	<1	W(3)			
高田 - 4 4	((浅野断層))	長野県北部（長野盆地西縁）	I	A	5	NE		低断層崖	冲積面		W(>6)			
高田 - 4 5	三才断層°	長野県北部（長野盆地西縁）	I	A	6	NE		断層崖°	丘陵背面		W(30)			° 低断層崖と平行して, その隆起側(西側)0.5kmに連なる
高田 - 4 6	((城山断層))	長野県北部（長野盆地西縁）	I	A	(0.5)	NS		低断層崖	扇状地		W(5)			
高田 - E 1	長峰地震断層°	長野県北部（長野盆地西縁）							段丘面		W(1.8 -3.0)			° 1847年善光寺地震断層に伴う
高田 - E 2	飯山地震断層°	長野県北部（長野盆地西縁）						低断層崖	冲積面		W(3)			° 1847年善光寺地震断層に伴う

長野盆地西縁断層帯

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高田－E3	長丘地震断層° [蓮付近] [立ヶ原付近]	長野県北部（長 野盆地西縁）						低断層崖	河床		N(3)			° 1847年善光寺地震断層に伴う
高田－E4	浅野地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）						低断層崖						° 1847年善光寺地震断層に伴う
高田－E5	三才地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）						低断層崖						° 1847年善光寺地震断層に伴う
高田－E6	城山地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）				NS		低断層崖	扇状地					° 1847年善光寺地震断層に伴う
長野－9	(城山断層)	長野県北部（長 野盆地西縁）	I	A	(2)	NNE		断層崖 低断層崖°	段丘面 扇状地		NW(20-30) NW(5)			° 栗田泰夫ほか(1990)による。 北部では断層崖の東に平行. 184 7年の地震断層に一致
長野－10	善光寺断層° [裾花川河崖]	長野県北部（長 野盆地西縁）	I	A	2	NNE	W	低断層崖° 断層露頭°	裾花川扇状 地 第四系/第三 系		NW(2.8 -10)			1847年5月の善光寺地震の地震 断層に一致 N20E 70W
長野－11	田子断層 [平柴]	長野県北部（長 野盆地西縁）	I	A－B	(6)	NNE		低断層崖° 高度不連続	裾花川扇状 地 丘陵背面		NW(60 -70) NW(>100)			° 西長野付近
長野－12	(小松原断層)° [篠の井西方]	長野県北部（長 野盆地西縁）	II	B	7	NS-NE		高度不連続 高度不連続	丘陵背面 地すべり斜 面		W W(>20)			° 1847年地震の地震断層に一部 一致
長野－E1	善光寺地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）			2	NNE		低断層崖	裾花川扇状 地		W(1.5 -2.7)			° 1847年地震の地震断層に一部 一致
長野－E2	(小松原地震断層)	長野県北部（長 野盆地西縁）			>0.5	NS		低断層崖	山麓扇状地		W(1.8 -2.1)°			° 1847年地震の地震断層に一部 一致
長野－E4	城山地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）				NNE		低断層崖	扇状地					° 1847年地震の地震断層に一部 一致
長野－E5	安茂里地震断層°	長野県北部（長 野盆地西縁）				NE		低断層崖	山麓扇状地		NW(2.4 -2.7)°			° 1847年善光寺地震に伴う。 小市の称名寺門前での変位量 古文書による

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
長野－16	牛伏寺断層 [中島西方] [千石西方]	長野県中部(松本市)	I	A A	(7)	NW		逆向き低断層崖 屈曲	Mb面群上の谷 Qf-2面上の谷	1-3 5.5	SW(>20)	L(475)	8.6	
長野－17	(七曲り断層)*	長野県中部(塩尻市)	I	B	5	NS		階段状断層崖 段丘面の急傾斜	山地斜面 森口面	1-2	E(20-80) E(5±)		0.3	* 確実度Ⅱの断層が東側に雁行する 高ボッチ山西麓の小起伏面
長野－19	下諏訪断層群 a[下諏訪北方] [砥川, 横河川間の山地] [砥川谷の出口]	長野県中部(諏訪湖)	I I II I	A-B B-C B	5 4 3 0.5	NW WNW NW WNW		断層崖 低断層崖 階段状断層 低断層崖	山地高度 V面 山地斜面 Ⅲ面	1 5-6	NE(>300) NE(10) NE NE(12)	>1.1 0.2		
長野－20	上諏訪断層群 a[湖東岸沿い] [諏訪市清水] b[上諏訪北東方]	長野県中部(諏訪湖)	I I I	A-B A B-C	9 9 9	NNW NNW NNW	V	断層崖 地下資料 階段状断層崖 高度不連続 断層露頭*	山地高度 礫層上部* 山地斜面 山地斜面 塩嶺類層*	1	NE(>300) NE(22) NE NE		2.2	* 埋没した河食崖の可能性もある ° N40E 90-80S

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
長野－22	諏訪湖南岸断層群	長野県中部（諏訪湖）	I	A－B	(10)	NW		断層崖	山地高度		SW(>300)		0.2	
	b[湖南西岸]		I					低断層崖	Ⅲ面	5-6	SW(14)			
	[豊田]							低断層崖	波田面	5-6	SW(12)			
	[北真志野]							低断層崖	波田面	5-6	SW(23)			
	[湖南西方]							低断層崖	波田面	5-6	SW(23)			
	b[塩嶺西山斜面]		I－Ⅱ			NW		高度不連続 階段状断層崖	塩嶺層で構成される 塩嶺層で構成される		SW SW		0.4	
長野－24	岡谷西方断層群	長野県中部（岡谷市）	I		3.5	NW		断層露頭° ふくらみ°	冲積層		SW			° トレンチ調査
	a 岡谷断層		I		3.5	NNW								
	b[東側]		Ⅱ		3.5	NW		断層崖	丘陵斜面		SW			
	[西側南部]							逆向き断層崖	山地・丘陵斜面		SW			
	[塩尻峠付近]							鞍部連続	山地斜面		SW			
甲府－6	(下円井断層)	山梨県中北部（韮崎市）	I	B－C	6	NW	W° NNW° NW° NNW°	断層崖	山地斜面, 段丘面		W			° 20W（下円井） ° N16W 30-4-W ° N22W 30W ° N11W 45W
	[下円井]							断層露頭°	花崗岩/段丘礫層		W			
	[折居]							断層露頭°	石英閃緑岩/折居礫層		W			
								断層露頭°	石英閃緑岩/折居礫層		W			
								断層露頭°	石英閃緑岩/折居礫層		W			
甲府－7	(竹宇断層)	山梨県中北部（駒ヶ岳東方）	I	B	3	NW		低断層崖	中位面	8	W(>30)		>0.4	
甲府－8	(大坊断層)	山梨県中北部（駒ヶ岳東方）	I	C	2	NW		低断層崖	高位面	>8	W(>20)			

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
甲府－ 9	(鳳凰山断層)	山梨県中北部 (鳳凰山東方)	I	C	26	NNW								
	a [鳳凰山]		I	C	21			逆向き低断層崖 [°]	山地斜面	<2	E(<10)			° 鳳凰山付近, 重力性の断層の可能性あり ° 51W (石空川左岸) . 65W (青木湯付近) . 50W (御座石鉱泉)
	b [青木鉱泉]		I	A	7	NS		低断層崖	T2面	2-1	W(20)			
	[燕頭山]							屈曲 屈曲 断層露頭	藪ノ湯南方の支谷 燕頭山東側の支谷 花崗岩／御坂層			L(50, 400) L(150)	1-2	
甲府－ 1 0	(千頭星山断層)	山梨県中西部 (千頭星山)	I	B	1	NE		低断層崖 [°]	山地斜面	<2	SE(5)		>0.3	° 重力性の断層の可能性あり
甲府－ 1 1	(大ナジカ峠断層)	山梨県中西部 (千頭星山)	I	B	10	NS		逆向き低断層崖	山地斜面	<2	E(<10)			
甲府－ 1 2	(市之瀬断層)	山梨県中西部 (甲府盆地西縁)	I	A	6	NS		断層崖	扇状地		W			
	a [檜形町下市之瀬]		I	A－B	4.5	NNW		撓曲崖	Ⅱ面	5-8	W(>70)		0.9-1.4	
				A		NS		撓曲崖	Ⅲ面	<2	W(27)		1.4	
	b [檜形町湯沢]		I	A	2	NE		撓曲崖	I b面	10	W(>100)		1.0	
				A		NS		高度不連続	韭崎泥流	30	W(300)		1.0	
	c [檜形町上市之瀬]		I	A	6	NS		断層崖	Ⅱ面	5	W(60)		1.2	
				A				低断層崖	Ⅲ面	<2	W(25)		1.3	
	d [築山]		I	B	0.2			撓曲崖	I b面	10	W(85)		0.9	
甲府－ 1 3	(檜形山断層群)	山梨県中西部 (甲府盆地西方)	I	B	5	NS		逆向き低断層崖 [°]	山地斜面	<2	W(<10)		0.5	° 重力性の断層の可能性あり

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
甲府－14	(釜無山断層群)	長野県中部(釜無川流域)	I	B	(20)	NW		低断層崖	扇状地					東郷の茅野断層
	a(青柳断層)°		I		(16)	NW		低断層崖	・火山斜面 八ヶ岳 火山斜面		E(>40)			
	[坂室]			A		NW		屈曲	茅野面	8-13		L(400 -450)	3.1-5.6	
				A		NW		屈曲	坂室Ⅰ面	8-13		L(300)	2.5 -3.75	
				A		NW		屈曲	坂室Ⅱ面	2		L(100)	5.0	
	b下葛木断層		I		4	NW		低断層崖 断層露頭	段丘 段丘	1.5°	SW(2-3)		0.2	
	[下葛木]			B			W	低断層崖	段丘面					
							W	断層露頭°	花崗岩/段丘 礫層					
							W	断層露頭°	花崗岩/段丘 礫層	2				
							W	断層露頭°	花崗岩/砂礫 層	2			0.1	
				B		NNW		低断層崖	Ⅵ面	2	W(2)		1.5	
				A		NNW		屈曲°				L(30)		
						NW		断層露頭°	花崗岩/段丘 礫層		W(>15)			
						NW		断層露頭°	花崗岩		W		>0.75	
	c若宮断層°		I		7	NW		逆向き低断 層崖	扇状地		E(50)	L	0.33°	
	d大沢断層°		I		3	NW		逆向き低断 層崖	扇状地		E(18)	L		

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
甲府－15	(大熊断層)	長野県中部(茅野市)	I	B	(2)	NW		低断層崖 低断層崖	森口面 扇状地°	<2 <1	W(10) W(<5)		>0.5	下馬沢川
甲府－17	畑薙山 [大井川上流]	静岡県北部(大井川上流)	II	C	(14)	NE		低断層崖°	山地斜面		E(>10)			° 茶臼岳東側横窪沢小屋付近
甲府－19	富士見山断層	山梨県南西部(富士見山)	I	C	7	NNE	W	低断層崖	段丘面					° 層面すべりによる断層と考えられる 〃 断層群の長さ
	a 富士見逆断層		I	C	7	NNE	W	低断層崖	平須面	20	W(20)	0.01		
	平須断層°		I		4〃	NNE		低断層崖	平須面, 大塩面		W(6-7) E(6-7)			
甲府－20	身延衝上°	山梨県南西部(身延町)	I	A		NS	W	断層露頭°	西八代層群/ 第四紀礫層		W		2	° 大城川河床, N15E 35W
富山－1	神城断層	長野県北西部(姫川流域・岩戸山西方)	I	A	(10)	NNE		断層崖	泥流堆積物	>10	E(>80)		<0.8	
	[森上]							低断層崖	塩島I面	2.5	E(10)		0.4	
	[大出]							低断層崖	森上面	<1	E(6.4)		>0.6	
								地下資料	基盤の高度差					
富山－2	八方東縁断層	長野県北西部(姫川流域・八方)	I	A	8	NE		低断層崖	新期泥流堆積面	10±	W(8-10)		0.1±	
	[落倉]							低断層崖	松川I面	>2	W(>40)		<2.0	
	[八方]							低断層崖	塩島I面	2.5	W(10+)		>0.04	
富山－27	切久保断層	長野県北西部(姫川流域・切久保)	I	B	>6	NNE		低断層崖	新期泥流堆積面	10±	E(2)		0.02	
	[落倉] [切久保]							低断層崖	切久保(松川I面)	>2	E(6)		0.3	
高山－1	神城断層°	長野県北西部(姫川流域・神城)	I	A	(5)	NS		低断層崖	段丘面・扇状地〃	<1	E(20)		>2.0	° 富山－1に続く〃白馬村堀之内, 沢渡
	[沢渡]							地下資料	A T火山灰層	2.2	E(70)		3.1	

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高山－3	松本盆地東縁断層	長野県中西部 (松本盆地)	Ⅱ	C	36	NNW		高度不連続	丘陵高度		E(>200)			° この断層の直接の動きを反映しているのか否か不明 ° 音波探査により発見された湖中央の西向きの崖
	[大町市丹生子]			B				断層露頭°	段丘礫層	<1			>0.2	
	[青木湖]				1.5	NS		高度不連続	湖底		E(2.5°)			
	[木崎]			C	1.1	NS		高度不連続	湖成段丘	<6	E		>0.05	
	[池田町堀之内]			B				逆向き低断層崖	扇状地	<1	E(2.9)		>0.4	
高山－6	松本市中山丘陵東側	長野県中西部 (松本市)	Ⅱ	B－C	(2)	NW		断層崖	丘陵		W(150)			
高山－7	牛伏寺断層°	長野県中西部 (松本市)	Ⅰ	A	(3)	NW		低断層崖	沖積面	<1	E(2)		>0.2	° 長野－16の続き
	[大沢]							屈曲	谷	5.5		L(475)	8.6	
	[中山北方]							屈曲	弘法山Ⅰ面を刻む谷	<1		L(96)	9.6	
	[宮入川]							屈曲	L面群上の谷	1-2		L(>83)	6.2	
								屈曲	谷	2.5	E(3)	L(48)	1.9	
	[大沢]							屈曲	谷	6-10		L(<150)	<2.0	
	[松本市並柳地区]							断層露頭°	腐食層	0.7 -0.8			0.4	° トレンチ調査, 2つの活動時期, 7050-7220y. B. P., 2920y. B. P. が判明. 横ズレは成分不明

富士山南西麓断層帯

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
静岡－20	大宮断層	静岡県東部（富士宮市）	I	A	6	NW		断層崖	古富士泥流堆積面Ⅰ	5	W		>2	
			I					断層崖	古富士泥流堆積面Ⅲ	1.8	W(>95)			
								断層崖	古富士泥流堆積面Ⅳ	1.5	W(80-40)			
								高度不連続	古富士泥流堆積面Ⅳ	1.3	W(70-50)			
			Ⅱ					高度不連続	S W - 5 熔岩	1.3	W(60-80)			
静岡－21	入山瀬断層	静岡県東部（富士市）	I	A	8	NS		断層崖	古富士泥流堆積面群		W		7.1	
			I					低断層崖	段丘面		W			
			Ⅱ					高度不連続	大淵熔岩流上面	1.4	W(10-20)			
			I					高度不連続	沼面相当面	0.6	W(100)			
								高度不連続	沼面相当面	0.6	W(40-50)			
静岡－22	安居山断層	静岡県東部（富士宮市）	I	A	11	NS	V°	断層崖	古富士泥流堆積面Ⅰ面	5	W(>160)		>3.2	
								断層露頭°	古淵安山岩／鷺ノ田礫層		W			
静岡－23	芝川断層	静岡県東部（富士郡芝川町）	I	A	7	NNW	W	断層崖	古富士泥流堆積面Ⅰ	5	W(50)		1	1.3-1.7
								高度不連続	芝川熔岩流上面	1.2	W(20)			
								断層露頭	湖成層	-1.5 1	W(数)			

富士山南西麓断層帯

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分隆起 (m)	横ズレ成分 (m)		
静岡－24	中山断層	静岡県東部（庵原郡南松野）	I II	C	2	NNE	E°	断層露頭° 高度不連続	岩淵安山岩/ 鷺ノ田礫層 山地		E			中山南方
静岡－25	入山断層	静岡県東部（庵原郡入山）	I II	B	10	NS	W° W°	断層露頭° 断層露頭° 高度不連続	富士川層群/ 蒲原礫岩・ 岩淵安山岩 類・鷺ノ 田礫層 段丘礫層 山地		W W(4) W	L		° 60-90W 福沢の西, N35W 56-68SW

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分隆起 (m)	横ズレ成分 (m)		
飯田－1	伊那断層 [箕輪町] [西三輪]	長野県中部（箕輪町）	I	A	16	NNE	W	撓曲崖 屈曲 撓曲崖 屈曲 撓曲崖	段丘面(MK面)) 段丘崖(MD面)) 段丘面(MK面)) 段丘崖(MD面)) 段丘面(MK面))	5.5 2.1 5.5 2.1 5.5	NW(3.4) NW(12) NW(14)	 R(43)° L(12)°	0.07 2.1 0.2 1.6 0.3	° 横ズレは低角逆断層に伴う見かけの量. ネットスリップ速度は3.2m/1000y

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－5	小黒川断層	長野県中南部 (伊那市)	I	A	10	NE	W	屈曲	OZ面を刻 む谷 沖積面	8-9		R(200)°	>0.3 1.7 0.1 0.2 R(90-100) ° R(25)° 0.2 1.2 0.4 0.1	° 横ズレは低角逆断層に伴う見 かけの量. ネットスリップ速度 は1.7m/1000y
	[小沢川北]							撓曲崖		<0.5	NW(1.5)			
	[小沢川]							屈曲	段丘崖(MD面)	2.1		R(35)°		
	[小沢川南]							撓曲崖	段丘面(MD面)	2.1	NW(2.8)			
	[小黒川北]							撓曲崖	段丘面(MK2)	5.5	NW(10.4)			
								撓曲露頭	MK面構成礫 層					
								撓曲崖	段丘面(MK面)	5.5	NW(15)	R(90-100) °		
								屈曲	段丘面(MK面)	5.5				
								撓曲崖	段丘面(MK2 面)	5.5	NW(9.4)	R(25)°		
								屈曲	段丘崖(MD面)	2.1				
								撓曲崖	段丘面(MD面)	2.1	NW(8.6)			
								撓曲崖	段丘面(3)	5.2	NW(7.4)			
								撓曲崖						
								撓曲崖						
飯田－6	三州街道断層	長野県南部(昼神 －治部坂峠)	I	A	16	NE	NW	撓曲崖	段丘面	1.5	NW(20)		1.3	
	a [昼神]		I	A				屈曲	尾根		NW	R(50)		
	[中野付近]		II					高度不連続	山地斜面		NW			
	b [寒原峠付近]		II					高度不連続	山地斜面		NW(>10)			
	[寒原峠南方]		I					逆向き低断 層崖	段丘面		NW(>10)			
	c [治部坂]		I					逆向き低断 層崖	段丘面					

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－7	b[赤穂西方]	長野県南部(駒ヶ 根市付近－飯田 市)	I					撓曲崖	段丘面(M2)	5.5	W(6)		0.1	
	c[石曾根]		I					屈曲	段丘面(M3)	5.0		L(120)		
								撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(20)		2.4	
								撓曲崖	段丘面(H3)	12.5	W(8)		0.1	
								撓曲崖	段丘面(M3)	5.0	W(3)		0.06	
	d[本郷]		I					撓曲崖	段丘面(H3)	12.5	W(3)		0.06	
	[横前]							撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(15)		0.02	
	[針が平]							撓曲崖	段丘面(H3)	12.5	W(7.5-15)		0.1	
	e[七久保]		I					逆むき低断 層崖	段丘面(H2)	14	E(4)°		0.1	° H2面と沖積面の境界
								逆向き低断 層崖	H2面/沖積面		E(5)		0.03	° H2面とL2面の境界 ° H3面とL2面の境界
			I					逆向き低断 層崖	H2面/L2面°		E(3)			° 松島信幸(1981)の見晴山断層
								逆向き低断 層崖	H3面/L2面°		E(8)			” 断層崖と河食崖が一致. 下盤 側が削り取られている可能性大
	f[針が平－市田]°							地形面のふ くらみ逆傾 斜	段丘面(H2)	14	W(<80) ”		<0.6	
	[伊那大島]							高度不連続	伊那層砂礫 層	100	W(280)		0.28	

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－11	川路・竜丘断層°	長野県南部（飯 田市川路・竜丘 ）	I	B	8	NNE	NW	高度不連続	高位段丘・ 古期扇状地	100	NW(>50)		0.27	° 松島信幸ほか(1984), 仁科良 夫ほか(1985), 松島信幸(1981), 森山昭雄(1989)の念通寺断層 (北半)と川路断層(南半). ° 小木曾勝弥.N34E 45N ° 小木曾勝弥.N14E 80N ° 小木曾勝弥.N4W 45W ” 新期ロームを載せる
	[下瀬付近]						N°	断層露頭°	花崗岩/伊奈 層		NW			
	[原田付近]						W°	断層露頭°	花崗岩/伊奈 層		NW			
	[川路付近]						W°	断層露頭°	花崗岩/中位 段丘・伊奈 層		NW			
								高度不連続	伊奈層砂礫 層		NW(270)			
								断層崖	段丘面 ”		4 NW(40)			
	[鈴岡公園下]							断層露頭	段丘礫層		NW			

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－12	下伊那竜西断層° [三穂]	長野県南部（飯田市三穂）	I	B	15	NS	NW	高度不連続	高位段丘・古期扇状地		W(100)		° 豊橋－3に続く。北部は小木曾勝弥(1977), 仁科良夫ほか(1985), 松島信幸(1981), 松島信幸(1983)の伊豆木断層, 中央部は仁科良夫ほか(1985)の粒良脇断層, 南部は鹿間時夫(1954)の富草断層	
	断層露頭							花崗岩/机山層(伊那層)	NW					
	断層露頭°							花崗岩/机山層(伊那層)・段丘	NW					
	断層露頭°							花崗岩/机山層(伊那層)・段丘	NW					
	[立石]		II					NW	断層露頭°		花崗岩/段丘礫層			SW
	[粒良脇]								断層露頭°		花崗岩/机山層(伊那層)・段丘			W
	[吉岡]								断層露頭°		花崗岩/富草層群			W
	[富草付近]								高度不連続		山地高度			W
[門原－小中尾間]	I	断層露頭	花崗岩/完新統扇状地礫層	W		° 有井琢磨(1959).N26E 18NW ° 有井琢磨(1959).N44E 63N ° 有井琢磨(1959).N60W 74S, E-W 41S ° 有井琢磨(1959).N76E 38N, N20W 42S. 山口勝(1988)によれば, 国道153線沿いに数カ所露頭あり.								
飯田－28	駒場断層 [阿智川右岸]	長野県南部（阿智村会地－伍和）	I	B	7	NE	NW° NW°	断層露頭°	花崗岩/河床礫	<1	NW NW		° 有井琢磨(1959)よりN42E 27N 有井琢磨(1959)よりN30E 60N	
	断層露頭°							花崗岩/机山層						
	直線的な地形境界							山地/古期扇状地						

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)	速度 m/10 ³ 年	
飯田－71	木曾山脈山麓断層群 a [岩間] [高遠原]	長野県南部（木曾山脈東縁）	I	B	35	NS	W	撓曲崖 断層露頭°	沖積面 基盤(花崗岩)	<1	W			° N15E 60Wの断層破碎帯
			I					撓曲崖	段丘面(L1)	2.1	W(15)	0.75		
								撓曲崖	段丘面(H3)	12.5	W(25)	0.2		
	b 岩間断層 [光前寺]		I	B	10			撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(50)	0.36		
									撓曲崖	段丘面(M2)	5.5	W(10)		0.18
									撓曲崖	段丘面(M1)	6.0	W(13)		0.22
	[中田切川] [高尾]		I	B	10			撓曲崖	H2面/沖積面		W(55)			
									撓曲崖	段丘面(M1)	6.0	W(14)		0.23
									撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(60)		0.48
	[千人塚]		I	B	10		W°	撓曲崖	H2面/H3面		W(80)		° 重力探査による推定12W	
									撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(80)		0.57
									撓曲崖	段丘面(L2)	1	W(10)		1.0
c [松川北西方]	I	B	10			撓曲崖	段丘面(H3)	12.5	W(73)	0.58				
							撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(80)		0.57		
							撓曲崖	U1面/M2面		W(120)				
d [山吹]	I	B	10			撓曲崖	段丘面(M1)	6	W(15)	0.25				
							撓曲崖	段丘面(L2)	1	W(<30)				
							撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(<30)				
e 飯田断層 [山吹西方]	I	B	6			撓曲崖	段丘面(U2)	>14	W(30)	0.15				
							撓曲崖	段丘面(H2)	14	W(6)		0.04		
							撓曲崖							

伊那谷断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－71	木曾山脈山麓断層群	長野県南部（木曾山脈東縁）	I	B	4			撓曲崖	U2面/H2面		W(28)			
	f 飯田断層							段丘面(M1)	6.0	W(14)		0.23		
	[月夜平]							段丘面(M2)	5.5	W(12)		0.22		
	[牛牧]							H2面/M1面		W(25)				
	[宮崎]							U2面/H2面		W(22)				
	[柏原]							段丘面(L2)	1	W(7)		0.7		
	[羽場]							段丘面(U2)	>14	W(23)		0.12		
								段丘面(M2)	5.5	W(16)		0.29		
	g[飯田市西方]		I					撓曲崖	M1面/M2面		W(26)			
	h[原]		I					撓曲崖	段丘面(L2)		W(9-5)		0.9-0.5	
	[柏原]		高度不連続					山地/段丘	1				逆断層で変位したテフラ	
			撓曲崖					段丘面(M1)	6.0	W(7)		0.12	° 土石流堆積物の急傾斜40-50S	
			撓曲露頭°											
			撓曲露頭°											
			II					撓曲崖	U2面/H2面					
			撓曲崖					H2面/M1面						
			i[伊賀良西方]						高度不連続	山地斜面				
豊橋－3	下伊那竜西断層°	長野県南部（下伊那郡阿南町）	II	B－C	(4)	NS	W°	高度不連続	山地高度		W			° 飯田－12に続く
								断層露頭°	花崗岩/富草層群		W			° 田上でN14E 55W, 早稲田でN-S 50W

阿寺断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－24	阿寺断層系	岐阜県南東部～ 長野県南部（馬 瀬村－山口村）	I	A	80	NW		高度不連続	阿寺山地・ 美濃飛騨高 原		NE(600 -1200)			
								屈曲 屈曲	木曽川 付知川			L(5000) L(7000)		
	a 阿寺断層 [伝田原]		I	A	35	NW		逆向き低断 層崖	扇状地		SW(5±)			
	[青野原]							高度不連続 断層露頭°	丘陵背面 花崗岩/腐食 土, 崖錐		SW SW			° トレンチ発掘
	[山口村付近]							低断層崖	崖錐性扇状 地		NE(>10)			
								屈曲	上山口付近 の沢			L(20-40)		
	[坂下付近]							断層露頭°	木曽川Ⅲ面	0.23	NE(3)			
								低断層崖	木曽川Ⅱ面		NE(0.3 ±0.1)	L(17 ±0.5)		
								低断層崖	木曽川Ⅲ面	0.5 -1.5	NE(1.75 ±0.3)	L(17 ±0.5)		° Ⅷ面構成礫層
								低断層崖	木曽川Ⅳ面		NE(2.45 ±0.6)	L(17.5 ±0.8)		° N20W 80-85E
				A				低断層崖	木曽川Ⅴ面		NE(3.4 ±0.6)	L(14±4)	1-3	° N30W 80E
								低断層崖	木曽川Ⅵ面	2.7	NE(10 ±1)	L(50±7)		
								低断層崖	木曽川Ⅶ面		NE(10 ±2)	L(90 ±20)		
				A				低断層崖	木曽川Ⅷ面		NE(27.5 ±)	L(140 ±35)	5.2	
								低断層崖	木曽川Ⅸ面		NE(32.6 ±5)			

阿寺断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－24	[松源地]	岐阜県南東部～ 長野県南部（馬 瀬村－山口村）					E° E°	断層露頭	木曾谷層/高 部礫層		NE(32.6 ±5)			Ⅷ面構成礫層 ° N20W 80-85E ° N30W 80E
	[小野沢峠]							断層露頭°	花崗岩/洪積 層					
								断層露頭°	洪積層/沖積 層					
								屈曲	小野沢・横 川谷		NE	L(500)		
								谷屈曲	横川谷の東 支谷		NE(>4)	L(200)		
	[宮脇]							低断層崖	横川谷左岸 段丘		NE(<10)			

阿寺断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考		
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)				
飯田－24	b 萩原東断層 [小和知東方] [小和知] [小郷付近] [小郷水無神社] [舞台峠北方] [三ッ石] [下呂北方] [上呂付近]	岐阜県南東部～ 長野県南部（馬瀬村－山口村）	I	A	20	NW		高度不連続	山麓斜面	1	SW(10 -40)	L(35-50)	1.5-5	° トレンチ調査による		
								低断層崖 断層露頭°	低位段丘Ⅱ 濃飛流紋岩 類/段丘礫層		NE(3) NE(2-3)					
								屈曲 低断層崖 断層露頭	旧中州の縁 低位段丘 濃飛流紋岩 類/斜面堆積 物		1-2				NE(5.5-1 .7) NE	L
											1-2					
								谷屈曲	高位段丘を 刻む谷						L(100)	
			II			NW		逆向き低断 層崖 断層露頭°	段丘面（三 ッ石） 濃飛流紋岩 類/段丘礫層 ・腐食土 稜線	SW(10) NE	L					
								I	NW NS NS NS	屈曲°		L(100)				
										屈曲	稜線				L(100)	
										逆向き低断 層崖	扇状地	E(<10)				
										鞍部の連続	上呂北方の 尾根	E				
屈曲	上呂北方の 尾根		L(100)													

阿寺断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－24	c 下呂断層 [御麩野] [野尻]	岐阜県南東部～ 長野県南部（馬瀬村－山口村）	I	A	18	NW		低断層崖 高度不連続 屈曲	段丘面 稜線高度 稜線・沢		SW(5-10) SW			° 乗政集落の位置する面 ° 片田正人ほか(1961)に地質断層図示 山田直利ほか(1976)命名. トンネル工事で幅540mの破碎帯確認される
	[乗政南方] [下呂] [柿坂峠] [乗政付近]		II				屈曲 屈曲 屈曲 低断層崖	乗政川 益田川 稜線 段丘面°		NE(>10)	L(200 -300) L(>1000) L(>3000) L(300 -400)			
	d 宮地断層 [宮地付近] [大淵東方]		I	A－B	12		逆向き断層 崖 屈曲	山地 筑後川・山地斜面・尾根		SW	L(200)			
	[益田川西岸]		II		WNW	鞍部の連続 鞍部の連続	山地斜面(八尾山) 山地斜面		E E					
	e 萩原西断層° [上呂西方]		I		15	EW NS	逆向き低断層崖 屈曲 鞍部の連続 断層凹地	扇状地 河谷・尾根 山地斜面 山地斜面		E(3-2) E E	L(50-100))			
	f 西上田断層°		I		2	NS	逆向き低断層崖	高位扇状地面		E(5-6)				
	g 下呂西断層		II		3	NW	鞍部の連続	山地斜面		SW				
	h 柿坂断層		II		5	NW	断層鞍部	山地斜面		SW				

屏風山断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
飯田－55	屏風山断層	岐阜県南西部 (恵那山西縁－ 土岐市山神西方)	I	B	32	NE	S° E N°	高度不連続	美濃飛騨高 原/恵那山地		SE			° 有井琢磨(1958)による造崖変 位量 ° 有井琢磨(1958)による造崖変 位量 ° 有井琢磨(1958), E-W 58-65S ° 有井琢磨(1958), N15E 50S ° 有井琢磨(1958), N78E 85N ° 有井琢磨(1958)による造崖変 位量
	[根の上高原]							地層の変位	恵那層		SE(200 -700)			
								高度不連続	土岐面		SE(440 -550)			
	[花無山]							地層の変位	恵那層		SE(540)			
	[恵那東方]							断層露頭°	石英斑岩/恵 那層		SE(300 -400)			
	[大草]							断層露頭°	花崗岩/恵那 層		S			
	[小里]							断層露頭°	恵那層/花崗 岩		SE			
								地層の変位	恵那層		NW			
								°			SE(200 -300)			

福井平野東縁断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
金沢－1 1	剣ヶ岳断層	福井県北部（福井平野東縁）	II	B－C	20	NS	E°	断層崖 断層露頭°	山地高度 新第三紀層		E E			° N20-21E 48E
金沢－1 2	(細呂木断層)	福井県北部（福井平野東縁）	II	B－C	12	NNW		断層崖	丘陵高度		E			
金沢－1 3	(篠岡断層)	福井県北部（福井平野東縁）	II	B	2	NS		低断層崖・逆傾斜	段丘面		E(5)			
金沢－1 4	(松岡断層)	福井県北部（福井平野東縁）	II	B	8	NNW		断層崖 屈曲°	山地高度谷底面		E E			° 西野中付近
金沢－E 1	福井地震断層°	福井県北部（福井平野東縁）			27	NNW		地割れ	水準点・三角点・水田		E(0.7)	L(2)		° 1948年福井地震による。E2も同様。
金沢－E 2	福井地震断層°	福井県北部（福井平野東縁）			8	NNW		高度差	水準点		W			

一志断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
名古屋－2 2	(治田断層)	三重県北部（鈴鹿山脈東縁）	I	B	8	NNW	W°	撓曲崖°	高位断層		W(70)			° 西側に逆向き低断層崖あり [[[° N56-81E 30NW
								撓曲崖	中位段丘		W(7)			
	[麓村]			B				撓曲崖	H1段丘	20	W(>60)		>0.3	
				B				撓曲崖	H2段丘	15	W(>20)		>0.1	
	[丹生川上]°			B				低断層崖	M2段丘	5-8	W(7)		0.1	
								断層露頭°	段丘堆積物		W			
名古屋－2 3	(宇賀断層)°	三重県北部（鈴鹿山脈東縁）	I	B	2	NS		撓曲崖	高位面		W(50-100)			
								逆向き低断層崖	低位面		E(3)			
名古屋－2 4	(田光断層)	三重県北部（鈴鹿山脈東縁）	I	B	2.5	NE		撓曲崖	高位面		W			

一志断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
名古屋－30	藤原岳断層 [石樽]	岐阜県南西部～ 三重県北部（鈴 鹿山脈東縁）	I	B	20	NS		撓曲崖	山地高度		W(1000)			° 船原西方300mに赤色土のある 高位面分布
				B		NS-NNW		高度不連続 断層崖	高位面 山地高度		W(90) W(>570)			
名古屋－31	(新町断層) [新町西]	三重県北部（鈴 鹿山脈東縁）	I	B	2	NS		逆向き低断層崖	中位段丘		E(1-6)			° 変位量は実測値
								逆向き低断層崖	H1段丘	20	E(11)		0.06	
								逆向き低断層崖	H2段丘	15	E(6.4)		0.05	
								逆向き低断層崖	M1段丘	10	E(0.8)		0.01	
名古屋－37	(釈迦ヶ岳断層)° [焼合川]	三重県北部（鈴 鹿山脈東縁）	I	B	4	NNW		断層崖	中位段丘		W(50)			° 並走する二、三の断層あり。 太田陽子ほか(1979)は尾高断層 と命名 ° 副断層落差を含む
								断層崖	M1段丘	10	W(40)		0.4	
								低断層崖	M2段丘	5-8	W(15)		0.2	
								階段状断層崖	山地高度		W W(900)°		>0.2	
名古屋－38	(御在所岳断層)° [湯ノ山東] [湯ノ山南] [湯ノ山温泉駅西]	三重県北部（鈴 鹿山脈東縁）	I	B	5	NS		低断層崖	開析扇状地		W(5)			° 並走する二、三の断層あり。 太田陽子ほか(1979)菰野断層戸 命名 ° 副断層落差を含む
								低断層崖	M2段丘	5-8	W(2)		0.03	
								低断層崖	M1段丘	10	W(15)		0.2	
								断層露頭	東海層群・ 千種層/古生層		W			
								階段状断層崖	山地高度		W(1000) °			

一志断層系

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
名古屋－4 1	(入道ヶ岳断層)° [神明南] [小岐須西]	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I	B	8	NNW		高度不連続 低断層崖 撓曲崖 急斜露頭°	山地高度 開析扇状地 M2段丘 奄芸層群		W(700) W W(15)			宮村学(1981)は菰野－小岐須断層と命名 走向N45E傾斜51E
名古屋－4 2	(鈴鹿坂本断層)°	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I	B	17	NE		高度不連続 低断層崖 屈曲	山地高度 開析扇状地 谷		NW(600) NW(>5)	R		° 東部では北西上がり, 西部では南上がり
名古屋－4 3	(安楽寺断層)	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I	C	4	NS		高度不連続 急斜露頭	山地高度 奄芸層群		W(150)			
名古屋－1 0 1	石榑北山断層° [源太川北岸]°	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I	C	5	NS-NNE E		逆向き低断層崖 断層露頭°	M2段丘 段丘堆積物/ 奄芸層群	5-8	E(1.3) E		0.02	° 太田陽子ほか(1984). 名古屋－2 3 の西側を並走する共役性副断層 東郷正実(1989). N15E 70E
名古屋－4 4	(明星ヶ岳断層)	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	II	C	18	NS		高度不連続	山地高度		W(>200)			

白木・明星山断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
名古屋－4 8	((戸島西方断層))	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I	C	0.4	NNW		逆向き低断層崖	M1段丘面	10	E(4.2)		0.04	
名古屋－5 0	棕本断層 [棕本西方] [棕本北西方]	三重県北部(鈴鹿山脈東縁)	I－II	B	18	NNW		高度不連続 低断層崖° 低断層崖° 急斜露頭°	山地高度 中位段丘 M2段丘 奄芸層群	10	W(700) W(15) W(7.4) W		0.1	° 崖の西で面のたわみを伴う ° 宮村学ほか(1981). 白木・棕本断層の南部分 ° 宮村学(1981). N40-50W 60-70E

白木・明星山断層群

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
名古屋－52	庄田断層	三重県中北部 (久居市庄田)	I	B	2	NNE	N° N°	低断層崖	羽野市		W(8.3-9)			° 八木浩司ほか(1980).断層面 N60E 45N ° 八木浩司ほか(1980).逆断層 面 N60E 60N
								低断層崖	諸戸山面		W			
								低断層崖	久居面		W(7.5-7.8)			
								断層露頭°	段丘礫層/一志層群		W(7.2)			
								断層露頭°	段丘礫層/一志層群		W			
名古屋－95	白木断層	三重県中北部 (亀山市西方白木)	I		1.5	NS		断層崖	H2段丘		W(10)			
伊勢－4	小山断層	三重県中北部 (一志町)	II	C	3	NS		高度不連続	山地高度		W(100)			
								低断層崖	中位段丘		W(5)			
伊勢－5	島戸断層 [岩内]	三重県中北部 (松坂市西方)	I	C	8	NS	W°	高度不連続	山地高度	20	W		0.06	° 30-40W
								高度不連続	高位段丘		W(13)			
								断層露頭°	一志層群/礫層°		W			
伊勢－6	山口断層	三重県中北部 (松坂市西方)	I	C	3	NS		高度不連続°	山地高度 花崗岩/段丘		W			° 基盤と一志層群の境界
								断層露頭	礫層		W(15)			

比良断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
名古屋－98	比良断層°	滋賀県中西部 (琵琶湖西岸)	II	B	(2.5)	NE		高度不連続	山地		N			° 京都及び大阪－6にく続

比良断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
京都・大阪－6	比良断層° [北小松以北] [鶴川] [大物以南]	滋賀県中西部 (琵琶湖西岸)	I	B	(16)	NE		断層崖 高度不連続 地下資料° 断層崖	山地高度 開析扇状地 開析扇状地 山頂小起伏面	3	NW NW(>500) NW(16) NW(>900)		0.5	° 村井勇ほか(1955)には比良東断層として記載 ° ボーリングにより崖錐を切る断層確認

生駒断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
京都・大阪－5 2	生駒断層° [石切] [忍岡坪井]	大阪府東部(生駒山地西縁)	I	B	(7)	NE		断層崖 地下資料 断層露頭° 地下資料°	山地高度° 基盤高度 花崗岩/大阪層群° 大阪層群高位段丘層		E(300 -400) E(600) E			° 和歌山－8に続く ° 生駒山頂は残丘 ° N-S 60E ° 花崗岩中に幅200mの破碎帯 ° N-S ° 40W ^ 20W
和歌山－8	生駒断層° [恩智] (玉手山断層)	大阪府東部(生駒山地西縁)	I	B	(14)	NS		断層崖 高度不連続 断層露頭°	山地高度 高位段丘 二上層群/ 大阪層群	20	E(>300) E(>20)		0.1	° 京都及び大阪－5 2に続く ° 二上層群が大阪層群上に低角度で衝上

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
和歌山－ 3	三百断層° [白川池]	奈良県中北部 (天理市)	I	[C]	7	NS		高度不連続 断層露頭°	丘陵高度 藤原層群/大阪層群下部		E			° 虚空蔵山礫層に覆われる N10E 90
和歌山－ 4	天理撓曲° [鹿野園] [帯解] [和爾]	奈良県中北部 (天理市)	I	B	7	NS		撓曲	大阪層群下部		E			° 奈良盆地東縁で最も活動的 ° 寒川旭ほか(1985)に記載. 低段丘も変位を受けている. ° 吉川周作(1973)の羽曳野背斜と富田林向斜を合わせたもの ° 大阪層群上部も参加
								撓曲崖	中位段丘	10-15	E(13-14)		0.1	
								高度不連続	中位段丘	10	E(5)		0.05	
								高度不連続°	中位段丘	5-8	E(13-14)		0.2-0.3	
和歌山－ 1 3	羽曳野撓曲°	大阪府南東部 (羽曳野市－河内長野市)	I	B	14	NNE		高度不連続 地層急斜°	丘陵高度 大阪層群		W W			

葛城断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
和歌山－ 1 4	葛城東麓断層群	奈良県中西部 (金剛断層東縁)	I	B	6	NS		低断層崖 地層急斜	丘陵高度 大阪層群		W			
和歌山－ 1 5	(葛城断層)	奈良県中西部 (金剛断層東縁)	II	B	7	NS		断層崖	山地高度		W(500)			

上町断層

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
京都及び大阪－ 5 3	上町断層 [湊川] [OD－1・2]	大阪府中部（大 阪市）	I	B	(5)	NS		地下資料 地層撓曲 深層ボーリ ング° 深層ボーリ ング°	大阪層群 大阪層群上 部° 大阪層群Ma3 基盤高度	90	E(350) E(>800)		0.4	° 和歌山－9 に続く 近鉄難波地下鉄工事の際に竹中 ・藤田により発見された OD-1号は港区, なおD-2は上町台 地上のボーリング 反射法弾性波探査も実施
和歌山－9	上町断層°	大阪府中部（大 阪市）	I	B	(1.5)	NS		地下資料 地下急斜°	大阪層群 大阪層群		E			° 京都及び大阪－5 3 に続く ° 近鉄地下鉄工事の際, 大阪層 群急斜観察

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
甲府－1 6	中央構造線° [北部] [南部]	長野県南東部 (高遠町－上村)	I III I	C C	(50)	NNE NNE		断層露頭 屈曲 屈曲 屈曲 屈曲 屈曲 屈曲・高度 差 屈曲	火山灰（P m－I） 尾根° 尾根° 尾根° 谷° 谷° 谷° 谷°	8	E(4) E(35)	R(90) R(60) R(50) R(90) R(40) R(55) R(10)	0.05	° 飯田－1 3 に続く ° 大鹿村大沢南側 ° 大鹿村勘馬沢北側 ° 大鹿村深ヶ沢北側 ° 上村蛇洞沢 ° 上村北沢上村小沢 ° 上村漆平沢
飯田－1 3	中央構造線°	長野県南東部 (上村－南信濃 村)	I	B	(12)	NNE		屈曲	山地内の谷 ・尾根°			R(40-140)		° 甲府－1 6, 豊橋－1 に続く ° 遠山川及び上村川の支流

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
豊橋－1	中央構造線°	長野県南東部～愛知県東部（南信濃村－鳳来町）	I	C	(25)	NE	S°	屈曲 溝状凹地° 断層露頭°	尾根・谷 山地斜面 信楽層群／ 圧砕岩類			R(100-400)		° 飯田－1 3 に続く° 奥領家－水窪間 ° 大沼付近 ° 70-80S ° 寒狭川東岸, 走向N68Eで幅約1 mの未固結断層粘土を伴う
伊勢－3	中央構造線°	三重県中部～奈良県東部（玉城町－東吉野村）	II	C	(40)	EW								° 和歌山－5 に続く ° 選択的侵食による可能性もある
	a（多気断層）		II	C	20	EW		高度不連続	山地高度		N(100)			
	b		III		(40)	EW		高度不連続	山地高度		N(500)°			
和歌山－5	千股（衝上）断層° [鷺家－小名] [大淀町馬佐]	奈良県東部～和歌山県北東部（東吉野村－橋本市）	I	[C]	(30)	EW	N°	高度不連続 屈曲° 断層露頭°	山地・丘陵高度 谷 和泉層群／ 大阪層群下部°		N(400)			° 伊勢－3 に続く ° Kaneko, S. (1966)に2kmに及ぶ河川の右ズレの記載有り E-W 40N ° 五条層に覆われる
和歌山－2 2	五条谷断層	和歌山県北部（和泉山脈南縁）	I	A	22	ENE		高度不連続 屈曲	山地・丘陵高度 谷・尾根		N(>300)	R(20-1375)		
和歌山－2 3	中央構造線 [菖蒲谷]	和歌山県北部（和泉山脈南縁）	I	[C]°	22	ENE	N°	高度不連続 断層露頭	山地丘陵高度 和泉層群／ 菖蒲谷層		N°			° 千股断層と同じく第四紀中期以降活動停止 N45-55E 35-45N
和歌山－3 2	根来断層 [菩提峠]	和歌山県北部（打田町－和歌山市）	I	A	20	ENE		断層崖 屈曲 高度不連続 断層露頭	山地高度 谷・尾根 段丘面 和泉層群／ 菖蒲谷層		N(300) N S	R(30-1480)	0.9-3.1 0.1-0.4	

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ(km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備考
											上下成分 隆起 (m)	横ズレ 成分 (m)		
和歌山－33	桜池断層°	和歌山県北部 (打田町－粉河町)	I	A	2	ENE		高度不連続 屈曲	丘陵高度 谷		N	R(70-200)		° 根来断層と五条谷断層の中間に入る
和歌山－S2	紀淡海峡断層群°	紀淡海峡	II					音波探査記録による断層°	第四紀層					° 海上保安庁水路部(1978)・徳島－S1に続く
徳島－12	中央構造線活断層系°	兵庫県南部～徳島県北東部(淡路島南部～美馬町)	I	A	(95)	ENE					N	R		° 岡山及び丸亀－4に続く° N50E 50-60W
	a 油谷(衝上)断層		I	[C]	10	ENE	W°	断層露頭°	和泉層群／大阪層群		N			
	[灘]		II					断層崖	山地高度		N(600)			
	[油谷南西]		I			NE	S°	断層露頭°	和泉層群／淡路層群		N			
	b 鳴門断層		I	A	12	ENE		断層崖			(300)			
	c 神田断層		I	A	15	ENE		断層崖	山地高度		N	R		
	[引野北方]			A				断層崖	山地高度		N			
	[神田]			B				屈曲 低断層崖	山地高度 谷		N(数)	R(400)		N40E 85SW
	d (引野断層)		II		3	ENE		断層崖	低位段丘面		N			
	e (宮川内断層)		III		11	ENE		断層崖	丘陵高度		N			
	[宮川内]							屈曲	丘陵高度 谷・尾根			R		
	f 上浦断層°		I	B	10	EW		断層崖			S			岡田篤正(1970), 須鎗和己ほか(1968)の断層として図示
	[上浦]			B				屈曲	山地・丘陵高度					
	[麻植]			B－C				高度差	谷・尾根 地層境界		S(10数)	R(400)		
	g (西月ノ宮断層)		II		7	EW		断層崖	丘陵高度		N			岡田篤正(1970) 寺戸恒夫(1967), 須鎗和己ほか(1965)の中須賀断層
	[船戸原]							屈曲	谷			R(90)		

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
岡山及び丸亀－ 4	中央構造線活断層系° a (井坪断層)	徳島県北西部 (三好郡吉野川 流域)	I II	A	(27) 7	ENE ENE		断層崖	山地高度		N N	R		° 徳島－12, 高知－2 に続く
	[井坪] b 三野断層		I	A	(4)	ENE		屈曲 屈曲 低断層崖 断層露頭° 断層露頭°	谷 尾根・谷 市場面° 和泉層群 和泉層群/ 更新統		N(10-12) N N(>20) N	R R(>100)		° 岡田篤正(1970)の市場 面相当, 2万年前頃 ° 断層破碎帯 ° 中川典(1964). EW 30N
	[太刀野] [太刀野] c 芝生衝上° d 池田断層		I I	A	0.2 (23)	EW ENE	V N°	低断層崖 屈曲	州津面 段丘面を刻 む谷		N(25) (>15)	R(70)		° 岡田篤正(1968) N82E 7 0N ° 岡田篤正(1968)の州津 面を覆う扇状地
	[台] [台]						N°	低断層崖 断層露頭°	州津面 和泉層群/ 結晶片岩 扇状地面°	3° 3°	N(5-8)	R(45)	1.7	° 岡田篤正(1968)の池田 面の基底 ° 岡田篤正(1968)の池田 面側方の崖 ° 岡田篤正(1968). N80E 60-90Nで断層面もほぼこれに平 行するらしい
	[昼間橋] [東州津] [東州津]							低断層崖	谷 礫層基底° 侵食崖°		N(50)	R(>200°)	7	° 岡田篤正(1968)の2595 0炭素14C年代と測定された地 層
	[池田] [池田]			A A			N°	屈曲 高度不連続 食い違い	シルト質層 .. 緩斜面・段 丘面 和泉層群	2.5	N N			
	[下馬路]							急斜露頭°						
	e (箸蔵断層)° [州津]		I	B	5	ENE		鞍部列 断層露頭						

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高知－2	中央構造線° [土井町－川之江市]	愛媛県東部（川 之江市－周桑郡 ）	I	A B A	(70)	ENE		断層崖 屈曲	山地高度 高位段丘を 刻む谷	20-30	S S(1200-1 600)	R R(700-80 0)	4 0.4-0.8 2.3-4	° 岡山及び丸亀－4, 松山－3 に続く
	a 池田断層 [岡] [田尾] [椿堂南]		I	A A A	(8)	ENE	S°	断層崖 食い違い 食い違い 断層露頭°	山地高度 段丘崖° 段丘崖° 結晶片岩/ 和泉層群		S(>350)	R(350) R(>350)		° 高位段丘下位面 ° 高位段丘下位面 ° N80E 40S
	[金田]			A			S°	屈曲 トンネル内 の断層露頭° 断層露頭°	谷 結晶片岩・ 和泉層群/ 角礫岩層 和泉層群/ 角礫層		S	R(800)		° 長井浩三（1973）. 角礫 岩層が楔状に挟在 ° N78E 60S
	[八戸西]													

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高知－2	b 石鎚断層	愛媛県東部（川之江市－周桑郡）	I	A	30	ENE		断層崖	山地高度		S	R	4	N82E 40N
	[伊予三嶋市光明]			B				断層露頭°	結晶片岩／和泉層群°		S(1200-1600)		0.4-0.8	
	[土井町畑野°]			A			N°	屈曲	高位段丘を刻む谷	20-30		R(550-600)	2-3	
	[土井町東森]			B				低断層崖	低位段丘面	数	S(22)			
	[土井町入野]			A			N°	屈曲	尾根・谷		S	R(10-20)		
	[蒲山川河床]						N°	断層露頭°	結晶片岩／和泉層群					
							N°	断層露頭°	安山岩質入岩／和泉層群°					
				B				低断層崖	低位段丘中一下位面		S(4-6)			
	[西谷川河床]						N°	断層露頭°	結晶片岩／和泉層群°					
	[内ノ川]			B				低断層崖	中段段丘下位面	8-10	S(20)		0.2	
	[市場川河床]			A				屈曲	下位面を刻む谷	8-10		R(350)	3.5-4.4	
	[新居浜ゴルフ場]		II					溝状凹地°	土石流扇状地°	0.18	S			
			I	B				低断層崖	沖積面		S(2-3) S(7-8)			
				B				低断層崖	低位段丘下位面		S(20-27)			
				B				低断層崖	低位段丘下位面		S(>数10)			
	[御蔵]			B			N°	断層露頭°	結晶片岩／高位段丘層		S			
	[出口]			B－C			N°	断層露頭°	結晶片岩／低位段丘層		S			
	[小河谷河]			B－C			N°	断層露頭°	結晶片岩／段丘礫層		S			
														1860年B.P.以降の活動
														N65E 50N N87E 34N N76E 45N 東西両端で上下変位の向きが異なる

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高知－2	c 寒川断層°	愛媛県東部（川 之江市－周桑郡 ）	I	B				低断層崖	段丘面		S-N°			
	[寒川駅南]		II	B				低断層崖	低位段丘面		N(数)			
	[大町]		I	B				低断層崖	低位段丘上 位面		S(15)			
	[高塚]			B				低断層崖	中位段丘下 位面		S(17)			
	[岡銅]			B				低断層崖	中位段丘上 位面		S(30)			
								低断層崖	高位段丘面 低位段丘面		S(35)			

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考		
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)				
高知－2	d (東大道断層) e 畑野断層	愛媛県東部 (川 之江市－周桑郡)	I I	B A B A B B B	0.5 5.5	ENE ENE		低断層崖 低断層崖 屈曲	低位段丘面 段丘面 高位段丘面 を刻む谷	20-30	S(数) S S	R	0.5-1	° 稲見馬治郎 (1975), 稲 見馬治郎 (1978) により地 質断層確認. 大部分侵食崖と思 われる 永井浩三 (1955), 辻村太 郎ほか (1934) の岸の下断 層. 永井浩三ほか (1972) の神戸断層に同じ		
	[木ノ川] [田尾] [畑野]										S(55) S(2.4) S(4.5)	R(150-20 0)				
	f 東田断層° [北野－大谷]		III		7.5	ENE		低断層崖 低断層崖 低断層崖	高位段丘面 低位段丘面 低位段丘3 面							
	g 岡村断層°		I	A B	20	ENE		鞍部列 直線状崖	山地 山地未満		N S					
	[萩生]		II I	B B B B B B A				断層崖	山地高度		S(210-27 0)					
	[戸屋ノ鼻]			B B B B B B A				低断層崖 低断層崖 低断層崖 低断層崖 低断層崖 低断層崖 低断層崖	冲積面 冲積段丘面 低位段丘面 中位段丘面 高位段丘面 冲積段丘面 中位段丘面 高位段丘面		2.3	S(3) S(6) S(13-16) S(23) S(30) S(5) S(25) S(33)				
	[飯岡] [加茂川出口]			B B B B				断層露頭° 低断層崖 低断層崖 高度不連続 高度不連続 高度不連続	冲積層° 冲積面 高位段丘面 中位段丘面 高位段丘面 最高位段丘 面			S(1) S(9+) S(31) S(60) S(93)				
	[小松南]		I				S° N°	断層露頭°	和泉層群／ 岡村層°			S(>10数)				
	[大谷池南]							断層露頭°	和泉層群／ 岡村層°			S(>70)				永井浩三 (1955). E-W 80S 岡田篤正 (1973). N81W 68 N

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確 実 度	活 動 度	長 さ (km)	走 向	傾 斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
高知－2	h 小松断層 [南川]	愛媛県東部（川 之江市－周桑郡 ）	I		3	EW		急斜露頭 断層露頭°	岡村層 大谷池層／ 岡村層°		S S			° 高橋和（1976）. N74E 63 N. 南川断層と同じ
	[大谷池] i（小松北断層） j 川根断層		II II	B B	0.5 3	EW NNE		断層崖 逆傾斜 直線状凹地	丘陵高度 中位段丘面 山地・沖積 面		S(>100) S(>20) W			
	k 川上断層 [湯谷口]		III I		(2)	ENE ENE	V°	食い違い 断層露頭° 低断層崖	岩本の境界 線 和泉層群／ 沖積層・中 位段丘礫層° 中位段丘面		S	L(1000)		° 岡田篤正（1972）. 断層 面 N74E 90
				A B							S(>15)			

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
松山－3	中央構造線活断層系° a 川上断層	愛媛県中部（松山市－伊予市）	I	A	(40)	ENE		断層崖 屈曲 屈曲 急傾露頭°	山地高度 谷 谷 地層°		NW-SE°	R		° 高知－2に続く 川上断層部ではNW側, 伊予灘断層部ではSE側隆起
	[添谷・本谷川]		I	A	(11)	ENE					NW	R		
	[松瀬川]		II	A							NW(>300)	R(600-900)		
	[原]		I	B							NW	R(100)		
	b 北方断層°		I	A	3.8	EW		鞍部列 低断層崖 低断層崖 低断層崖 低断層崖	尾根 高位段丘面 中位段丘面 低位段丘面 扇状地面		N	R		° 中川哀三（1958）の古期崩積－段丘堆積層 ° 川上断層のすぐ南を雁行状配列で並走 N40E, 60NW. 断層面上に10° 東下りの条線 N40-47E, 68-71N 岡田篤正（1972）, 高橋和ほか（1972）の高野川層（31250炭素14C年代永井浩三未公表資料））堆積面 緒方正虎（1975）のスーパーカー調査 岡田篤正（1972）. N50E, 80±N ° 75NWで急斜
	[宝線]		I	B－C							N(15-20)	R		
			II	B							N(5-10)	R		
	[北方]		I	B－C							N(3)	R		
											N(1.5-2.8)			

中央構造線

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速 度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
松山－3	c 伊予断層°	愛媛県中部（松山市－伊予市）	I	A	>14	NE		断層崖	山地高度		SE	R		° Saito, M. (1962), 永井浩三 （1954）に図示, 北部と南部で上下変位の向きが異なる

高城－月ヶ平撓曲

図幅－断層番号	断層名	分布位置	確実度	活動度	長さ (km)	走向	傾斜	断層形態	変位基準	年代 10 ⁴ 年	断層変位		平均変位 速度 m/10 ³ 年	備 考
											上下成分 隆 起 (m)	横ズレ 成 分 (m)		
文献資料	月ヶ平断層	大分県東部（大分市南部）			2.5°	E-W	N				(70)			本資料は1989年日本第四紀学会大会講演要旨集に基づく。 ° 断層の長さは文献資料から図読したもの。 月ヶ平断層は東西走向・北落ちの正断層で, 大分層群上部を変位させている。その垂直変位量は最大70m程度である。また, 高位段丘層を変位させてる可能性がある。